ISSN 2186-7763

創立90周年
記念号

おきなわ薬剤師会報

No.285.　2016(平成28年)　12月号

沖縄県薬剤師会

／目／次／

表　　彰	厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰（吉田久子先生）	(1)
創立90周年記念	沖縄県薬剤師会創立九十周年記念祝賀会……大城　喜仁	(2)
	沖縄県薬剤師会創立九十周年記念祝賀会における会長挨拶……亀谷　浩昌	(4)
創立90周年記念特別寄稿	沖縄県薬剤師会創立90周年に寄せて……新垣　正次	(5)
	沖縄県薬剤師会創立90周年に寄せて……大城　桂子	(6)
	創立90周年を迎えて……神村　武之	(8)
	想い出二話……山城　志津	(10)
沖縄学術大会	第30回沖縄県薬剤師会学術大会開催……外間　惟夫	(12)
	第30回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム	(14)
	第30回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告……姫野耕一・吉冨弓江	(22)
	第30回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞講演要旨	(23)
薬と健康の週間	薬祖祭（波之上宮本殿）……大城　喜仁	(25)
	くすりと健康フェア～県民公開講演会「心身ともに健康」～……前濱　朋子	(26)
	街頭キャンペーン	(29)
告知ポスター	……	(30)
学術研修	健康食品・サプリメント研修会報告……金城絵理子	(31)
	健康食品・サプリメント研修会の講師を務めて 玉城武範・盛本直也・阪本崇彰・名嘉紀勝	(33)
医薬分業	平成28年度FAXコーナー担当者意見交換会報告……川上雄一朗	(36)
	FAXコーナー担当者意見交換会に参加して 屋嘉比康太・荷川取真津枝・野原千寿子・安里和美・玉那覇和美・友利洋子・糸数幸代・中村直子・崎濱祐美子	(38)
実務実習	平成28年度Ⅱ期薬学生実務実習報告……我喜屋美香	(43)
	実務実習薬学生　平成28年度Ⅱ期生からの体験記・感想 端山一彦・髙安結・木村奈美・島袋真実・新川祐作・新川真樹子・鉄本愛・照屋えり・福家成美 玉城愛梨・照屋華凜・河邊結子・有銘千賀子・池間瑞葵・徳嶺光市・我喜屋あかね	(44)
女性薬部会	女性薬剤師部会主催 第19回漢方講座報告……大屋　三登	(54)
日薬大会	第48回日本薬剤師会学術大会（名古屋大会）参加報告……神山　侑子	(56)
月例相談会	第136回健康とおくすり相談会報告	(57)
	第137回健康とおくすり相談会報告……仲宗根かおり	(58)
寄　　稿	ジェネリック医薬品使用促進に係る講演について……大橋　　隆	(59)
投　　稿	「ツール・ド・おきなわ」にシャペロンとして参加……小島　　進	(60)
啓発・普及活動	南城市立小中学校養護教諭向け「医薬品の取り扱い方」学習会報告……野原　文恵	(62)
DI	薬事情報おきなわ №242……薬事情報センター	(63)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報	(71)
薬草学	身近な薬草を知ろう 第29回 センダン……狩俣　イソ	(72)
医療機関・施設訪問	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院……鈴木　一徳	(74)
リレー随筆	宗教勧誘のお話。……宮城　勇己	(76)
転載記事	県薬剤師会創立90周年祝う	(78)
	薬物乱用防止運動沖縄地区大会で吉田久子先生が厚労省医薬・生活衛生局長表彰を受賞	(78)
	薬物乱用防止協会に薬局2団体が寄付	(78)
	県民公開講演会 高山医師が訴え	(79)
	薬と健康の週間 県民公開講演会開催の広報	(79)
	寄稿「かかりつけの薬局で相談を」……村田美智子	(80)
	論壇「お気に入り薬局を見つけよう・生涯の健康パートナーに」……佐藤　雅美	(81)
理事会	平成27年度第13回定例理事会議事概要	(82)
	平成28年度第1回定例理事会議事概要	(89)
	平成28年度第2回定例理事会議事概要	(96)
	平成28年度第3回定例理事会議事概要	(104)
年間目次	おきなわ薬剤師会報 平成28年もくじ（通巻280号～285号）	(113)
会務報告	平成28年11月分	(125)
	薬剤師連盟会務報告（平成28年11月分）	(127)
訃　　報	故 桑江由利子先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます	(127)
一包一話	『ゆんたく・琉球八社』……橋　の　下	(128)
会員作品	誌上ギャラリー（裏表紙）について	(130)
編集後記	……	(130)
お知らせ	平成28年度沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内	(1)
	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！	(55)
	会報原稿募集のご案内	(61)
	沖縄県薬剤師会 Ｆａｃｅｂｏｏｋスタートしました！	(95)
	県薬が会員に販売している印刷物等	(112)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について	(127)

・表 紙

琉球子ども舞踊集団「童夢 花わらび」

題字：豊平峰雲（とよひらほううん）

沖縄県薬剤師会創立90周年記念祝賀会にて、伝統舞踊と、奥ゆかしさ・可愛らしさ、笑いもあるアップテンポな舞踊を披露し、会場を華やかな雰囲気にした。

厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰

吉田 久子先生　おめでとうございます

第22回麻薬・覚せい剤乱用防止運動沖縄地区大会
期日：平成28年11月21日(月)　　会場：浦添市てだこホール

平成28年度 沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内

日時：平成29年1月15日(日)　午後6時～
会場：ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 白鳳の間 (2階)

【日本薬剤師会賞】	神村　武之氏
【薬事功労者厚生労働大臣表彰】	下地　仁氏　米村　一成氏
【学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰】	村田美智子氏
【日本薬剤師会有功賞】	宜野座安伸氏　平尾　秀子氏
【沖縄県薬事功労者知事表彰】	新垣　秀幸氏
【厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰】	吉田　久子氏
【那覇市制施行95周年記念特別表彰】	太田　節子氏　渡嘉敷　見氏
【沖縄県薬剤師会創立90周年特別表彰】	神村　武之氏　松山　朝雄氏　山城　志津氏
【沖縄県薬剤師会長表彰】	神谷　朝雄氏　仲座　方利氏　川平　浩子氏
	武富　弘益氏　松本　圭五氏　方　智子氏
【沖縄県学校保健会長表彰】	宮里　眹子氏　小波蔵廣美氏　渡慶次美保子氏
【沖縄県公衆衛生大会長表彰】	村上　市子氏

※祝賀会チケットをお求めの方は、沖縄県薬剤師会事務局、または地区薬剤師会までご一報ください。

沖縄県薬剤師会創立

オープニングセレモニーは、花わらびが伝統舞踊を披露

来賓挨拶
砂川 靖 氏

来賓挨拶
藤田 次郎 氏

来賓挨拶
乾 英夫 氏

乾杯の音頭
安里 哲好 氏

開会の辞
江夏 京子 副会長

閉会の辞
外間 惟夫 副会長

大正13年に設立した本会は、先の大戦をはさんで会名称を何度か変遷し、他薬剤師会には無い多様な歴史を辿りながら、今年の10月10日、創立90周年を迎えた。

平成28年11月6日（日）に開催された第30回沖縄県薬剤師会学術大会の終了後、沖縄県薬剤師会創立90周年記念祝賀会が学術大会実行委員の宮城幸枝氏の司会のもと、沖縄県薬剤師会館ホールで午後6時45分から開催された。会館ホールは普段の研修会場から趣を変え、紅白幕で煌びやかに装飾されていた。120余人の多くの関係者および招待者が参加し盛大な宴となった。

祝賀会のオープニングセレモニーは、琉球子ども舞踊集団「童夢　花わらび」が伝統舞踊を披露し、会場を華やかな雰囲気にした。

江夏京子副会長による開会の辞、亀谷浩昌会長の主催者挨拶のあと、乾英夫日本薬剤師会副会長、藤田次郎琉球大学医学部附属病院長、砂川靖沖縄県保健医療部長からお祝いのお言葉を頂いた。続いて、安里哲好沖縄県医師会会長による乾杯の音頭の後、美味しい料理を頂きながら賑やかな懇談が始まった。

懇談も半ば、表彰式に移り、本会の発展に大いに寄与して頂いた神谷朝雄、仲座方利、松本圭五、川平浩子（欠席）、武富弘益（欠席）、方智子（欠席）の6氏が亀谷浩昌会長から表彰され、受賞者を代表して神谷朝雄氏が挨拶をされた。また、創立80周年以後のこの10年間で特にご尽力頂いた神村武之、山城志津、松山朝雄（欠席）の3氏が本会創立90周年を記念して特別表彰され、3氏を代表して神村武之氏が挨拶をされた。

再び、花わらびが余興で登場し、奥ゆかしさと可愛らしさ、笑いもある舞踊で熱くなった会場を静め、和やかにした。

外間惟夫副会長の閉会の辞で、創立90周年記念祝賀会は幕を閉じた。

（文：沖縄県薬剤師会事務局　大城 喜仁）

九十周年記念祝賀会

祝賀会次第

司会　第30回学術大会実行委員　宮城 幸枝

○幕開け　童舞“花わらび”

1. 開会の辞　沖縄県薬剤師会副会長　江夏 京子
2. 会長挨拶　沖縄県薬剤師会長　亀谷 浩昌
3. 来賓挨拶　沖縄県保健医療部長　砂川 靖
   琉球大学医学部附属病院長　藤田 次郎
   日本薬剤師会副会長　乾 英夫
4. 乾杯　沖縄県医師会長　安里 哲好
5. 表彰式
6. 余興　童舞“花わらび”
7. 閉会の辞　沖縄県薬剤師会副会長　外間 惟夫

◇◇◇ 受賞者 ◇◇◇

【創立90周年記念特別表彰】

神村 武之
松山 朝雄
山城 志津

【沖縄県薬剤師会長表彰】

神谷 朝雄
仲座 方利
武富 弘益
川平 浩子
方 智子
松本 圭五

沖縄県薬剤師会会長表彰
左より、仲座 方利 氏、神谷 朝雄 氏、松本 圭五 氏

創立90周年記念特別表彰
神村 武之 氏と 山城 志津 氏

司 会
宮城 幸枝 氏

来賓・受賞者席

沖縄県薬剤師会 創立九十周年記念祝賀会における会長挨拶

本日は、本会の創立90周年記念祝賀会の開催にあたり、かくもたくさんの皆様のご来臨を賜り、誠にありがとうございます。これもひとえに、皆様のご支援、ご協力によるものであります。厚く御礼申し上げます。

本会は1893年（明治28年）に日本薬剤師協会が設立されたのに遅れること33年の1926年（大正16年）に設立されました。今年で創立90周年となります。これまでいろいろな出来事がありました。太平洋戦争によって沖縄県は焦土となり、人材は失われ、本会の組織も機能しなくなりました。終戦後の1947年（昭和22年）に本会は再建されましたが、沖縄はアメリカの統治下にあり、会の名前は沖縄郡島薬剤師会となり、会員は29人でありました。その後、名称は琉球薬剤師協会、琉球薬剤師会と変遷し、1972年（昭和47年）の復帰に伴い、社団法人沖縄県薬剤師会に改称されました。

学術大会について述べますと、1983年（昭和58年）に第1回沖縄県薬剤師会学術大会が開催され、今回の第30回大会へつながっています。

これまでの先人たちの歴史を受け継ぎ、これからも力を合わせて本会を発展させ、国民の皆様に、医療チームの仲間にも「薬剤師がいて良かった」と言ってもらえるよう頑張っていきます。本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様、本会に対して、これからも変わらぬご理解ご協力をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

結びになりますが、ご列席の皆様のさらなるご活躍を心より祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

会長　亀谷 浩昌

創立90周年記念
特別寄稿

沖縄県薬剤師会創立90周年に寄せて

第十五代会長
新垣 正次

この度、沖縄県薬剤師会（以下、県薬）の創立90周年にあたり、県薬広報委員会から、過去に県薬の組織運営に関わった者の一人として一筆寄稿してくれとの依頼を受けたので、県薬との関わりの中で思いつくままに少し述べてみたい。

一等最初に私の脳裏に浮かぶのは「医薬分業」との関わりである。私が県薬の役員（専務理事）になったのが、本土復帰1年後の昭和48年であった。その頃の県内の医薬分業状況は、草創期の段階であり、年間2,000枚程度の処方箋しか発行されていない時期であった。その後、昭和49年に入って、当時の日医会長であった武見太郎の鶴の一声で、院外処方せん発行料が100円から500円に引き上げられて、医師サイドの処方せん発行の環境が好転し､分業元年とも言われた。しかし当時は、薬価差益がまだ大きかったので、開業医による処方箋発行には、時期尚草の感もあった。しかも、その頃は、医薬分業の黎明期とは言いながら、県内薬剤師の分業に対する関心度は低く、開局薬剤師の殆どが、OTC薬の販売で生計を立てていたので、当方が医薬分業の意義を強く唱えても、馬耳東風、無関心の極みであった。まさに、医薬分業への井戸掘の苦労を味わった時期でもあった。その後、日本薬剤師会（以下、日薬）主導による医薬分業推進の全国的な広がりを受けて、本県の医薬分業も徐々に進展するようになってきた。平成に入って、厚生省の指導で、国立病院の院外処方箋発行促進が計られ、処方箋発行も大きく進展の兆しが見えてきた。平成分業元年とも言われた時期である。本県でも、「琉大病院」や「とみしろ中央病院」等が次々と院外処方箋の全面発行がなされ、その対応に追われつつ、会営薬局「うえはら」と「とよみ」を開設して対応した経緯がある。その後、沖縄県立病院、那覇市立病院、赤十字病院など公立病院が次々と院外処方箋発行に踏み切り、次いで開業医の処方箋発行も増加して行った思いがする。

次に、想起されることは、「第43回九州山口薬学大会」（昭和51年）と「第17回日薬学術大会」（昭和59年）の沖縄県開催である。特に、九山薬学大会については、初めての大きな九州ブロック大会だったので、その準備には試行錯誤しながら難渋した思いが強く残っている。又、日薬の学術大会については、大会準備中に、當山忠則会長が体調を崩し、琉大病院へ短期間ではあったが入院したので、その間、長嶺義仁副会長と共に、受け入れ準備に東奔西走した想いがある。

その他に強く印象にあるのは、私が会長在任中の平成8年11月に、本会創立70周年記念式典を沖縄ハーバービューホテルに於いて、当時の日薬会長である吉矢佑会長と石井道子参議院議員（当時の環境庁長官）をはじめ、多くの来賓出席のもとに盛大に挙行できたことである。そして、翌9年には創立70周年記念の「県薬70年史」を発行したことである。あれから20年、剤界の環境も幾多の変遷を経て､今日では県薬の会員も1300名以上に増え、医薬分業率も80％近い状況にあるとのことに、感慨無量なるものを覚える。今後、100周年に向かって、県薬が、益々、専門職能団体として、社会の要請に即応できる組織として、向上発展して行くように切に祈念申し上げ、駄文を擱筆す。

創立90周年記念
特別寄稿

沖縄県薬剤師会創立90周年に寄せて

第十七代会長
大城 桂子

沖縄県薬剤師会（以下、県薬）創立90周年をお祝い申し上げます。

日本復帰後の昭和51年、沖縄県で初開催された九州山口薬学大会で女子薬剤師部会（以下、女子薬）が発足されて以来、40年近く会と関わってきました。

女子薬の発足と発展

女子薬会長時代、当時500人の薬剤師会員の約70％が女性で、しかも過半数が団塊の若い層でした(20 ～ 30代)。先決の問題として、お互いの連携をとり､結束を図ることでした。島内、離島を巡り、会員の絆を深めて、大きな輪に繋げました。

次に、医薬分業の啓蒙活動を始めました。当時は､薬剤師でも分業に対する認識が薄く、薬局ではOTC薬販売が主流でした。復帰前は、国民皆健康保険制度が徹底されていなかったという県の事情もあり、地域の保健は､「くすり屋」が担っていたと云えましょう。女子薬では医薬分業の意識調査のため、医師（病院､開業)､歯科医師､薬剤師､患者等に対し、アンケート調査を始めました。結果をデータ化し、本土の先進県4 ～ 5 ヵ所を視察して得た資料も参考にスライドを作成し、医師や他の方にも理解して頂くため、大いに役立ちました。作業には多くの女性薬剤師が夜を徹して協力してれました。

また、女子薬は、独自の研修会、グループ勉強会、学術発表を積極的に行い、「かかりつけ薬局を目指して」をテーマにしたパネルディスカッションでは5人の女性薬剤師が写真入りで大きく新聞に掲載されました。

医薬分業の充実、安定を目指して

県薬会長一期目、医薬分業の充実と安定を目指して､平成4年､薬剤師が「医療の担い手」と認められ、又、文部省の後押しで国立大学病院から処方箋が発行され、一機に医薬分業が進み出しました。琉大病院、県立・市立病院の院長に直にお会いし、理解と更なる協力をお願いしました。分業率70％は、全国でも上位で急スピードの成果を上げました。

九州山口薬学大会の開催

会長二期目、九州山口薬学大会（以下、九山大会）沖縄県開催対策（平成14年)。

予算ゼロからの出発は必死でした。全会員が一致団結して協力して下さったこと、又、多くの企業からの援助を頂いたこと等々で、九山大会は大成功裡に終えることができました。加えるに、医薬分業対策の際に地域の薬剤師間の連携がとれていたのも一因と云えます。

県薬新会館建設に向けて

会長三期目、県薬の新会館建設に向けて、土地の選定を広範囲に探索しました。困難を来していたところ、県福祉保健部から医療ゾーンの一劃に薬剤師会館の建設も可能との情報を得て、私の最後の目標が達せられました。

その他の会長時代に行った主な活動として、

(1) 青年薬剤師部会の創立し、若手の活躍を促す目的で発足させました。難産で出発した部会も、今では大躍進で活動し、感無量です。本当にありがたい！

(2)「健康とおくすり相談会」は、積極的に街に出て、顔の見える薬剤師、社会に貢献する薬剤師をアピールする目的で始めました。今なお高い評価を得ています。各地域で継続して行われている現況にとても感謝しています。

(3) 外郭団体との交流。医師会､歯科医師会､薬剤師会で始めた三師会が、今では「なごみ会」に発展し、医療に関わる関係者間の結束は保健医療に力強い存在となっています。他の外郭団体とも広く交流し、薬剤師をアピールしています。

(4) 参議院議員選挙運動

倒れるまで頑張ろうを合言葉に始めた選挙運動は、功を成し、石井道子、藤井基之の両氏を当選へと導くことができました。

＜あとがき＞

会長時代は、毎朝9時に出勤し、無我夢中で全て会のためにと行動しました。苦労した分、会員との絆を得て信頼関係を深め、私の一生の宝物として心に留めています。

80歳の坂を登りはじめ、現在も現役で人生を楽しんでいます。

会の益々の発展を祈念致します。

健康とおくすり相談会を先駆けて開催
昭和56年10月「薬と健康の週間」

創立90周年記念
特別寄稿

創立90周年を迎えて

第十八代会長
神村 武之

沖縄県薬剤師会が大正15年に設立され、今年10月で90周年を迎える事が出来ましたこと、大変喜ばしい事で有ります。会長経験者として、会報の創立90周年記念号に想いを寄稿してほしいとの依頼があり、私なりの想い出を辿り語らせて貰います。

私と薬剤師会との係わりは、昭和46年大学卒業と共に薬剤師会事務職員として勤務したのが始まりです。世間を知らず、浅学、非才な私は、当時厳しく剛腕と言われていた宮平善雄会長（第12代）の下、諸先輩、理事の方々から叱咤激励され、務めさせて頂きました。当時の薬業界は、薬剤師会より小売商業組合が繁栄活動しておりました。職能より商売に薬剤師力を傾注していた時期でした。

「医薬分業」

昭和47年頃より、日本の医療界に医薬分業論が囁かれ、昭和49年に診療報酬で増点数となって気運が高まり、分業元年と明記されました。それを期に、薬剤師職能向上が徐々に現実味を増して来ました。薬剤師会では、別法人で会営薬局調剤検査センターを開設、私も当センターに勤務し、病院・医院を訪問し、医師、関係者へ処方箋発行を依頼、分業対応に向け活動しましたが、分業への賛否両論があり、「打てど響かず」の状態で孤軍奮闘した事を走馬灯のように想い出します。

琉球大学保健学部附属病院（当時の那覇市与儀在）から待望の院外処方箋が発行され、当時、私が勤務した与儀調剤専門薬局で最初の処方箋を受付、調剤をし、感動した事を想い出します。大型病院等からの処方箋発行を機に、沖縄の医薬分業気運は高まり、処方箋発行が増加し、分業率が全国で上位を常態化するまでになりました。

「薬学教育6年制」

医療制度改革の中でも、薬剤師職能の評価と共に医療人としての専門的知識と責務が求められ、医療現場での臨床薬学の重要性が増し、薬学教育6年制度に移行したのは薬剤師の願望が叶えられた素晴らしい歴史です。

「活動の拠点と成る念願の薬剤師会館落成」

薬剤師会事務所は、当初、歴代会長の職場で対応し、正式に事務所が設置されたのが那覇市久米の我喜屋ビル内（昭41年）で県道1号線沿いにあり、その後、那覇市国際通りの松尾に移転（昭43年）、私が勤務した場所で、それから泉崎、南陽薬品ビルに移転（昭46年）、更に近隣の城間ビルに移転（昭54年）、その後は那覇市松尾（知念外科跡）に移転（昭58年）、自社建物として那覇市国場の教会跡建物を購入（昭61年）し、そこを拠点として活動しましたが、年月と共に建物の老朽化、会員増加、交通等の利便性の問題もあり、新会館建設が切望されました。

用地探しは前会長時より数々の用地の選定を行いましたが、決定に至らず、私が会長就任しての大きな課題となりました。土地取得、会館建築には膨大な資金調達、諸々の難題、課題が山積して居りましたが、将来を見据えて決断すべきと肝に銘じて行動しました。願望の用地が県有地の為、県関係部局へ交渉し、現在地を取得し、会館を建築することが出来ました（平21年）。現在では、医療ゾーンとして医療団体四師会が集う他県に無い環境となっております。薬剤師職能、資質向上の活動拠点となる事を願うのであります。

「温故知新」

私は、県薬と係わって45年程になりますが、創立90年の永期における出来事等、経緯を顧みても、その時代毎に薬剤師の役割、立場を遂行してきた事により、現在の薬剤師像が在る事を思うので有ります。私達は今、薬剤師の職務として当然の事を“当たり前”の事として行っておりますが、この当たり前の事は先人達の努力と功績のお陰であります。この当たり前を私達は継ぎ、更なる諸問題に積極的にチャレンジして将来の後継薬剤師には当たり前の事となるように努める事が今の薬剤師の責務と思います。

書家　謝花雲石　書
本会館の薬学資料館に掲示

「世益薬学」

10年後に創立100周年を迎える時、薬剤師が日々の学びと自覚の基、薬剤師職能、地位が更に向上し確立され、質の高い医療の担い手としての役割、責務を果たす事を願い、私の思いを訓字して豊平書家に筆墨して頂きました。

書家　豊平峰雲　書
本会館のロビーに掲示

「神殿の設置」

先達の先生方が少彦名神社より御分霊を勧請し、波上宮に依頼して奉祀されました。神農様と薬師如来像を薬剤師会館に拝殿し、「健康祈願」「薬石効果」「薬害除祈願」し、薬職業の繁栄を祈願して平成26年7月に設置致しました。

私も歴代会長から職務を継ぎ、5期10年、皆様の協力のお陰を以って会務を執行することが出来ました。後任に引き継ぎ、会活動が益々活性化することを願い、纏まりの無い想いを雑筆させて頂きました。

創立90周年記念祝賀会にて
安里 哲好 沖縄県医師会長（中央）
比嘉 良喬 沖縄県歯科医師会長（右）と記念撮影

創立90周年記念
特別寄稿

想い出二話

元事務局長
山城 志津

その一、薬剤師会事務局長の仕事とは

「事務局長とはどんな仕事をするのですか？」

「特別、決まった仕事というものはないよ」

平成14年の年頭、薬剤師会へ来ないかと声をかけて下さった当時の大城桂子会長と私との会話。特別決まった仕事はないという事は、何でもありとの意味だと分かるのに時間はかからなかった。

当時の薬剤師会館は、那覇市国場の奥まった住宅地の一角にあった。端の欠けた階段。会長机の真上の天井が落下する耐用年数の過ぎた代物。事務長職は不在で、大城会長が毎日出勤して陣頭指揮をとっておられた。平成14年は沖縄が九州山口薬学大会（以下、九山大会）の開催地となる年で、大城会長の“命をかけた”年でもあった。

これまでの私と薬剤師会の繋がりと言えば、年1回、経理担当からかかってくる電話、「あのー、会費を払ってください」。薬剤師会の組織と活動には、（申し訳ないながら）無関心だったのだ。よって、県薬や日薬がどういうものか会長より一から教えてもらわねばならなかった。

大城会長の大車輪の活動が始まる。情け容赦ない会長の号令は、常に数件の業務を同時進行させねばならなかった。しかし私以上に大変なのは、それらの業務を最後にふられて時間のかかる仕事をせねばならない現場職員だった。

ある時、庶務担当職員が言った。「私、この仕事好きなんです」と。えっ！私はこの言葉に内心かなり驚いた。事務と言えば裏方の機械的仕事というイメージがあった。そんな仕事に面白さがあるのか!? 次第に分かってきた。事務仕事にもいくつもの段階に各人の創意、工夫、裁量の余地がいくらでも存すること。

大城会長の後を追いて、薬局、病院、企業、行政、いろいろな所へ出向いた。特に行政機関との関わりで学んだことは、後日NPOの運営を担った時に大いに役立った。会長から、県の部長、副知事、知事に会いに行くと命ぜられると、マナーを知らぬ私は、直接に夫々の部署に架電した。「会見等の申し込みは下部組織（＝薬務課）を通せ」と2回ほど叱られて、行政作法を知った。私の無知、常識知らずは、いろんな所で発揮されたと思うが、大城会長の顔の広さー部長、副知事、知事、公立・民間大病院の病院長等に、誰とも旧知の間柄ーと、職員のサポートで大顰蹙を買わずに済んだと思われる。

大城先生、職員の皆さん助けてくれてありがとうね。

その二、薬剤師会館建設にまつわるエピソード

九山大会終了後は、いよいよ会館建設。2度目の会館建設委員会を立ち上げ、用地探しが再スタート。東西奔走の後、用地決定。平成18年、会館建設は神村会長にバトンタッチされた。建設費予算は約2億5千万円、県、厚労省から分業対策費補助の取得もあり、2億円を借入、委員会では、将来、会費で借金返済ができなくなった場合（それは委員全員の大きな不安だった）も想定しての侃侃諤諤の議論がかわされた。会館完成までには、肝を冷やす場面にいくつも遭遇せねばならなかった。

エピソード その①

会館建設は、これまで建設に向けて努力を重ねてきた諸先輩方、多くの会員が固唾を飲んで見守られていた事と思う。その思いに応えるように、神村会長、山里建設委員会委員長は建設が始まった後、頻繁に現場に足を運び工事の進歩状況をチェックし、あれこれ注文をつけていた様子。ある時、現場監督が私に耳打ちした。「あの二人､毎日欠かさずやって来るんです。」「えっ、毎日ですか？」私は改めてお二人のひとかたならぬ情熱に脱帽したものだった。

エピソード その②

今回の新会館建設は、会員へ寄付の負担をかけないと決めていた。それまでは、職員に給料を払えないこともあった財政下、特別の行事は､会員の寄付で賄わざるを得なかった。ところが最初に、クリニック、介護施設を運営されていて医薬分業の恩恵は受けてはおられない薬剤師ご夫婦がおみえになった。ご夫君曰く「自分は、かつて医薬品卸会社に勤めていた。病院へ営業で行くと、裏口から入って来いと言われた。今度、薬剤師会館が公道に面し、堂々と薬剤師の存在を主張するものとして造られることがこの上なく嬉しい。ぜひ、寄付させてほしい。」次のような会員もおられた。「長い間、薬品販売を営んだが経営は苦しくなるばかり。薬剤師会会費を払えない時期もあった。店を畳んだ後、調剤薬局に勤め、少なくない給料をもらえている。薬剤師会のお蔭だから」と、多額の寄付金を持参され、こちらから減額をお願いした。あっという間に1千万円近くに達した。

私は、私の知らない遥か以前から薬剤師会を支え、今、後輩らのための会館建設を我が事のように喜び、浄財を差し出して下さる諸先輩に感謝感激の念に耐えなかった。

沖縄県薬剤師会創立90周年。90年の昔から薬剤師の組織のために活動を積み重ねられた先輩諸氏のご尽力に心からの敬意を表します。そして又、現在、更にその活動を発展させている役員、会員の皆様のご努力を深く労い申し上げます。

現会館落成時の外観写真

沖縄学術大会

第30回沖縄県薬剤師会学術大会開催

日時：平成28年11月6日（日）10:00 ～ 18:00
会場：沖縄県看護協会館（会員発表・ランチョンセミナー・特別講演・機器展示）
　　沖縄県薬剤師会館（創立90周年記念祝賀会）

亀谷浩昌大会会長挨拶

大会実行委員長
外間 惟夫

爽やかな秋晴れのもと、第30回沖縄県薬剤師会学術大会が11月6日（日）に開催された。沖縄県薬剤師会創立90周年、学術大会30回目という記念の年でもある今大会は、参加者が318名（県薬会員215名、病薬会員93名、薬学生10名）と過去最高となった。近年、参加者が増え、沖縄県薬剤師会館メイン会場では入りきらず窮屈な思いをしていたが、今年はより収容数の大きい沖縄県看護協会館での開催となった。

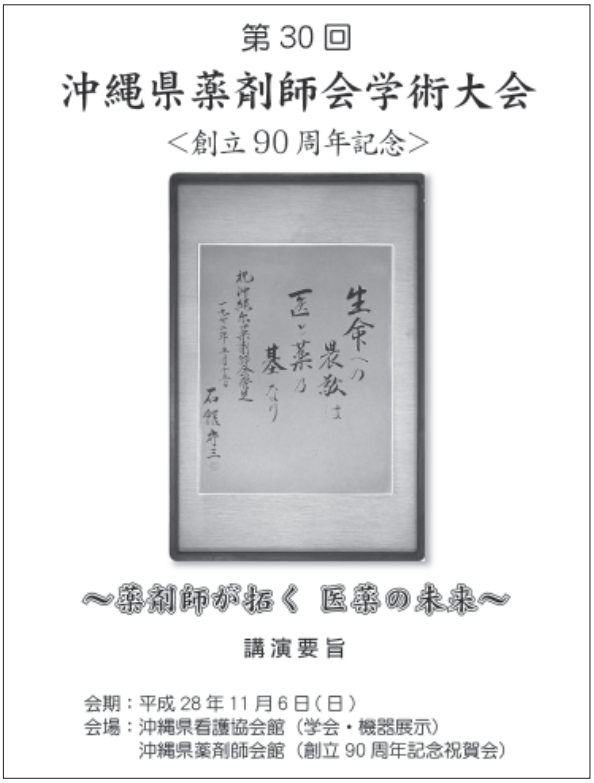
定刻通り午前10時の開会となり、先ず実行委員長として開会挨拶を行い、そこで昨年の医療法改正で高齢化が増大していく中で、われわれ薬剤師にかかりつけ薬剤師などの地域医療への積極的参画が求められていることから大会テーマを「薬剤師が拓く 医薬の未来」とし、創立90周年という節目を総括し、薬剤師職能を確立して更に飛躍する大会にしたいという思いを話した。次の大会会長挨拶で亀谷会長が、近年の薬剤師に対する社会的要請と医薬分業への批判など難問も山積しているため医療制度の一翼を担っている自覚と責任を持つべき事などを述べられた。

会員発表の部では、病院診療所関連から8演題、開局関連から6演題、その他関連1演題の合計15演題の発表があった。病院診療所関連からはプレアボイド報告、小児薬用量や病棟における処方チェック、外来患者指導やTDMによる介入、そして悪性リンパ腫と血糖

値に関する臨床研究などが、開局関連では＃8000小児救急電話相談、化学療法・緩和領域の服薬指導、薬乱用防止やIT・支援機器の活用、その他ではクゥンソウの応用について発表があった。今年は発表内容やスライド作成は比較的まとめられていたが、発表時間を超過した演者もかなり見受けられた。また利益相反（COI）開示や倫理規定に関する項目が抜けている報告もあり、これらを含め大会運営や奨励賞の評価方法に関しても今後の検討課題としたい。今回発表された先生方は、保険薬局発のエビデンス不足が指摘されている折、今後も改善や更なるデータ蓄積を検討し、九州山口薬学大会や薬剤師学術大会等への発表、さらには論文投稿を目指して頂ければと思う。

ランチョンセミナーは、塩野義製薬との共催で、琉球大学医学部附属病院整形外科助教の六角高祥先生を講師として「慢性腰痛症治療の実際」を講演いただいた。そして創立90周年記念講演Ⅰでは、琉球大学医学部附属病院病院長の藤田次郎先生に「顔の見える薬剤師をめざして～チーム医療における薬剤師の役割～」と題して、われわれ薬剤師に対して調剤のみでなく顔の見える薬剤師を目指して頑張って欲しいと熱い期待とエールをいただいた。創立90周年記念講演Ⅱとして、今年見事に参議院議員に再選された藤井基之先生に「薬剤師のレゾンデートルとは？」を、日本薬剤師会副会長の乾英夫先生には「21世紀に期待される薬剤師の役割」と題してそれぞれ講演いただき、歴史的・社会的背景の構造変化から今後の薬剤師への期待と役割､そして、かかりつけ薬局と健康サポート薬局の機能について言及され、いずれも記念講演として期待に違わない内容であった。その他、機器展示会も開催され、最新の薬局設備機器や調剤支援技術ソフト等の展示・紹介があり、最後に普久原隆副実行委員長による閉会の辞で学術大会は無事終了となった。

大会終了後に会場を薬剤師会館に移して、



講演要旨集表紙
石館 守三 書「生命への　畏敬は　医と薬乃　基なり」

祝 沖縄県薬剤師会 発足　一九七二年 五月 十五日　と書かれている。1972年（昭和47年）5月15日は、沖縄が日本に復帰した日。本土復帰直後の5月24日に日本薬剤師会から役員が来沖し、日本薬剤師会への加入問題を協議し内諾の伝達を受けた。翌25日には沖縄県薬剤師会総会が開催され、日本薬剤師会へ正式加入が承認。当時の日本薬剤師会の会長が石館守三氏であり、表紙の書は、まさにその当時に本会に寄贈されたものである。今も本会館に掲げられている。

発表認定証と大会奨励賞の授与式が行われた。今年の大会奨励賞は、病診関連部門で浦添総合病院の森川仁美先生による「当院におけるプレアボイド報告への取り組み」が、開局・その他関連部門ではヴァインドラッグ末吉薬局の盛本直也先生の「患者様の求める“かかりつけ薬剤師”とは」がそれぞれ選ばれ、亀谷会長から賞状が授与された。

本大会は今年30回目という節目を迎えたが、今後、円滑な大会運営はもとより、会員発表に関しても研究テーマの選定、発表構成の更なる向上、またCOIや倫理規定への配慮等、より学術発表の場に相応しい大会として発展していけたらと思う。

最後に、本大会を成功裏に終えることができましたのは、共催や広告、機器展示に出展頂いた協賛企業のご支援と、薬剤師会事務局並びに大会運営スタッフの協力の賜物であり、心より感謝申し上げたい。

第30回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム

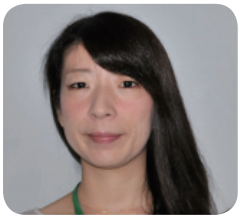
受　付　9:00 ～
開　会　10:00 ～

司会　第30回学術大会委員
宮　城　幸　枝

○ 開会の辞　第30回沖縄県薬剤師会学術大会・実行委員長　外　間　惟　夫
○ 会長挨拶　第30回沖縄県薬剤師会学術大会・会長　亀　谷　浩　昌

Ⅰ 会員発表（午前の部）

◎演題番号（1 ～ 4）　10:10 ～ 10:50　座長 名嘉 紀勝（西崎病院）



1. 当院におけるプレアボイド報告への取り組み ～セーフティマネジメントへの貢献を目指して～

社会医療法人 友愛会 浦添総合病院 薬剤部　○森　川　仁　美　鳥　塚　侑　子
宮　城　由利子　安　村　麻　貴
浜　元　善　仁　翁　長　真一郎

2. 当院における小児薬用量のチェック体制の取り組みについて

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 薬局　○玉　城　亜　矢　比　嘉　綾　子
照喜名　重　裕　長　田　　茂

3. 病棟薬剤業務における内服薬処方確認について

独立行政法人 那覇市立病院 薬剤部　○大　濵　英　造　瀬良垣　葉　月
山　方　志　築　金　城　雄　一

4. 入院患者における麻薬自己管理の現状と課題

社会医療法人敬愛会　中頭病院 薬剤科　○伊　波　美　幸　島　袋　朝太郎

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）
10:50 ～ 11:00

Ⅱ 創立90周年記念講演Ⅰ　　11:00 ～ 12:00

『顔の見える薬剤師をめざして　－チーム医療における薬剤師の役割－』

琉球大学医学部附属病院 病院長　**藤田 次郎 先生**

＜プロフィール＞　ふじた　じろう

略歴　昭和56年3月：岡山大学医学部卒業。昭和56年4月：国家公務員共済組合連合会虎の門病院内科レジデント。昭和58年6月：国立がんセンター病院内科レジデント。昭和60年11月：米国ネブラスカ医科大学呼吸器内科留学。昭和62年12月：香川医科大学医学部附属病院第一内科助手。平成5年10月：香川医科大学医学部第一内科学助手。平成13年2月：香川医科大学附属病院第一内科講師。平成15年9月：香川大学医学部附属病院第一内科講師。平成17年5月：琉球大学医学部感染病態制御学講座（第一内科）教授。平成19年7月：琉球大学医学部副学部長（兼任）。平成22年4月：琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学（第一内科）教授。平成27年4月：琉球大学医学部附属病院病院長。

資格　医学博士、日本内科学会認定内科医、Fellowship of American College of Chest Physician、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本感染症学会感染症専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、Infection Control Doctor、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本結核病学会指導医

受賞　平成13年度American College of Chest Physician（ACCP）日本部会賞受賞：研究テーマ「肺癌細胞株におけるシフラ21-1産生機構の検討」。平成14年度日本結核病学会今村賞受賞：研究テーマ「肺非定型抗酸菌症の臨床像、画像所見、および病理所見の解析」他多数

役職　沖縄県地域医療支援センター長、琉球大学医学部附属病院感染対策室長、沖縄県結核サーベイランス委員会委員、沖縄県エイズ対策連絡協議会議長、日本アレルギー協会九州支部沖縄県部会幹事、厚生労働省施設内感染対策相談窓口回答者、沖縄県医師会理事、沖縄県医療審議会委員、沖縄県がん対策推進協議会委員など多数

座長：第30回沖縄県薬剤師会学術大会 副会長・
沖縄県病院薬剤師会 会長　中村 克徳

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）
12:10 ～ 12:30

Ⅲ ランチョンセミナー　12:30 ～ 13:30　　共催：塩野義製薬(株)

【講演】『慢性腰痛症治療の実際』

琉球大学医学部附属病院 整形外科 助教　**六角 高祥 先生**

＜プロフィール＞　ろっかく　たかよし

平成8年3月：琉球大学医学部医学科卒業、平成8年7月：中部徳州会病院、平成12年5月：ハートライフ病院、平成13年8月：那覇市立病院、平成15年4月：琉球大学医学部附属病院、平成20年8月海邦病院整形外科、平成21年1月：琉球大学病原生物学講座大学院生、平成23年4月：豊見城中央病院整形外科、平成25年11月：琉球大学医学部附属病院助教、現在に至る。

座長：第30回沖縄県薬剤師会学術大会 実行委員長・
沖縄県薬剤師会 副会長
外間 惟夫

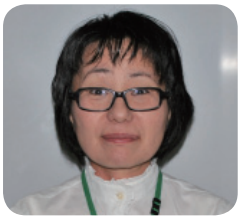
ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）
13:30 ～ 14:00

Ⅳ 会員発表（午後の部）

◎演題番号（5 ～ 11）　14:00 ～ 15:10　　座長　西川　裕
（そうごう薬局）

5. ＃8000 小児救急電話相談事業活動について
○伊　集　智　英　　城　間　盛　光
吉　田　洋　史

6. 患者様の求める「かかりつけ薬剤師」とは
漢方みず堂 ヴァインドラッグあがり浜薬局　○盛　本　直　也



7. 薬乱防止教育「絶対断れない」へのアプローチ
～地域の薬局から働きかける～
薬局えぱーわーな～　○大　城　恭　子

8. 化学療法・緩和領域における服薬指導　～保険薬局の取り組み～
(株)薬正堂 すこやか薬局 具志川店　○當　真　房　子　　阿　嘉　さゆり
我那覇　ももこ　　砂　川　信　子
櫃　田　廣　子　　坂　本　紗有理

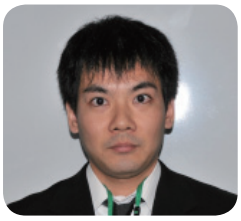
9. 調剤薬局における調剤支援機器導入の有用性について
北部地区薬剤師会 会営薬局　○浅　沼　健　一
吉　本　欣　生　　新　城　真　理

10. 業務改善のためのITを活用した取り組み
(株)沖縄健康企画 こくら虹薬局　○大　城　なつき
野　村　久　子　　宇　根　良　太

11. 沖縄伝統薬草野菜クヮンソウの効果とその応用
ソムノクエスト(株) 沖縄中央研究所　○江　口　直　美

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）
15:10 ～ 15:20

◎演題番号（12 ～ 15）　15:20 ～ 16:00　　座長　勝連 真人
（沖縄県立中部病院）

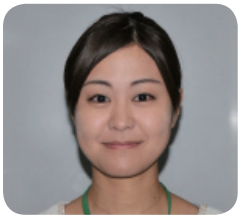


12. 薬剤師による外来インスリン自己注射指導介入に向けた取組み

社会医療法人 友愛会 浦添総合病院 薬剤部　○宮　里　弥　篤　　佐次田　　頌
松　田　理　美　　宮　城　由利子
與　儀　邦　子　　翁　長　真一郎

13. 外来患者におけるジゴキシン血中濃度モニタリング実施率の実態調査

琉球大学医学部附属病院 薬剤部　○山　田　智　史
上　原　　仁　　座間味　丈　人
潮　平　英　郎　　砂　川　智　子
外　間　惟　夫　　中　村　克　徳



14. 当院におけるESBL産生腸内細菌による尿路感染症の治療にCMZは有効か

沖縄県立北部病院 薬　局　○佐次田　梨　奈
天　久　栄　介　　屋比久　篤　志
與　座　順　子　　徳　嶺　恵　子
医　師　　星　野　慎　一
看護部　　島　袋　あやこ　　新　垣　　泉
検査科　　三　木　嘉　宏　　嘉　陽　ゆりや

15. 悪性リンパ腫における化学療法の治療成績と血糖コントロールの関係性

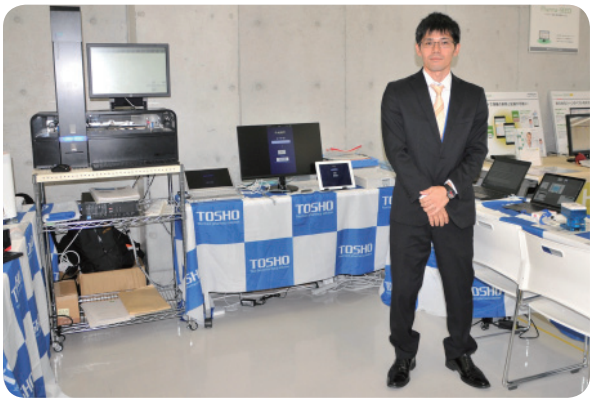
琉球大学医学部附属病院 薬剤部[1)]　○外　間　　登[1)2)]
外　間　惟　夫[1)]　中　村　克　徳[1)]
琉球大学大学院医学研究科　　仲　地　佐和子[2)]　砂　川　澄　人[2)]
内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座[2)]　　森　島　聡　子[2)]　益　崎　裕　章[2)]

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）　16:00 ～ 16:30

(株) ＩＴＳシステム

(株) ＥＭシステムズ

(株) タカゾノ



(株) トーショー

パナソニック ヘルスケア (株)

(株) ユヤマ

日立メディカルコンピュータ (株)

(株) リレーションズ

Ⅴ 創立90周年記念講演Ⅱ

16:30 ～ 18:00

『薬剤師業務と政治』

参議院議員・薬学博士　**藤井 基之** 先生

『21世紀に期待される薬剤師の役割』

日本薬剤師会 副会長　**乾　英夫** 先生

座長：第30回沖縄県薬剤師会
学術大会 会長・
沖縄県薬剤師会 会長
亀谷 浩昌

＜プロフィール＞ いぬい ひでお

学歴　昭和53年3月：京都薬科大学卒業
職歴　昭和55年6月：乾薬局開設
役職歴　平成4年4月：大阪府薬剤師会理事、平成18年4月：大阪府薬剤師会常務理事、平成22年4月：大阪府薬剤師会副会長、平成24年6月：日本薬剤師会理事、平成26年6月：日本薬剤師会副会長。
公的機関役職　平成22年4月：近畿地方社会保険医療協議会委員、平成24年11月：日本脳卒中協会理事、平成25年1月：厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員、平成26年8月：文部科学省平成26年度学校保健及び学校安全表彰における被表彰者等の審査委員、平成26年8月：日本学校保健会健康教育推進学校表彰事業審査委員会委員、平成26年10月：医薬品医療機器総合機構運営評議会専門委員など

＜プロフィール＞ ふじい もとゆき

昭和44年東京大学薬学部薬学科卒業、旧厚生省に入省、厚生省薬務局麻薬課長などの要職を歴任、平成9年には厚生省を退官。その後、日本薬剤師連盟副会長、日本薬剤師会常務理事に就任、平成13年に日本薬剤師会、各都道府県薬剤師会からの推薦で、参議院議員選挙に出馬し当選。しかし、平成19年の参議院議員選挙では、自民党への逆風のあおりを受け落選し、私たち薬剤師の声を政界に届ける術を無くし平成22年の参議院議員選挙で見事返り咲いた。そして今年の参議院議員選挙で再選。平成26年9月に文部科学副大臣、平成28年8月に自民党総務副会長、平成28年9月には参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長に就任している。

○ 閉会の辞　　第30回沖縄県薬剤師会学術大会・副実行委員長
普久原　隆

大会発表認定賞・奨励賞授与式

会場を沖縄県薬剤師会の創立90周年記念祝賀会会場に移し、午後6時30分より授与式が行われた。

外間惟夫大会実行委員長から発表者15人全員に認定証が授与された

受賞の喜びを述べる奨励賞受賞者

保険薬局・その他関連部門奨励賞
盛本 直也氏

病院・診療所薬剤師関連部門奨励賞
森川 仁美氏

〈会員発表審査会〉

病院・診療所薬剤師関連部門審査員

○村田 美智子　○沖山 尚美　○田中 健嗣
○我喜屋 美香　○姫野 耕一

保険薬局・その他関連部門審査員

○江夏 京子　○山里 勇　○鈴木 一徳
○川満 直紀　○吉冨 弓江

第30回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告

＜病院・診療所薬剤師関連部門審査報告＞

第30回沖縄県薬剤師会学術大会委員
病院・診療所薬剤師関連部門審査員
姫野 耕一

病院・診療所薬剤師部門の発表は8演題ありました。今回の研究テーマは、薬剤師がいかに安全かつ適正な薬物療法に貢献できるかを模索し、発表に至っていることを伺わせています。残念ながら今回、演題提出の無かった施設も次回大会に向けて日頃の研鑽の成果を発表してほしいと思います。

大会当日の発表された演題の中から奨励賞を授与する発表演題を選定するのですが、評価の基準は、研究成果を患者や地域に還元できるか、研究の進め方が倫理的にかなっているか、発表構成は適切か、発表内容に関して抄録と発表内容との関連性、プレゼンテーション技術、時間配分等について審査し、これを点数化すると共に審査員の意見も加え総合的に評価して選定しました。

5名の審査員で協議した結果、浦添総合病院の森川仁美先生による「当院におけるプレアボイド報告への取り組み」を奨励賞に決定しました。薬剤師の病棟での取り組みが分かり易く提示され、医薬品の適正使用と安全性の観点から必要な内容であったと考えました。発表にもありましたが、介入後の治療効果の不明77%に対しては今後の解析が求められますが、薬物療法における患者の安全にも大きく貢献していること等が審査において高い評価を得ました。

学術大会への参加者数は年々増え、発表の内容も充実しています。今大会のテーマである「薬剤師が拓く　医薬の未来」に相応しい大会であったと思います。

＜保険薬局・その他関連部門審査報告＞

第30回沖縄県薬剤師会学術大会委員
保険薬局・その他関連部門審査員
吉冨 弓江

保険薬局・その他関連部門では、保険薬局から6題、企業から1題の発表がありました。

企業からの発表は過去にも多くなく、県内企業でしかも島野菜であるクヮンソウについての発表は､個人的には興味深いものでした。

各演題について、5名の審査員が発表テーマ、発表内容･構成、発表方法の観点から、研究発表をよりよいものにできているかを点数化して大会奨励賞1題を選定しました。その結果、演題番号6ヴァインドラッグあがり浜薬局の『患者様の求める「かかりつけ薬剤師」とは』が選ばれました。

その内容は、実際に患者にアンケートを実施し、その結果と考察を発表したもので、演題がタイムリーで発表がわかりやすく関心が持てるものでした。特に、「薬局の薬剤師へ相談したことがある：26.6%」「どのようなことを相談するか：病院の薬のこと」という結果は､抄録の考察で述べている､薬局は「処方箋が薬局に入るためのチケットとなり、そのチケットがなければ入ってはいけない」場所であることを示していると強く感じました。

少し残念な点は、アンケートの総数が表示されていなかったことです。アンケート結果の数値や対象患者等をさらに具体的に提示することで、より充実した内容になると思われます。

1年後、同じアンケートをした場合、どのような結果が出るのでしょうか。興味があります。

＜病院・診療所薬剤師関連部門奨励賞受賞講演要旨＞

1. 当院におけるプレアボイド報告への取り組み ～ セーフティマネジメントへの貢献を目指して ～

浦添総合病院 薬剤部　○森　川　仁　美　　鳥　塚　侑　子
宮　城　由利子　　安　村　麻　貴
浜　元　善　仁　　翁　長　真一郎

【目的】

日本病院薬剤師会では平成11年からプレアボイド報告の集積を開始し、報告体制の整備と拡大により累積報告数は平成26年度で22万件を突破している。近年の報告の中には副作用回避のみならず有効性の向上に寄与した事例も増えており、プレアボイドの報告および分析は医療安全の向上における薬剤師の実績を示す貴重なデータとなる。当院においても病棟業務の1つにプレアボイド報告を掲げており、毎月報告を行っている。そこで今回、当院での報告内容の特徴を把握すると共に、プレアボイド報告内容の質の向上を図り、医薬品の適正使用や医療安全の向上に役立てていくことを目標とし、当院が報告したプレアボイド報告事例について調査・解析したので報告する。

【方法】

平成27年4月～平成28年3月までに当院が報告したプレアボイド事例のうち、発端や薬学的管理の種類、薬学的ケアの内容や介入後の治療効果などを抽出し、調査・解析した。

【結果】

報告総件数は303件だった。「発端」については特に偏りは無く、検査結果（腎機能）(13%)、TDM解析時（13%）、薬歴（12%）、処方箋・注射箋確認時（12%）、患者（家族）の訴え（10%）などがあげられた。「薬学的管理の種類」では、治療効果の向上が最も多く34%を占め、次いで特殊（腎機能低下等）な状況が15%だった。「薬学的ケアの種類」は、薬剤減量（23%）および薬剤中止（23%）と約半数を占め、次いで薬剤変更、薬剤追加の順だった。「介入後の治療効果」については、効果ありが23%、効果無しは0%だったが、不明が77%を占めていた。更に担当診療科病棟でみた場合、救命領域病棟では報告件数が58件あり、検査値が発端となった事例が45%(26件)を占めた。消化器内科･外科病棟では報告件数82件のうち､患者(家族)の訴えが発端となった事例が24%（20件）で最も多かった。整形外科病棟では39件報告されていたが、医師・看護師からの相談が発端となった事例が20%（8件）と他診療科病棟と比較して多い傾向がみられた。

【考察】

「発端」については特に偏りは無いことから、病棟業務としての様々な場面において確認を行っていることが分かる。「薬学的管理の種類」としては、治療効果の向上に寄与した事例と腎機能低下等における処方提案が約半数を占めており、医薬品の適正使用や医療安全の向上に繋がっていると考える。また、救命領域病棟では薬剤師も含めた多職種回診を実施しており、検査値等の確認を日々行っていることから検査値からの報告数が多いと考えられる。消化器内科・外科病棟では抗がん剤による化学療法導入目的の入院が多く、副作用モニタリングのための介入が多いことから、患者(家族)からの訴えによる報告が多かったと推測する。整形外科病棟では、日常業務においても他診療科病棟と比べて医師・看護師からの相談が多く、薬剤師と協議しながら処方されていると考えられる。しかし、「介入後の治療効果」については不明が77%を占めており、提案後の経過を確認できていない事例が多く、今後の課題である。

【参考文献】　日本病院薬剤師会雑誌52(2), 122-125, 2016

＜保険薬局・その他関連部門奨励賞受賞講演要旨＞

6. 患者様の求める「かかりつけ薬剤師」とは

漢方みず堂 ヴァインドラッグあがり浜薬局　○盛　本　直　也

【背景】

薬剤師の任務について、「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生を司ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」この薬剤師法を下に厚生労働省は今後われわれ薬剤師の責務として地域の方々の健康増進に努めるために、かかりつけ薬剤師、かかりつけ薬局最終的には薬局で健康維持・セルフメディケーションの向上を薬剤師と共に行うという意味で健康サポート薬局が推奨されてきました。また、国の流れの中で医療費控除とは別にセルフメディケーション税制というものも挙げられ、病院に行く前に先ずは薬局で来局者・地域の方をサポートしていき、その結果医療費の削減につなげるという方針です。

【目的・方法】

そこで､薬局や薬剤師が「かかりつけ」として活動した時に､患者様や地域の方々の求める「かかりつけ」がずれていては意味がないのではないかと考え、今回実際に患者様へ患者様の求める「かかりつけ」とは何か以下の内容でアンケートを実施しました。

【アンケート内容】

1. かかりつけ薬剤師を知っていますか
2. かかりつけ薬局を知っていますか
3. 現在かかりつけ薬剤師がいる
4. 薬局で薬剤師に相談したことがある
5. どのようなことを薬局で相談しますか
6. 薬剤師に求めるものは

（集計・求める内容はスライドにて説明）

【考察】

最近ようやくポスターなども目にするようになってきましたが、まだまだ認知度・認識はされていないのが現状です。

調剤薬局に来られている方以外にもアンケートを実施したところ、調剤薬局は薬をもらう所という認識でした。処方箋が薬局に入るためのチケットとなり、そのチケットがなければ入ってはいけないイメージがあるようです。それは確実に「閉鎖的空間」を作り出してしまっているということではないでしょうか？

では、そのような方はどのようにして自分自身の健康を管理しているのでしょうか？その答えで多かったのはインターネットでの検索でした。ネットで調べて自分でその解決方法を見つけてドラッグストアーやネットで商品を購入するということです。直接話もせず薬を自己判断で購入するリスクを多くの方々は知りません。そのリスクを減らし、健康増進に努めるべく活躍しなければいけないのが薬剤師の職能ではないでしょか。

「かかりつけ」となるためには信頼関係が大切です。信頼関係をつくるには信用が必要です。信用される薬剤師になるためには多くの方々と接しコミュニケーションをとる必要性が出てきます。患者様や地域の方の必要性に的確に応え、信用され信頼される薬剤師こそが「かかりつけ」と言えるのではないでしょうか。それを求めているということを感じました。

薬と健康の週間

薬　祖　祭

（波之上宮本殿）

薬祖祭終了後、本会館神殿にて

神村武之前会長が
金城保景第十四代会長(右)に報告

「“薬と健康の週間”行事は、毎年、波之上宮本殿で、朝10時からの薬祖祭を皮切りに行われる。宮司の祝詞の中に薬祖神、少彦名命（スクナヒコナノミコト）に薬の取扱いに間違いがないよう病める人の苦しみの癒えんことを奏上して、薬剤師会、卸協会、小売商組合、薬種商協会等の各団体名を言上されている。朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、各団体長はじめ関係業界人で厳修される。医薬の道を天職とする薬業人にとって年一回の薬祖祭には、この一年の無事を感謝し、薬の取り扱いの過ちのないように祈願したいものである。」と、故仲松弥元氏（第六・八・十一代会長）は、薬祖祭雑感を寄稿されている。仲松氏は、昭和37年に製薬会社が軒を並べる大阪市道修町の少彦名神社より御分霊「神農（中国医薬の守護神）」を勧請して、那覇市波之上宮に依頼して奉祀された。道修町で毎年11月22・23日に神農祭が行われることから、波之上宮に神農が奉祀された翌年より、11月23日（勤労感謝の日）に薬祖祭が執り行われるようになった。

参拝者には、病除祈願の張り子の虎を笹に結びつけたお守りが配られる。この風習は、日本で初めてコレラが大流行した年に道修町の医薬商が相議り、疫病除卸薬「虎頭殺鬼雄黄圓（虎の頭骨を配合した丸薬）」を作り、神前で祈祷して庶民に無料で施し、虎と竹を組み合わせたお守りと共に配ったことに端を発している。当時、コレラを「虎列刺」と書き、その猛威と怖さを誇示していたので、薬に“虎を殺す鬼”と名づけられた。

神農を祀る神農祭とは別に、東京、京都、名古屋をはじめ、各地で薬剤を祀る祭礼が行われている。祭神は日本の医薬の神として敬われてきた少彦名命と大国主命（オオクニヌシノミコト）。祭日は土地ごとに違っていたが、近年、10月17日に統一され、薬剤師会や薬業界が祭主となって催している。

今年の薬祖祭は、10月18日（火）、晴れわたった朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、沖縄県薬業連合会と沖縄県、那覇市で厳修された。

（文：事務局　大城 喜仁）

薬と健康の週間

くすりと健康フェア

～県民公開講演会「心身ともに健康」～

日時：平成28年10月20日（木）19:00 ～ 20:30
会場：パレット市民劇場（那覇市）

江夏京子副会長あいさつ

「薬と健康の週間」（10月17日～23日）の行事の一環として、今年は10月20日に沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会の主催で県民公開講演会が、パレット市民劇場で約200名の来場者を迎え開催された。

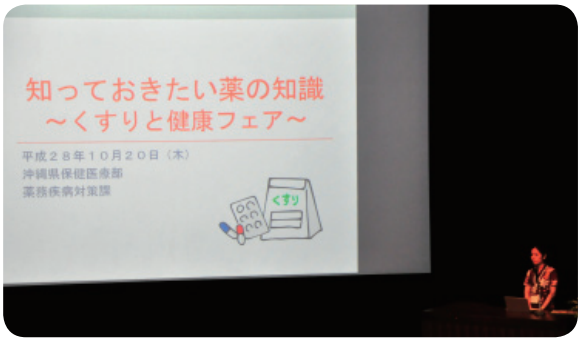
はじめに、主催者として沖縄県保健医療部長の砂川靖氏、那覇市保健所長の東朝幸氏、そして沖縄県薬剤師会は江夏京子副会長が挨拶された。

基調講演は、沖縄県保健医療部薬務疾病対策課の渡口由希子主任より、「知っておきたい薬の知識」と題し、薬の服用法から薬物乱用防止について説明があった。参加者には、わかっているようで実は間違っていたりする薬との付き合い方を改めて確認できたのではないだろうか。薬物乱用防止に関しては、芸能人が複数検挙されている中、タイムリーな内容であった。

副会長　前濱 朋子

特別講演は、沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科の高山義浩先生より、「沖縄県で“最後まで”自分らしく暮らすために　～医療にできること、あなたが備えること～」と題して講演が行われた。講師の高山先生は、琉球新報の南風への連載、また中部地区の医薬分業に際し、薬剤師会との勉強会で講師を務められていた。

司会を務めた 高江洲由美子氏



基調講演「知っておきたい薬の知識」

渡口由希子氏

＜プログラム＞　　司会　那覇市保健所生活衛生課　高江洲　由美子

○開　会

○主催者あいさつ　　沖縄県保健医療部部長　砂　川　　靖

那覇市保健所所長　東　　朝　幸

沖縄県薬剤師会副会長　江　夏　京　子

○基調講演「知っておきたい薬の知識」

沖縄県保健医療部薬務疾病対策課薬務班主任　渡　口　由希子

◎特別講演「沖縄県で“最後まで”自分らしく暮らすために」

講師：沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長　**高　山　義　浩**

○閉　会

講師の 高山 義浩 氏

＜講師プロフィール＞

高山 義浩（たかやまよしひろ）

沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長

福岡県生まれ。東京大学医学部保健学科、山口大学医学部医学科を卒業。国立病院九州医療センター、九州大学病院、佐久総合病院、厚生労働省勤務を経て、現在は、沖縄県立中部病院において感染症診療に従事。また、終末期患者に対する在宅緩和ケアを行っている。群馬大学医学部非常勤講師、神戸大学医学部非常勤講師、日本医師会総合政策研究機構非常勤研究員、沖縄県地域医療構想検討会議委員、沖縄県医師会在宅医療・介護連携統括アドバイザー。

著書に『アジアスケッチ 目撃される文明・宗教・民族』（白馬社、2001年）、『ホワイトボックス 病院医療の現場から』（産経新聞出版、2008年）、『地域医療と暮らしのゆくえ　超高齢社会をともに生きる』（医学書院、2016年）など多数。

講演では、多くの図表、データを示し行われた。興味深いのは、都道府県別の外来受診者の内の時間外受診者の割合である。なんと、沖縄県は突出しての第1位。悪くなってからしか受診しない、のんびりとした県民性が現れている。また、自殺者率では、65歳以上女性で全国一低いのは、「沖縄戦での経験が生死観に影響を与えていると考えられる」と話され、対して全国ワースト2位の20～64歳女性の自殺ではアルコール性肝疾患との関連性を指摘。適正・適量飲酒の取り組みが必要とされた。

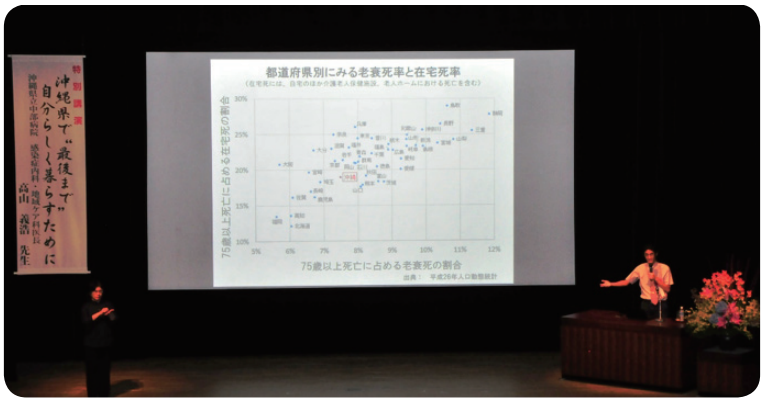
長寿を誇る沖縄県でも、急速に高齢化が進んでおり、疾患を有する高齢者が増加し、医療や介護への依存を深めている。今後85歳以上の高齢者は、10年で1.5倍、25年では2.3倍に増えると予測されており、沖縄の地域医療は支えきれなくなるかもしれないとのこと。

そこで、先生の考える高齢化社会における健康とは、決して検査結果が良いことではなく、自己管理ができるということ。高齢者ケアにおいては、医療や介護の提供者ではなく、高齢者自身の視点で検討されたケアの方法で、自律した生活の中で豊かに老いることができるよう支援していくことが必要であると考えられている。

データといえば、県民が一喜一憂した、平均寿命。平均寿命が男女とも1位から転落して久しい。しかし、「数字上の長寿県奪還にこだわる必要はない。この県に暮らして幸せだなと実感できる地域づくり、長寿の質が大事」と話された。

質疑応答ではフロアから、「中部病院で在宅もされているのですか？」という質問が出るように、中部病院と在宅医療が結びつかない。しかし先生は、「最近増えてきたと感じる病態のより複雑な、必ずしも幸せそうとは言えない高齢者」こそ、住み慣れた地域で、上手に医療や介護を利用し、最後まで自分らしく暮らすべきだと、その方法を見出す手助けをされているのである。我々薬剤師も、その一員であるという自覚を持って、在宅医療へ関わっていくべきだと感じた。

くすりと健康フェア 県民公開講演会 スナップ写真



控室で記念撮影
左から 江夏京子副会長、東 朝幸氏、高山義浩氏、仲本朝久氏

講演会終了後　講師・司会2ショット

平成28年度「薬と健康の週間」行事表

月　日	時　間	行 事 名	場　　所	実施団体
10月16日(日)	14:00 ～ 15:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	ドン・キホーテ宮古島店前	宮古地区薬剤師会、沖縄県
10月17日(月)	～20日(木)まで	「薬と健康の週間」パネル展	那覇市役所1階ロビー	沖縄県薬剤師会 沖縄県、那覇市
	～21日(金)まで	「薬と健康の週間」パネル展	沖縄銀行宮古支店	沖縄県
10月18日(火)	10:00 ～ 10:30	薬祖祭	波上宮本殿	沖縄県薬業連合会、沖縄県、那覇市
	10:30 ～ 11:00	永年勤続者表彰	波上宮本殿	沖縄県医薬品卸業協会
	13:00 ～ 17:00	全国統一薬事講習会	沖縄県薬剤師会館	沖縄県医薬品登録販売者協会
	13:30 ～ 14:00	認可外保育園マスク寄贈式	沖縄県庁子ども生活福祉部長室	沖縄県医薬品卸業協会
10月19日(水)	16:00 ～ 17:00	「麻薬・覚せい剤乱用防止」 街頭キャンペーン	イオン北谷店前	沖縄県医薬品登録販売者協会 中部地区薬剤師会、沖縄県
10月20日(木)	16:00 ～ 18:30	くすりと健康フェア 健康とおすくり相談会	パレット市民劇場　ロビー	南部地区薬剤師会
	19:00 ～ 20:30	くすりと健康フェア 県民公開講演会	パレット市民劇場	沖縄県薬剤師会 沖縄県、那覇市
10月21日(金)	15:00 ～ 15:30	沖縄県薬事功労者知事表彰式	沖縄県庁保健医療部長室	沖縄県
10月22日(土)				
10月23日(日)	11:00 ～ 12:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	サンエー石垣シティ店前	八重山地区薬剤師会、沖縄県
	16:00 ～ 17:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	イオン名護店前	北部地区薬剤師会、沖縄県 沖縄県薬物乱用防止協会北部支部

薬と健康の週間　　街頭キャンペーン

北部地区薬剤師会（イオン名護店前）

正しい使い方に理解を

薬剤師会 保健所 薬と健康の週間PR

薬と健康の週間（10月17日～23日）にちなみ宮古地区薬剤師会と宮古保健所は16日、平良西里のディスカウントストアで街頭キャンペーン活動を行った。買い物客に正しい薬の使い方や危険ドラッグの防止、ジェネリック医薬品に関するリーフレットなどを配って理解を求めた＝写真＝。

活動には薬剤師会の会員や保健所職員が参加。開始式では同薬剤師会の川満正啓会長が「薬剤師は医療法観点から、地域に密着した健康情報の拠点として積極的な役割が重要となっていく。また地域の在宅医療をはじめ地域包括ケアの担い手でもあり、他の医療・介護職種や住民に薬剤師の役割と活動状況を積極的に紹介しなければならない。一人でも多くの人に啓発してほしい」と呼びかけた。

同週間は厚生労働省、都道府県、日本薬剤師会などの主催で医薬品及び薬剤師等の役割に関する正しい認識を広く浸透させ、国民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的に行われている。期間中、啓発活動の一環として沖縄銀行宮古支店で「薬と健康の週間」パネル展も行う。

平成28年10月19日(水)　宮古新報

「薬と健康の週間」の街頭キャンペーンで買い物客に「薬の正しい使用」を呼び掛ける関係者ら＝23日午前、サンエー石垣シティ

薬と健康の週間で街頭キャンペーン

八重山地区薬剤師会

「薬と健康の週間」（17～23日）にちなんだ街頭キャンペーンが23日午前、サンエー石垣シティであり、八重山地区薬剤師会（山城専会長、会員16人）と県八重山保健所生活環境班の職員らが、ポケットティッシュや薬の知識が書かれた小冊子を買い物客らに配布し、「薬の正しい使用」を呼び掛けた。

同週間は、医薬品や薬剤師など専門家の役割などの正しい知識を県民に知ってもらうのが目的。

同会の山城会長は「薬を安全かつ有効に飲んでもらうために正しい利用と、かかりつけの薬剤師、薬局を持ってほしい」と話した。

平成28年10月25日(火)　八重山毎日新聞

告知ポスター

薬と健康の週間 10/17(月)▶23(日)

くすりと健康フェア《心身ともに健康》

入場無料

県民公開講演会

平成28年10月20日(木) 午後7時～8時30分

パレット市民劇場

那覇市久茂地1-1-1（パレットくもじ9F）

※ご来場の際は、バス、タクシー、モノレール等をご利用下さい。
※会場の都合により、定員を超えた場合はご入場をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。

手話通訳あります。

演題

沖縄県で"最後まで"自分らしく暮らすために

講師

高山 義浩（たかやま よしひろ）

沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長
福岡県生まれ。東京大学医学部保健学科、山口大学医学部医学科を卒業。国立病院九州医療センター、九州大学病院、佐久総合病院、厚生労働省勤務を経て、現在は、沖縄県立中部病院において感染症診療に従事。また、終末期患者に対する在宅緩和ケアを行っている。群馬大学医学部非常勤講師、神戸大学医学部非常勤講師、日本医師会総合政策研究機構非常勤研究員、沖縄県地域医療構想検討会議委員、沖縄県医師会在宅医療・介護連携統括アドバイザー。
著書に「アジアスケッチ　目撃される文明・宗教・民族」（白馬社、2001年）、「ホワイトボックス病院医療の現場から」（産経新聞出版、2008年）、「地域医療と暮らしのゆくえ超高齢社会をともに生きる」（医学書院、2016年）など多数。

健康とおくすり相談会

日時 平成28年10月20日(木) 午後4時30分～6時30分

場所 パレット市民劇場ロビー

講演会前に薬剤師が健康とお薬の相談を致します。

相談無料 お気軽にご相談ください

日頃使用している医薬品（処方薬、大衆薬）や健康食品、サプリメント類について、また、健康で長生きするための生活習慣（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）について

主催：南部地区薬剤師会

お薬手帳 5つのいいこと

- い 医療機関にかかる時は必ず持っていきましょう
- い 言いたい事や伝えたい事を書いておきましょう
- い 一般用医薬品（OTC医薬品・大衆薬）・健康食品も記録して
- い いつも携帯・いつも同じ場所に保管して
- い 一冊にまとめましょう

かかりつけ薬局・薬剤師をもちましょう。健康とお薬については、お近くの薬局・薬剤師にご相談下さい。

主催：沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会

お問い合わせ：沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 ☎098-866-2215　那覇市健康部保健所生活衛生課 ☎098-853-7963　沖縄県薬剤師会事務局 ☎098-963-8930

学術研修

健康食品・サプリメント研修会報告

イオン薬局南風原店
金城 絵理子

年々、膨らみ続けている医療費を削減する施策として、予防医療、セルフメディケーションの推進が進められている昨今、『健康維持のために』という事で健康食品やサプリメントのニーズが高まってきています。

巷には多種多様な健康食品やサプリメントが溢れている中で、薬剤師というプロフェッショナルである立場として「健康食品・サプリメントとは」から始まり、「患者様・お客様に対しどのような応対をして、どのような選択をすれば良いか」について、第1回から第5回にわたり健康食品・サプリメントに関する研修会を行いました。

健康食品やサプリメントは制度上の位置づけとして、食品に該当し、その食品の中でも機能性の表示ができる食品として位置づけられています。健康食品やサプリメントに対する情報はインターネットや雑誌、新聞、テレビなどで溢れており、誰もが手軽に手に取れる環境にあります。その膨大な情報から正しい情報を見極め、患者様・お客様の「健康」に対する価値観（インサイト）に合わせて提言することは、私たち薬剤師の専門家としての重要な役目となっています。

その役目を果たすためには、何の目的で飲みたいのか（飲んでいるのか）、それが本当に必要なのか否かをしっかりと聞き取るコミュニケーション力も必要となってきます。と、同時に疾病のメカニズムを理解し、原因を考える力も必要となってきます。また、患者様・お客様から健康食品・サプリメントを摂っているとの話を受けた時に、その健康食品・サプリメントの内容・効果がわかり、併用薬との併用の可・不可、有益か害なのかの判断、飲むタイミングは適正かを瞬時に判断できる事が今後はより求められます。患者の訴えから併用できる健康食品・サプリメントを選び、また逆に治療効果の妨げになる恐れがあるものを排除し、患者様のトータル的な健康管理を行っていく事が大切です。

多種多様ある健康食品・サプリメントの中から選ぶにあたり、アレルゲンとなる原材料が含まれていないか、製造あるいは販売業者の名称・連絡先がきちんとしたところかどうか、成分の含有量、効果が謳えるほどのエビデンスがあるのか、価格、摂取形態がその方に合っているものなのかをトータル的に判断して選ぶのが賢明であり、また、『〇〇認証』との学会・団体・協会が認定しているものを

＜講師陣＞

第1回研修会講師
玉城 武範 氏

第2回研修会講師
盛本 直也 氏

第3回研修会講師
阪本 崇彰 氏

第4回研修会講師
名嘉 紀勝 氏

第5回研修会司会進行
金城 絵理子 氏

健康食品・サプリメント研修会プログラム

第1回 平成28年4月21日(木) 20:00 ～ 21:30 「健康食品の機能的価値と情緒的価値」
講師：ミドリ薬局 美里店　玉城 武範

第2回 平成28年5月12日(木) 20:00 ～ 21:30
「患者さんに聞かれて困らないサプリメントのススメ」
講師：漢方みす堂ヴァインドラッグ末吉薬局　盛本 直也

第3回 平成28年6月30日(木) 20:00 ～ 21:30 「サプリメントの種類と選択」
講師：あにも調剤薬局・新生堂薬局 琉球つかざん店　阪本 崇彰

第4回 平成28年7月14日(木) 20:00 ～ 21:30 「サプリメントの種類と選択PART2」
講師：西崎病院　名嘉 紀勝

第5回 平成28年9月 1日 (木) 20:00 ～ 21:30
「健康食品・サプリメントに関する研修会（まとめ)」
講師：ミドリ薬局 美里店　玉城 武範
～パネルディスカッション～

選ぶのも賢明とのことでした。

効果があるということは有害事象も起こりやすいとも考えられるので、安全性の確保も薬剤師に期待されています。

第5回の研修会では最近良く目にする健康食品について、今までの講師を迎え、そして今まで学んできた事を踏まえパネルディスカションを行いました。参加されている会場の方々からも多くの声があがり、活発なパネルディスカッションにもなりました。参加されている方々の関心の高さを感じられる会となりました。

この研修会を通して、今後の健康サポート薬局に勤める『かかりつけ薬剤師』として、医薬品だけでなく健康食品・サプリメントについてもしっかりと把握し理解し患者様に助言できることで、よりよい服薬指導やフォローアップができるようになり、精度の高い服薬情報の一元管理ができると感じました。また、相談できるという機能をより強化することで、地域住民の主体的な健康維持・増進に関する支援も充実したよりよい環境を作る事ができ、健康情報発信の拠点として地域包括ケアの中で薬剤師がさらなる活躍ができると思いました。

そのためにも、日々、医薬品だけでなく健康食品・サプリメントの事についても勉強していく必要があると痛感しました。

第5回研修会ではパネルディスカッションも行った

＜第1回健康食品・サプリメント研修会の講師を務めて＞

ミドリ薬局 美里店
玉城 武範

「相手の気持ちがわからなければ、相談を受けたときにこちらの一方的な押し付けになる可能性がある」。このことが今回、私が最も強調したい方向性です。

「伝えること」と「伝わること」には、コミュニケーション・ギャップがあると常々感じています。勿論、科学的な説明をするための情報の取り方やその視点なども大事なことです。しかし、健康食品の相談・販売を通して､その顧客（相談者）が健康に関して何に困っているのか、健康の何を目標としているのかをしっかりとつかみ取り、その目標（ニーズ）に寄り添う形でのコミュニケーションは、必ずしも科学的(エビデンス)ではないかもしれません。

通常の研修会となると、伝え手が得意とする（専門とする）内容に偏りがちですが、今回は買う方（受け手）の心理、理論、取り巻く環境に注目して話をさせていただきました。今後、会員の皆様が健康食品・サプリメント販売の実践において、「価値の根拠を伝える」ことと「顧客の目標とする健康価値が伝わる」の両輪で、薬剤師として活躍されることを願っております。

＜第2回健康食品・サプリメント研修会の講師を務めて＞

漢方みず堂
ヴァインドラッグ 末吉薬局
盛本 直也

今回このような貴重な講習会の講師として選んでいただきありがとうございます。今回の研修会での感想などを含め報告させていただきます。

今回参加するに当たり、正直どれほどの薬剤師の方がサプリメントについて興味があるのか、どれほどの方が集まるのかわからない状態の中で引き受けた次第でしたが、1回目から本当に多くの方が熱心に話を聞いてくださっていることをみて感銘を受けました。それほどまでにニーズがあったことも驚きです。それと同時に、やはりメーカー主導の講演会ではなく亀谷会長の目指している現場主導の講習会の必要性やそのようなことが求められているということにも気づかされました。それほどまでに、薬剤師の先生方一人一人が調剤だけではなく、少しでも患者様のお役に立つために、どのようにすればよいのか考え、その中でサプリメントを選んで下さり、真剣に受講されていたのではないかと思いました。その分、こちら側として、もし次回があるのであれば更に内容を充実させて期待に応えることができるようにしていきたいと思います。そのことで、薬剤師会の必要性を伝え､会員増に貢献できれば幸いです。

今回は、手探り状態の中で一方的にこちら側の発信で内容を決め話をしてきましたが、聞かれている方の必要性が満たされる内容だったのか、特に最終回のパネルディスカッションに関しては自分的には消化不良なところがありましたが、聴者側の声も聞ければ次回の参考になると思います。より現場で起こっている事例や対処方法なども細かく上げていくのも良いのではないでしょか？最終回のようにパネラーをもとに会場から意見を出していただき、それに答えていくやり方もよりニーズに応えることができると思います。

講師陣の印象はナイスなメンバーでした。本当に一人一人が個性的で、それぞれが思いを持って発表されたので、内容が重複することもなく毎回新鮮な内容でとても良かったと思います。良くまとまったな～と逆に不思議なぐらいですが･･･。そういう意味でも人選も素晴らしかったと思います。またこのような機会がなければ、普段出会うことのないメンバーとの出会いにも感謝します。

手探りの中、初めての試みとしての講演会ではありましたが、現場の薬剤師の方の必要性が見えたこと、みなさん真剣に話を聞かれていたこと、必要性があることが分かったこと、対外講師ではなく薬剤師会の中にもちゃんと話せる講師がいること、自分たちでできる自信がついたこと(事務局は大変でしたが)などを挙げても全体的に有意義な5回の講演会だったと思います。

＜第3回健康食品・サプリメント研修会の講師を務めて＞

あにも調剤薬局
新生堂薬局 琉球つかざん店
阪本 崇彰

【最初に】

「テーマが難しい！」

健康食品・サプリメント研修会の研修の実施依頼を頂いた際、最初に感じたことです。その後、「難しいテーマだよね？」と妻に話をしたところ、「何でそう思うの？」という質問返しをくらいました。私の妻らしい一言でした(笑)。ちょうど、出勤する前の出来事。天気も良く、朝から騒がしい子供たちに癒され、気持ち良く仕事に向かう準備をしている時でした。その一言で「朝から考えさせられるな～」と、少し憂鬱ではありました。ただ、妻の返答に興味が沸き、自己分析をしながら車で職場に向かいました。

その結果、「医薬品にはエビデンスが十分にあり、健康食品・サプリメントにはエビデンスが少なく、研修を実施する自信がない。」を「難しいテーマだよね。」と置き換えている自分に気づきました。さらに、私自身がどうして医薬品にエビデンスがあると捉えているのか？についても考えてみました。

○臨床実験が実施されている。
○添付文書やインタビューフォームがある。
○薬理作用（作用機序）が健康食品・サプリメントと比較し明確であるなど。

ここで、健康食品・サプリメントにおいても、報告されている作用機序や試験結果をまとめても面白いかもしれないと考え「健康食品・サプリメントの種類と選択」というテーマで講師を務めさせて頂きました。

【選定】

多くの方が目にする健康食品・サプリメントの方が興味をもって頂けると思い、コラーゲン、ブルーベリーエキス、CoQ10、カルニチンなどの聞きなれたサプリメントと、代表的な特定保健用食品にテーマを絞りました。

【発見】

これまでの自分の認識を改めさせられる内容が多く見つかりました。例えばコラーゲン。これまでは、コラーゲンを内服しても消化管でアミノ酸に分解されるため何の意味があるのだろうか？と考えていました。しかし、調べていくと、

1) コラーゲンは消化管内でヒドロキシプロリンを含むペプチドに分解される。
2) コラーゲンの摂取によりヒドロキシプロリンを含むペプチドの血中濃度が増加する。
3) ヒドロキシプロリンを含むペプチドは線維芽細胞を刺激し、コラーゲン分泌を促進する。

という報告を見つけました。1)、2) は少数の人に対する試験でした。3)はin vitroの試験です。まだこれだけでは突っ込みどころが満載で根拠としては不十分だとは思いますが、「報告されている内容」と「曖昧な点」を明確にすることができました。

他の例としては、α-リポ酸の服用によるものを考えられるインスリン自己免疫症候群による低血糖の症例報告数が予想より多いことにも驚きました。自分の無知を知れたことが一番の発見かもしれません…。

【最後に】

これまでは、私自身はサプリメントの摂取を希望する患者さんが存在するにも関わらず、サプリメントを否定的に扱っていただけでした。今は、健康食品・サプリメントについて「どこまで報告があるのか？」「どこからが曖昧なのか」を知り、適切に患者さんに情報を提供する必要があると感じています。私の大学時代の恩師が「阪本くん、曖昧だということを曖昧に言ってはいけないよ。現段

階では曖昧であると断定することも専門家の役割だよ。」と仰っていたことを思い出しました。

さて、この原稿を執筆していると目が疲れてきました。でも、ブルーベリーエキスを服用するのではなく、VB12配合の目薬を点眼してパソコンを閉じることとします。

稚拙な文にもかかわらず、最後までお付き合い頂き有難うございました。

参加者が毎回100名を超える大変人気のある研修会となった

＜第4回健康食品・サプリメント研修会の講師を務めて＞

西崎病院
名嘉 紀勝

今回の講習は普段、健康食品を扱うことがない、私も勉強になりました。また、特保の制度が施行された時よりも、商品もかなりの数が増えて、市場において「健康」をうたう商品売り上げが伸びている。このことからも、高いニーズがあり、消費者の意識が高くなっていると考えられます。その中で「薬剤師がどこまで介入できるのか」と考えさせられました。また、「美容」の分野も年間の売り上げ上位を占めていることも興味深いところですが、別の機会にしたいと思います。

発表するにあたり心掛けていたことは、山ほどある商品の中で、消費者（使用者）が求める「効果」とは、どこにあたるのかを考えることでしたが、治療目的、症状の緩和、未病の予防、美容目的、生活改善等と目的だけでも多種多様であり、対象者も患者と消費者の視点からみても千差万別で切りがないと言うのが本音です、準備中は本当に青ざめる思いでした。印象深いことは、新制度の機能性表示食品は省庁と企業の申請等の認可で済む事を知った時になりますが。「広告の信憑性に不安を感じる。」と言うのが第一印象でした。

他にも副作用という言う方はしないまでも、体調不調等の救済制度が未整備、医薬品添付文書の様な説明資料が直ぐに手に入らない状況等の中から、有効な情報を選択する。さらに効能効果の検証には、消費者の様子、ヒアリング、フィジカルの確認等は病院よりも判断をすることが困難ことも多々あると考えられます。薬剤師がどの様に相談・対応できるのか、健康食品を扱う上でも沢山の課題があります。

薬局には、健康拠点としても、また地域ケアの一員としての関わりが求められている最近、私達は、広く情報を取り入れ、健康で安全なセルフメディケーションの推進、医療経済の視点、情報の信憑性、仮設と検証の繰り返しと、研鑽を続け、知識を社会に発信することが求められている様に感じました。その実践が患者様、お客様への薬剤師の働きになると考えられる。その為にも、情報収集、分析力にコミュニケーション能力を磨いていかねばなりません。

私自身も学び多い研修でありました。県薬剤師会に感謝申し上げます。

医薬分業

平成28年度FAXコーナー担当者意見交換会報告

日時：平成28年10月30日（日）13:00 ～ 16:00
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

医薬分業対策委員会
川上 雄一朗

2年に1度の医薬分業対策委員会主催の平成28年度FAXコーナー担当者意見交換会が開催されました。各基幹病院で働くFAXコーナー職員と各地区薬の担当者が参加する当会では、普段の地区薬内での困りごとや他地区薬の意見を聞ける良い機会です。私は、当初委員としての出席予定でしたが、急遽、南部地区担当者として出席することとなり、恥ずかしながらFAXコーナー職員の方々と初顔合わせという状況からのスタートでした。

さて、開会の挨拶として亀谷会長より、FAXコーナー設置の背景とその成果について説明がなされ、その中で将来的には「縮小・廃止」という方向を検討することも当初は含まれていたが、近年、多様な職能が薬剤師に求められている中、FAXコーナー設置継続の必要性が増していると対外的な発信も含めた意欲的な言葉をいただきました。加えて、江夏委員からは現在の薬局・薬剤師の状況について担当職員にもわかりやすい説明があり、これには、出席した職員からも状況が聞けて良かった、患者さんからの質問に対して対応できるようにある程度勉強しておかなければとの声もありました。さらには「“かかりつけ薬局・薬剤師”というニュアンスが変わってきているので、担当者の中で、用語やわからないことや誤解があれば是非地区内で相談して理解してほしい。」とも述べられました。

本題に戻り、例年通り予め各地区にお願いしていましたアンケート結果を題材にしながら、池間委員長による司会進行の下、活発な意見が交わされました。アンケート結果の詳細につては次頁を参照ください。また、当会に関する各地区薬のFAX担当者の感想もご参照ください。

さて、アンケートに記載されている質問事項は、①今困っていること、②要望、③FAX枚数を増やすアイデアです。それらを中心に議論を展開する中で、一部を下記にご紹介します。

(各担当者の意見や発言)

○中部地区では中頭病院の移転に伴い、患者さんからFAXコーナー設置の要望があった。FAXコーナーの必要性を感じる嬉しい出来事である。

○那覇地区では定期的な会合で、担当者と地区薬が近い関係にある。運用面ではFAXコーナーの案内用紙を配付して回収する案を検討している。

○公費の患者さんが関わる意見が交わされた際には、琉大FAXコーナー担当者から、院内にある「医療福祉支援センター　シエント」の紹介があり、患者対応に関する情報提供もあった。(何とか患者さんに貢献したい、そのためには情報収集しなくてはいけないという思いが伝わる一場面でした)

○年末年始開局時間リストの作成にあたり、昨年度分を参考に意見を伺ったところ、会場からは、‘見やすくてわかりやすいが、詳しい情報がほしい’‘夫々の日で開局時間を明示してほしい’‘確実な情報がほしい’‘住所も必要ではないか’などが挙った。(今年度のリストは何らかの形で意見が反映されるかと思います)

現場の意見というのは重要だと感じました。担当者の経験談を聞くと、どうにか改善させたいという思いが溢れてきます。現に患者さんのために行動しており、患者さんのために要望や案を一生懸命考えている姿は素晴らしいものでした。現場でも、手作りで工夫したり、病院側とのミュニケーションを上手く図っていたりと脱帽する内容も多々ありました。亀谷会長からは意見を聞いてくれる中でHP上にFAX担当者の意義を説きたい、配置している院内地図も載せようか検討するという言葉をいただき、是非進めていただきと思います。西川委員からは処方箋をメールで送信するサービスが紹介され、その背景は患者ニーズが存在し、FAX担当者にも求められるものだと考えるが、人を介することが重要であり、必ずしもとってかわるものではないと思うとの意見もありました。

全体を通して感じたことは、担当職員は誠意をもって患者対応を行っていること、そして、業務の支障がないように患者さんを困らせないために迅速で正確な薬局情報(開局時間や公費の取り扱い、臨時休業や閉局など)を欲していることです。その点を理解して頂き、薬局側からのこまめな発信を期待します。ちなみに、私の地区の担当者は、自前のノートを作成しており、手書きで工夫している姿は、こんなにまじめに取り組んでいるのだなと感銘を受けました。南部地区の立場から私個人的には、各地区薬での取組みが大変参考になり、刺激になりました。各地区薬はFAXコーナーの状況をしっかり把握しており、情報共有をしており、医療機関との連携も密にしながら改善・対策へ行動を移しています。特に那覇地区での取り組みは、参考にしたいと感じた内容でした。

参加者の中には、まだまだ言いたいことはあったのではないでしょうか。我々は聞く耳をもって対応していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。参加者の皆様、大変お疲れ様でした。

※以下の配付物がありましたので地区薬内で利活用願います。

○保健薬局一覧(H28.10.27現在)
(CD：エクセルデータ)
→定期的な更新が必要になるが、加工次第で現場ニーズに合わせて活用できる。

○沖縄県在宅医療支援薬局一覧
→沖縄県薬剤師会HPにも掲載されているが手持ち資料として確認できる

○九州厚生局届出受理医療機関名簿
(九州厚生局より)
→参考資料として。各薬局の届出状況が把握できる。

○小児救急電話相談(＃8000)ポスター
→子どもによる医薬品の誤飲防止対策啓発ポスターとして。

FAXコーナー担当者意見交換会に参加して

北部地区薬剤師会 事務局長
屋嘉比 康太

平成28年10月30日（日）に開催されましたFAXコーナー担当者会議に参加致しました。

会議では各地区のFAXコーナー職員から挙げられたアンケート結果を基にそれぞれで抱えている問題や現状報告が行われました。

FAXコーナー業務の大前提として、「患者様が希望する調剤薬局へ処方箋をFAX送信する手伝い」であるが、設置されている病院によっても特色があるため、FAXコーナー職員が抱えている問題も様々である事が強く感じました。

中でも驚いたのが、後日受取でも構わないと患者様が言っているのに、「病院近くの薬局でもらって下さい」と不足している医薬品を揃えずに拒否する、そして、そのクレームをFAXコーナーが受けている、という事例が報告されました。また、FAXコーナーの設置場所が自動精算機の近くにあるがために、使用方法の説明や領収書の取り忘れなども多い事から、業務外の対応が本来FAXコーナー職員の行う日中業務を圧迫している。

このように、FAXコーナー職員は患者様と薬局あるいは病院側に挟まれ、その都度対応に窮している現状も見受けられました。それにも拘わらず、FAXコーナー職員は患者様及び会員薬局のため、少しでも多くFAXコーナーを利用してもらえるようにと、FAXコーナー設置場所を示した案内板やビラを作成する等、工夫を凝らしながら業務を行っているのだと痛感しました。

今回の担当者会議では、沖縄県薬剤師会が新規開設等の地図や変更内容及び公費対応薬局の可否等、最新の薬局情報を集約し、各地区のFAXコーナーへフィードバックしていく事と決定致しました。それは、他地区の最新薬局情報が分からず北部地区でも困っている内容だったため、今後、改善されていく事を期待しております。

また、今回、挙げられた要望や問題点の中にはFAXコーナー職員だけでは解決できない内容も多数あったので、沖縄県薬剤師会並びに地区薬剤師会が各病院と連携を取りながら、一つずつ解決して行く事が必要であり、それがFAXコーナーの利便性向上・かかりつけ薬局の推進に繋がっていくのだろうと思います。

沖縄県立宮古病院FAXコーナー
荷川取 真津枝

皆さん、先月の意見交換会へのご参加お疲れ様でした。私は、今回が初めての参加でした。

本島では、薬局が多い分、出来るだけ患者さんの希望通りの薬局選びが出来なかったり、FAXしてもなかなか受付してもらえず、別の薬局に変えてほしいと言われたり、大変なことが多いという印象を持ちました。宮古地区では、問屋が3ケ所あり、薬局も市内中心なので連絡を入れると早く持ってきますし、薬局の調剤拒否は無く、スムーズにFAXコーナー業務が出来ています。

私たちFAXコーナーが、日頃心掛けている事は、患者さんの目を見て、希望の薬局を聞いたり、「お大事に！」を必ず言うことです。

会の中で、健康サポート薬局やかかりつけ薬局等のお話がありましたが、私たちは無知な部分が多々あるので、これからも学びながら頑張っていきたいと思います。

沖縄県立中部病院・ちばなクリニックFAXコーナー
野原 千寿子・安里 和美

FAXコーナー担当者意見交換会を終えて、他地区のFAXコーナーの状況が把握でき、また交流ができてとても良かったと思います。

問題点としましては、各地区とも各調剤薬局に対してはこれまでと同様で、「FAX送信しても薬の準備ができていない」「患者さんが後日受け取りでも構わないと言っているにもかかわらず、薬の準備をしてくれない」等、毎回代わり映えしない意見が多かったように思えました。

そんな中、「FAX送信件数をどのように増やすか」という問題に対しての那覇地区からの提案で「処方箋をファイルに入れてFAXコーナーでファイルを回収する」という案はとても良い案で、中部地区でも是非取り入れたいと思いました。

あと、他地区ではFAXコーナー職員と地区薬の先生方との話し合いの場が持たれているように思われました。中部地区もそのような話し合いの場を持ってもらい、FAXコーナーの様子を把握してもらう必要があるのではないかと感じました。

最後にこれから進んでいく“かかりつけ薬剤師”についてですが、“かかりつけ薬剤師とは？”などの患者さんの疑問に対して分かり易くテレビなどでアピールして頂けたら地域の薬局への利用者が増えて、FAXコーナーの業務も、基本的な業務（FAX送信して薬の確認）以外にもいろいろな事を求められてくるのではないかなどと思います。

これからもFAXコーナーの会議は定期的に続けて欲しいです。お疲れ様でした。

那覇市立病院FAXコーナー
玉那覇 和美

今回、FAXコーナー意見交換会に参加して、①FAXコーナーを知らない患者さんがまだいる、②処方せんの不備（印もれ、公費番号、保険等）がある、③備蓄確認をしても断る薬局がある、といった、私たちのFAXコーナーで抱えている問題が、他のFAXコーナーでも共通の問題点であることを認識しました。

①のFAXコーナーを知らない患者さんについては、沖縄県立南部医療センターこども医療センターFAXコーナーより「FAXコーナーへの案内用チラシを作成し、病院の協力を得て処方箋と一緒にチラシを渡してもらってはどうか、また処方箋をもらったことを忘れる紛失する等を防ぐため、処方せんを渡す時に色付きのファイルに入れて渡してもらってはどうか、処方箋を持っていることが意識づけされ改善されるのではないか」というアイデアがありました。

②の処方せんの不備については、医事課と連携をとり、また公費扱いについては、指定薬局以外で薬をもらうとお金が発生することを、薬局からも患者様へお伝えして欲しいという意見がありました。

③の「薬が無い」と断る薬局について、那覇地区ではFAXコーナー会議であがったその他の苦情も含め会議終了後に、「患者様から寄せられた声」として那覇地区の薬局へ一斉FAXし、改善をお願いしていることが報告されました。

FAXコーナーで抱える問題点の他に、2016年より開始された健康サポート薬局、かかりつけ薬局の対応についての説明がありました。薬剤師の先生方は、24時間医療機関との連携を図りながら患者様の対応のため、講習を受ける等これからも努力して行かなければならないということを知ることができました。有意義な会議に参加できて良かったと思います。一人でも多くの患者様がFAXコーナーを利用し、信頼できる「かかりつけ薬局」が持てるよう、私たちFAXコーナー職員も心がけて頑張っていきます。

FAXコーナー意見交換会へ参加した皆様お疲れ様でした。

友愛会 南部病院FAXコーナー

友利 洋子・糸数 幸代

沖縄県薬剤師会館において、2年に1度のFAXコーナー担当者意見交換会が行われました。私は、院外処方せんFAXコーナーに勤務して2ヶ月余りで初めて参加します。FAXコーナーの勤務に着くと、処方箋の事前チェック、(印鑑もれ、枚数確認）など、かかりつけ薬局の案内（誘導してはいけない）をしたり、FAXコーナーの大変さを感じております。

南部病院では、ほとんどの患者様がFAXコーナーの存在を知っており、医事課の職員、総合案内の方も私達の業務に協力してくれていますので非常に助かります。

ところで、FAXコーナーが一番困っている点は雨降りの時です。患者様が外の薬局へ行くのを嫌がるので、患者様を説得するのに苦労しますが、私達FAXコーナーが努力していることは、笑顔であいさつ、処方せんを渡す際に「ありがとうございます」との声かけを心掛けていることです。かかりつけ薬局がお休みの時は、明日受取りますとのコメントをつけて、FAXしたり、もしくは他の薬局を案内したりと患者様のサービス向上に努めています。さらに、院外薬局から配達可、臨時休業など薬局の色々な情報を各薬局の方から発信して頂いているので、とても参考になり役立っています。私達FAXコーナーも安心して業務に取り組んでおります。

今回のFAXコーナー担当者会議の後、第1回の与那原中央病院・豊見城中央病院・南部病院3者合同の集りがあります。楽しみです。

このようにして、人と人との触れ合いの中で皆様の考え方が、自分自身にプラスになる事は、間違いない事だと思っております。これからも、患者様が喜んで下さるように心掛け、自分自身の振る舞い等を日々の業務の中で振り返りながら、院外処方せんFAXコーナーは素晴らしい仕事だと自覚し、取り組んで参りたいと思っております。

八重山地区薬剤師会FAXコーナー

中村 直子

私は今回で3回目の参加でした。これまでは、業務の中で「○○さんの、かかりつけ薬剤師さんは○○薬局の○○さんだからそこにFAXしてね！」と言われ、私達はその担当の薬剤師を“かかりつけ薬剤師”と言っているのだと思っていましたが、今回参加して、4月から改正された“かかりつけ薬剤師制度”という、患者さんと同意書を交わして、使用している薬の情報を一元的・継続的に管理する制度ができた事を学びました。また、“健康サポート薬局”という健康相談窓口として病気にかからないように、または健康状態に応じて受診勧奨する役割を担うというように、薬局も変わっていく事などを学ぶ事ができました。

また、参加して今回も感じたのは、沖縄本島のFAXコーナーは、案内する薬局の数も多く、来院してくる患者さんの範囲も広く多様で、それぞれに合わせて薬局の案内をしているのに後から苦情がきたりして…大変だなぁと思いました。公費の患者さんの薬局登録受付をしたり、全地区の地図を作成したり、それぞれ業務に違いはあるけれど、患者さんのためにとの思いは一緒だと感じました。

八重山地区FAXコーナーは、薬局との連絡が取り易く、医事課（受付）の方は、FAXコーナーに行くように患者さんを案内してくれたり、私達も会計待ち（番号札案内）の表示場所や精算機の前で困っている方がいたら教えたり、お互いが協力しながら働いていて、凄く良い環境だと実感しています。これからも、各薬局や医事課の方々と協力しながら、患者さんの要望にスムーズに対応できるように情報交換をしていきたいと思います。

今回も、他のFAXコーナーの方達との意見交換会に参加できて、有意義な時間を過ごせた事に感謝しています。有り難うございました。

琉球大学医学部附属病院FAXコーナー
崎濱 祐美子

去る10月30日に、2年に1度の恒例のFAXコーナー担当者意見交換会が開催され、久しぶりに各地区のFAXコーナー職員が集いました。

今回は、意見交換会に先立ち、江夏副会長より、平成28年4月改正の「かかりつけ薬剤師の資格の定義」や「健康サポート薬局」について説明がありました。かかりつけ薬局の推進、普及を担うFAXコーナー職員にも、時代と共に変化する薬剤師、薬局制度の中身をある程度知ってもらおうという意図からでした。意見交換会にこのようなプチ勉強会を取り入れていただき嬉しく思います。新たな知識を得て、仕事に対するモチベーションが上がり有意義でした。これからも患者さんや薬局に必要とされる存在であり続けるため、私たちもスキルアップに努め、更に貢献できるよう日々精進したいと思います。企画していただきありがとうございました。

さて、本題の意見交換会では、お互いが日頃抱えている困り事を、予め事務局に提出したアンケートに沿って出し合いました。困り事の多くは毎回取り上げられ、それは病院や応需薬局が絡む問題のため一筋縄では解決できないことを示していますが、同じテーブルを囲み、事例や工夫を共有することは、FAXコーナー間の連帯感を高め、いざという際の協力体制に繋がるメリットがあると思います。

私たち琉球大学医学部附属病院FAXコーナーは、懸案事項であったFAXや電話機の買い替えについて、亀谷会長から前向きな回答をいただけたことは大きな前進でした。ありがとうございます。

地図や薬局情報を県薬事務局で一元化していくことを全体で確認出来たことも大きな成果だと思います。尚、地図に関してこの場をお借りして一つ要望させていただければと思います。琉球大学医学部附属病院FAXコーナーは全県区が対象のため、これまでも各地区より地図を提供していただいておりましたが、那覇市内全体を網羅した地図がかなり古い上､新規薬局をどんどん追加していくため、スペースの限界や見え辛さの問題を抱えております。県薬事務局にて那覇市内全体を網羅した地図を作製していただき充実を図ることで、かかりつけ薬局の推進と患者サービスの向上により一層役立つと思います。ご検討よろしくお願い致します。

貴重な場を設けていただきました亀谷会長始め江夏副会長、医薬分業対策委員長の池間先生、並びに関わってくださった先生方、県薬事務局に感謝申し上げます。ありがとうございました。

＜FAXコーナー担当者意見交換会出席者＞

○亀谷　浩昌（沖縄県薬剤師会会長）　○江夏　京子（沖縄県薬剤師会副会長）
○池間　記世（医薬分業対策委員会委員長）　○吉田　洋史（医薬分業対策委員会副委員長）
○姫野　耕一（医薬分業対策委員会副委員長）　○西川　　裕（医薬分業対策委員会委員）

地区担当役員	役職	FAXコーナー	担当職員
成川　賢一	北部地区薬剤師会副会長	沖縄県立北部病院FAXコーナー	屋嘉比康太（北部地区事務局長）
		北部地区医師会病院FAXコーナー	
仲座　方利	中部地区薬剤師会副会長 県薬医薬分業対策委員会委員	沖縄県立中部病院FAXコーナー	野原千寿子
		ちばなクリニックFAXコーナー	安里　和美
川満　直紀	那覇地区薬剤師会会長 県薬医薬分業対策委員会委員	沖縄県立南部医療センター・こども医療センターFAXコーナー	與那嶺智子
			比嘉　直見
		那覇市立病院FAXコーナー	玉那覇和美
			津波古峰子
		沖縄赤十字病院FAXコーナー	知念　聡子
			大城美和子
		大浜第一病院FAXコーナー	比嘉　　瞳
			中村　圭子
川上雄一朗	南部地区薬剤師会理事 県薬医薬分業対策委員会委員	友愛会南部病院FAXコーナー	友利　洋子
			糸数　幸代
		豊見城中央病院FAXコーナー	赤澤　京美
			島根　美佳
		与那原中央病院FAXコーナー	
下地　　仁	宮古地区薬剤師会理事 県薬医薬分業対策委員会委員	沖縄県立宮古病院FAXコーナー	砂川　春美
			荷川取真津枝
金城　智史	八重山地区薬剤師会FAXコーナー担当役員	沖縄県立八重山病院FAXコーナー	中村　直子
―	沖縄県薬剤師会	琉球大学医学部附属病院FAXコーナー	下地　和美
			崎濱祐美子

実務実習

平成28年度Ⅱ期薬学生実務実習報告

薬学生実務実習委員会
委員長　我喜屋 美香

薬学生実務実習7年目の第2期（平成28年9月5日～11月19日）11週間が終了しました。保険薬局での実習生は17名（8大学：九州保健福祉大学・福岡大学・第一薬科大学・長崎国際大学・東邦大学・神戸学院大学・徳島文理大学香川・徳島文理大学）でした。指導薬剤師をはじめ、同施設の関係者の皆様、ありがとうございました。

毎回ですが、ふるさと実習の良さを実感します。実習生が大学の枠を越えて切磋琢磨に実習されている姿は、将来の薬剤師会の姿です。各地区の薬剤師の先生方とも触れ合うことができました。今後とも、新世代の薬剤師へのご協力をお願い致します。

以下に、実習生の感想文と実習薬局、実習協力機関を掲載いたします。本当にありがとうございました。今後も何かお気づきの点があれば当委員会までご一報ください。

実習薬局（15薬局）　（以下、順不同・敬称略）

○レモン薬局 美里店（2名）
○たいせい堂薬局 首里店
○レモン薬局（2名）
○あかみち薬局 新赤道前店
○クララ薬局
○アシスト薬局
○あいらんど薬局 さつき店
○そうごう薬局 安里店
○会営薬局うえはら
○豊見城薬局
○吉田薬局 はんたがわ店
○つくし薬局
○うさぎ薬局
○すこやか薬局 野嵩店
○ゆい経塚薬局

協力施設・委員会・団体

○会営薬局医療センター前
○ドラッグイレブン 新都心店
○(株)アトル沖縄営業所
○那覇地区薬剤師会
○中部地区薬剤師会
○学校薬剤師部会
○学校薬剤師の先生方
○ぼたん薬局
○がじまる薬局
○(株)薬正堂
○なごみ薬局
○福寿薬局
○(株)琉薬
○こくら虹薬局
○ドラッグイレブン 佐敷店
○ミドリ薬局 美里店
○すこやか薬局 具志川店
○(株)スズケン沖縄薬品
○ヴァインドラッグ あがり浜店

実務実習薬学生 平成28年度Ⅱ期生からの体験記・感想

徳島文理大学5年　端山 一彦
（レモン薬局 実習　指導薬剤師 平田 崇）

僕はレモン薬局糸満店で実習させていただき、調剤薬局における薬剤師の仕事を学ぶことが出来ました。薬局薬剤師は病院薬剤師と違い、検査値や診断名などの確認が出来ないため、患者さんとのコミュニケーションによって聞き出すことが重要だと感じました。患者さんの年齢や性別、薬の種類などで、どのような疾患にかかっているか推測し、投薬することは非常に難しく苦労しました。ですが、実習後半には投薬にも慣れてきて薬以外の話なども出来るようになりました。

外部実習では学校薬剤師、OTC、漢方、お薬相談会、在宅業務など様々な項目があり、薬剤師の仕事の幅の広さを感じることが出来ました。

今回の実習で学んだことを生かして地域に貢献の出来る薬剤師になりたいです。レモン薬局の皆様、外部実習などでご協力いただいた多くの皆様、ありがとうございました。

長崎国際大学5年　髙安　結
（レモン薬局 実習　指導薬剤師 平田 崇）

11週間の薬局実習を通して、薬局薬剤師の活躍の幅広さを感じることができました。在宅医療・学校薬剤師・中学高校での薬物乱用教室など、薬局での薬剤師の仕事だけではなく地域の薬剤師だと思いました。

レモン薬局では、主に耳鼻科領域の治療法や薬、乳幼児の指導の仕方などを学び、大学では中々学ぶことのできない実践的な知識をつけることができました。乳幼児の指導の際には、指導する方に対して薬の効果や副作用のほかに、子供用に服用方法や誤飲防止などの特別な指導をする必要があり、特に苦味がある抗生剤の粉薬の際には一緒に服用すると良いもの、逆に一緒に服用すると苦味が増すものがあり、その例を提示するといったことも指導することを初めて知りました。如何にして子供が薬を飲んでくれるか、コンプライアンスの向上を目的とした指導であり、指導する薬剤師自身が薬の味を分かっていなければ指導できないことだと感じました。

外部実習にも多く行かせてもらうことで、様々な領域の処方についても学ぶことができました。それと同時に、監査システムや水剤自動分注機、アミーボイスなど業務を効率よくかつ安全に行えるようなシステムがたくさんあることに驚きました。

他愛のないおしゃべりや、ちょっと気になることでも薬剤師に相談している患者さんを見て、薬剤師を信頼しているのだと感じることができました。患者さんに合ったコミュニケーションを取ることで、薬剤師との間に信頼関係が築けるのだと学びました。この実習で多くの患者さんに対して服薬指導することで、いろいろなタイプの患者さんがいることを身をもって感じました。患者さんに合わせた対応が取れるように、これから少しずつコミュニケーション能力を高められるように努力していきたいと思います。

11週間の実習において、レモン薬局の職員の皆様をはじめ、県内の多くの薬剤師さんにご指導いただきました。この実習を通して、学んだこと・感じたこと活かして国試に臨み、薬剤師になりたいと思います。本当にありがとうございました。

福岡大学5年
木村 奈美
（あいらんど薬局 さつき店 実習
指導薬剤師 亀田 真弓）

私は、11週間、あいらんど薬局さつき店を中心に実習させてもらいました。そこは、患者さんとの信頼関係が感じられるような地域の薬局でした。

最初は、薬局にある薬を把握するために調剤業務からスタートし、その傍らで処方箋の受付、投薬方法を見聞して学びました。近くが整形外科だったため、鎮痛薬・抗骨粗しょう症薬・湿布薬を中心に学ぶことができました。しかし、9割、整形外科から処方される薬で多くの処方箋・薬に触れる機会の無いことから、そのことを考慮して豊見城中央病院という総合病院の門前の豊見城薬局にて1週間近くの実習も行いました。そこでは、急性期病院の門前であったため、特徴のある処方箋から珍しいお薬に触れたり、毒薬・麻薬の取り扱いについて学ぶことができました。さつき店では、患者さんに服薬指導を行う機会が多く与えられて、薬歴簿・処方箋から事前に読み取る力、患者さんとのコミュニケーション力、soapにまとめる力を伸ばすことができました。

外部実習も多く、漢方製剤、OTC実習、地域ケア会議、薬局製剤、学校薬剤師、在宅医療、卸会社見学（スズケン）など、薬剤師が幅広い分野で活躍していることを知り、良い体験もできました。地域ケア会議では、ケアマネジャーが介護支援を受けている高齢者の事例課題について、他職種で話し合い、課題を地域連携につなげていました。病院以外でもチーム医療というのを感じることができ、地域と薬剤師の関わりについても学ぶことができました。

実習を通して、主に調剤・投薬の業務を行うことにより、改めて調剤する責任を感じ、投薬においては、薬歴を確認して治療経過の把握、患者さんとのコミュニケーションなど現場に出ないとなかなか体験できないことをさせてもらい、すごく勉強になりました。他に、どのように説明したら分かりやすいのか、コンプライアンス向上のためにどのようにしたらよいのか、また、自分の説明次第で服用状況の良し悪しに繋がるということも学びました。今回の実習を踏まえて、私は、患者さんも安心して投薬を受けられる、親しみと信頼を持たれる薬剤師になりたいと思いました。

最後になりましたが、指導薬剤師さんをはじめ、医療事務さん、豊見城薬局の皆さん、外部実習でお世話になった方々、全てに感謝いたします。本当にお世話になりました。11週間、有難うございました。

オリエンテーション

長崎国際大学5年
島袋 真実
（豊見城薬局 実習
指導薬剤師 長谷川 幸司）

9月から二期の薬局実習が始まり、あっという間に11週間が過ぎてしまいました。実習が始まる前は、実習先が門前薬局のため非常に忙しそうで教えてもらえるのかな、11週間やっていけるかなと不安でした。しかし、薬局の方々に温かく受け入れていただいて、そのような不安は無くなりました。また、忙しい中、様々な事を教えていただき、机上では学ぶことのできない充実した11週間を過ごす事ができとても感謝しています。

調剤では、計数調剤、散剤、軟膏、水剤、一包化などを行いました。そして初めてミスゼロ子を使用して調剤を行い、薬局内でのミスを減らす工夫が他にもいくつか見られました。調剤を何度もしていくうちに、自分がよく間違える時の癖を発見し、注意しながら調剤することができました。また、処方箋を見て、どんな疾患なのか少しずつ予想できるようになりました。

服薬指導では、コミュニケーションの大切さを学びました。薬局では、院内薬局のように前もって患者さんのカルテを見る事が出来ないため、いかにして会話から情報を聞き出せるかが、コンプライアンス向上・副作用や相互作用を防ぐ上でとても重要なことだと思いました。そこで得た情報を誰が見ても分かるように薬歴に書く難しさと大切さを学びました。

医療事務の実習では、受付から会計までの流れ、どのようにして調剤室まで処方箋が送られているか、調剤録の保管・管理等について知る事ができました。

外部実習では、在宅医療、漢方、ドラックストアでのOTC、薬局製剤、卸、学校薬剤師、夜間診療、地域ケア会議やお薬相談会にも参加しました。そこでどのような業務をしているのか体験し学ぶことができ、薬剤師には調剤・服薬指導以外にも数多くの業務があり、幅広く活躍しているなと思いました。また、系列店の見学、デイケア、精神病院も見学させていただき、それぞれの薬局での雰囲気の違いや置いてある機械や薬剤の種類の違いを知る事ができました。

薬局実習を通して、薬剤・病態についての知識、地域との関わり、コミュニケーションの大切さを学ぶことができ、11週間前よりも大きく成長できたと思います。この実習で学んだことを活かし、患者さんや他のスタッフから信頼されるような薬剤師になりたいと思います。

会営薬局医療センター前で実習

徳島文理大学香川5年　新川 祐作
（すこやか薬局 野嵩店 実習　指導薬剤師 佐藤 雅美）

私は、すこやか薬局野嵩店で実習をさせて頂きました。本店舗の調剤室は二つ完備されており、一方は在宅業務専用、もう一方は外来業務専用として使用されていました。私は、午前中は在宅業務、午後は外来業務というスケジュールで両方の業務に毎日関わらせて頂きました。

在宅業務では、介護施設と個人宅に同行させてもらいました。対象患者は特定の年齢層ではなく高齢者から小児までおり、特定疾患や終末期、身体の不自由な方など、通常、外来業務では対応する機会が少ない患者さんと多く接することができました。また、患者さんだけでなく看護師や介護士、ケアマネさんからのヒアリングや担当医師に送る報告書の作成なども行いました。さらに、地域包括ケア会議や病院での患者退院前カンファレンス、誤薬についての勉強会など様々な地域活動にも参加させて頂きました。

外来業務では、主に近隣の内科や眼科の処方箋を、一部は総合病院などの処方箋を扱いました。様々な処方箋を扱うことで処方箋からある程度の病態を予測する力が身に付きました。調剤・鑑査業務では、はじめはゆっくりしかできなかったのが、数を重ねていくうちに首尾よくできるようになりました。しかし、慣れ始めた頃に数回ミスを犯してしまいました。ただ、その失敗談からどのように調剤過誤が起こるのかも身をもって知ることができました。また、タイプの異なった多くのインスリン製剤や吸入器の扱い方、麻薬・向精神薬や毒薬・劇薬などの扱い方・管理方法、調剤過誤・事故時の対応、棚卸業務、レセプト請求方法など多くを指導して頂きました。

ここには全て記すことはできませんが、今回の薬局実習では薬剤師に求められる資質―知識・洞察力・対応力、コミュニケーション力、献身的精神、誠実さ、主体的・教育的な活動―を多く学ぶことができました。私自身が薬剤師になり実際に現場に立ったときに今回の実習で学んだことをすべて活かせるように、残り少ない学生生活の中でも意識しながら勉強していきたいと思います。

東邦大学5年　新川 真樹子
（うさぎ薬局 実習　指導薬剤師 川上 善久）

私にとって薬局実務実習は大変貴重な3か月間となりました。薬局実務実習では処方箋受付から投薬まで全ての業務を経験させていただきましたが、初めは分からないことばかりで､大変に思うこともありました。しかし、マンツーマンで丁寧な講義をしてくださったり、自身でも一つ一つ業務がこなせるようになるにつれて、楽しさとやりがいを感じることができました。

特に、薬局実務実習では、OTCや卸売販売業者の見学、漢方・薬局製剤、在宅など、外部実習がとても充実していたように思います。私は、外部実習で自分の興味のある分野をみつけることができました。そこで、指導薬剤師さんの支援の下、さらに漢方相談の見学もさせていただくことができました。そのほかにも、薬剤師会の方もサポートしてくださり、普段は見ることが出来ない行政の業務についても見学、お話を聞くことができ、薬剤師の活躍の場の広さを実感しました。

たくさんの方々の支えによって、自分の興味のある分野を発見し深く掘り下げることができた薬局実務実習は、単に薬局の業務について学ぶだけでなく、将来何をしたいかという目標をみつけるきっかけとなりました。3か月間という初めは長く思えた実習ですが、大学では学ぶことができない新鮮なことばかりで、終わってみればあっという間の充実した3か月間でした。この経験を活かして、自分のやりたい目標にむかって勉強に励み、将来、薬剤師の一人として活躍できればと思います。

第一薬科大学5年　鉄本　愛
（つくし薬局 実習
指導薬剤師 具志堅 興也）

約2ヶ月半の実習を通して、たくさん貴重な経験をさせていただきました。

つくし薬局では、小児科と皮膚科の処方箋が多かったので、水剤・軟膏・散剤の調製を特に行いました。初めは、恐る恐る少しずつだったので時間がかかっていましたが、かなりの回数をこなし、今では要領良く短時間で行うことができます。また､小児の処方では､年齢・体重から処方薬の用法用量が大きくずれていないかどうかがわかるようになってきました。最初は、処方箋の薬の名前と数量ばかりに意識が向いてしまっていました。しかし､医師は患者さんに合わせて処方しており､その背景を捉えて指導することが大事だと気づくことができました。そのために、薬剤師は薬歴や問診票をもとに患者さんに合った質問・会話をすることで、患者さんという人物全体を捉える視点を持つ必要があります。その上で､その人その人に合わせた指導を行い､きちんと理解してもらうことが大切なのだ､と実習を通して実感しました。患者さんに合わせた処方の一例としては、小さい子どもや高齢者の方に眠気が出やすい抗アレルギー薬が処方されることがあり、家族への指導の際にそのことを伝えると、夜は眠って欲しいから助かる、と言われることもしばしばありました。薬の副作用とは悪い面ばかりではないのだな、と面白く感じました。他に、赤ちゃんや小さい子の保護者は、薬の影響に対して敏感になって不安を抱えていることや、その不安を解消するためにどのような指導が必要なのか学ぶことができた事が私にとって大きな経験となりました。

外部実習では、医師と患者さんだけではなく、地域住民と関わる薬局薬剤師の業務を体験することができました。慣れない服薬指導で、一から十まで薬の説明をしてしまった私に､「丁寧に説明してくれて、ありがとう。」と言ってくれた患者さんからの言葉。この時に感じた気持ちを大切に、これからも頑張っていきたいと思います。

福岡大学5年　照屋 えり
（クララ薬局 実習
指導薬剤師 宮本 直樹）

9月5日から11月19日までの11週間、クララ薬局で薬局実習をさせていただきました。1期で病院実習を終えていたので実習に対する不安は少なかったのですが、患者さんのカルテを見ることができないため処方箋から患者さんの情報をある程度予測しなければならないことに戸惑いを感じました。1ヶ月ほど調剤をメインに実習を行うことで、基本的な薬剤についてはわかるようになりました。疑問点がある時は指導薬剤師の宮本先生に丁寧に教えていただき、とても勉強になりました。調剤に慣れてくると、規格間違いや数量間違いなどミスが多くなってしまいました。監査の時、薬剤師の方々が気づいてくれて、患者さんの手に渡ることはなかったのですが、確認を怠っていたので実習終盤には改めて気を引き締め、ミスを無くすことに努めました。調剤一つ一つを丁寧に行うことで、重大なアクシデントを防ぐことになると思いました。

服薬指導では、患者さんから話を聞き出すことに重点を置き、いくつかの質問をしながら服薬コンプライアンスは良好なのか、残薬は無いか、副作用は出ていないかなどの確認を行いました。服薬指導の難しさを改めて感じましたが、積極的に話をしてくれる患者さんが多かったのでとても良い経験になりました。

外部実習として、学校薬剤師、OTC実習、卸見学、在宅医療などがあり、地域で活躍する薬剤師についても学ぶことができ、病院や薬局の薬剤師としての役割だけでなく、様々な薬剤師としての働き方を知ることが出来ました。また、他大学の学生との交流もあり、大学生活や将来のことなどいろいろな話ができ、とても有意義な実習でした。

大学の授業や病院実習では学ぶことが出来なかったことを多く学ぶことができ、とても充実した薬局実習となりました。指導薬剤師の宮本先生をはじめ、クララ薬局の皆様、外部実習でお世話になった先生方、実習中に関わった全ての方々に感謝致します。この経験を活かして、これからも頑張っていきたいと思います。

福岡大学5年　福家 成美
（たいせい堂薬局 首里店 実習
指導薬剤師 大塚 成一郎）

私はこの2か月半、たいせい堂薬局首里店で薬局実習をさせていただきました。

実際に服薬指導をさせていただいたのですが、最初は、調剤薬局は病院と違ってカルテを見ることができないので、この患者さんがどんな病気でこの薬を服用しているのかがわからず、十分な説明ができませんでした。また、患者さんからどう情報を聞き出せばいいか分からず、自分の未熟さを痛感しました。毎日、薬剤師の先生がどのように服薬指導をしているかを学び、投薬後に必ずアドバイスをいただくことで、徐々に患者さんとコミュニケーションが取れるようになってきました。2か月半の間に、顔なじみの患者さんもでき、地域に根差した薬局で実習できて良かったと思いました。「入ってきた患者さんをお待たせしない、処方箋は両手で受け取る、患者さんの目線で話す、玄関までお見送りする」など、誠意をもって丁寧に接するということも教えていただきました。

また、卸の見学や学校薬剤師の業務の体験などの外部実習を通して、薬剤師は病院や調剤薬局だけでなく、色々な場所での仕事があるのだと知ることができました。特に、学校薬剤師の業務体験では、母校の城東小学校に行ったこともあり、学校薬剤師の地域への関りも強く感じました。

今回の実習では、専門的な薬の知識だけでなく、社会人としての心構えや薬剤師としての心構えなどを教えてもらい、とても充実した実習になりました。

一番お世話になった大塚先生、優しく見守ってくれたたいせい堂薬局の皆さま、実習中に色々と気にかけてくれた我喜屋美香先生、外部実習でお世話になった皆さま、本当にありがとうございました。この実習で学んだことを活かし、将来、地域に貢献できる薬剤師になりたいと思います。

長崎国際大学5年　玉城 愛梨
（そうごう薬局 安里店 実習
指導薬剤師 福永 順一）

私は、そうごう薬局安里店で実習をさせていただきました。

実習の初めは薬の配置場所が分からなかったり、処方箋上に記載されている商品名と一般名をうまく結び付けられなかったりといったことにとても悩まされました。そうごう薬局ではJANコードを読み取る機械を用いて調剤を行っていて、薬についているJANコードと事務さんのレセコンへ入力した内容とを照合させて取り間違えのミスを無くす工夫がされており、時間はかかったものの正確に薬を取り揃えることができました。慣れてきて素早く取り揃えを行えるようになった頃、今度は確認が怠慢となってしまい計数間違えや先調剤時の規格間違えなどのミスが目立つようになってしまいました。そこで慣れの恐ろしさ、複数回のチェックの重要さを再認識し常に意識的に行うことでミスを無くすことができました。

投薬時、病院と違って具体的な検査データなどでの経過の観察ができないため、患者さんの状態の把握が非常に難しく感じました。患者さんとの会話の中で緊張もあって気の利いた言葉をかけられなかったり、予想外の問いかけに固まってしまったりと反省点が多く、コミュニケーションの難しさや必要性を深く感じました。

また、県内にある別のそうごう薬局でも実習をさせていただき、門前の診療科によって扱う薬の種類や剤型、患者さんの年齢層など様々な違いがあることを感じ、“薬局”と一括りに言っても様々な形があることも学びました。

実習が始まる前、薬局で働く薬剤師は在宅業務や学校薬剤師としても活躍している、と授業で学んではいたものの、正直、具体的なイメージを描けずにいました。実際に薬局外へ出て在宅や学校薬剤師の仕事に同行してみて、薬局薬剤師の業務の広がりを直に感じることができました。

薬局での実務実習を通して学んだ多くのことを活かして、これからの勉強を頑張ると同時に患者さんに寄り添える薬剤師になれるよう努力したいと思います。11週間ありがとうございました。

神戸学院大学5年　照屋 華凜

（あかみち薬局 実習　指導薬剤師 上間 秀子）

9月5日からの11週間、うるま市のあかみち薬局で実習させていただきました。他の実習生は１期で病院実習を終えているのに対し、私は2期からのスタートで、最初は緊張と不安でいっぱいでした。しかし、あかみち薬局の皆さんが優しく迎え入れてくれて、分からないことや困っていることがあるとすぐに助けてくれました。おかげで少しずつではありますが、散剤の分包や一包化など出来ることが増えてきました。検品作業については早い段階から任せてもらえて、配達に来られる卸の方々ともお話ができるようになり、嬉しかったです。

服薬指導の際、患者さんに「実習生にお薬の説明をさせてもよろしいですか？」と伺うと、皆さん快く了承してくれました。それはきっと、今まであかみち薬局の皆さんが患者さんとの信頼関係をしっかりと築けているからだと思いました。その関係を崩さないようにと思うのですが、最初の頃は緊張が大きくて、症状の聞き出しも説明も拙く、反省することばかりでした。そんな時、先生方は「この点を確認できたのは良かったね。次はこういう点を説明できたらいいね。」と丁寧にアドバイスしてくださいました。患者さんが答えやすい質問の仕方や質問に答えられる知識など、今後の課題もたくさん見つけることができました。

あかみち薬局では、本店だけでなく、一人薬剤師で運営している3店舗でも実習を行うことが出来ました。それぞれ近くの病院の診療科が異なっており、様々な内容の処方箋、薬剤を見ることが出来ました。同じインフルエンザでも医師によって処方内容が全く違うことに驚きました。また、一人薬剤師ならではの工夫も見ることができました。

在宅医療の見学や漢方実習などの外部実習を含め、多くの方に優しくしていただいたので、いつかお返しができるように沖縄に必要とされる人材になりたいと強く思いました。

最後に、今回の薬局実習では薬局の皆さんをはじめ、患者さんや卸の方々、外部実習での先生方などたくさんの方にお世話になりました。本当にありがとうございました。

徳島文理大学5年　河邊 結子

（ゆい経塚薬局 実習　指導薬剤師 親川 智史）

私は、ゆい経塚薬局さんで実習をさせていただきました。大学では経験できないことをたくさん学ばせていただきました。薬局薬剤師は調剤や服薬指導だけではなく、患者さんの悩みや検査結果を見てアドバイスなどをすることも多いのが印象的でした。ただお薬について知っているだけではなく、検査値や病態のこともしっかり勉強していないといけないと思いました。指導薬剤師さんは患者さんからの相談などに的確に、わかりやすくアドバイスをしていて、すごく輝いて見えました。

実習後半は服薬指導をさせていただきました。監査、薬歴をみること、お薬の説明をすること、最初は薬歴の見方や内容を読んで、今回聞くべきことなどを考えるだけで、頭がいっぱいになって説明不足などもたくさんありました。そんな時は指導薬剤師さんに助けてもらいながら服薬指導をすることが出来ました。

私も薬剤師になったら患者さんの気持ちに寄り添えて、頼られる薬剤師になりたいと思いました。薬局だけではなく、在宅、学校薬剤師など外部研修として勉強させていただいて、薬剤師の仕事の幅の広さを知ることができました。病院に比べると学べることは少ないというイメージでしたが、薬局薬剤師はまた違ったことをたくさん学べて、病院に比べると地域に密接に関わることができるお仕事だと感じました。11週間があっという間に感じるほど、とても楽しく、充実した実習でした。ゆい経塚薬局の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

長崎国際大学5年　有銘 千賀子
（レモン薬局 美里店 実習
指導薬剤師 谷澤 大輔）

11週間の実習を終えて学んだことがたくさんあった。学校で習っていたことと、実際に薬局で学ぶことと若干の差があり、最初は少々戸惑ったが、これが現場でしか学べないことなのだと思った。

実習先が皮膚科と内科の門前薬局なので、皮膚症状の患者さんが多く、どう服薬指導をしようか、どういう風に言ったらうまく伝わるかを試行錯誤しながら、指導薬剤師の先生の投薬方法を見ながら学び、服薬指導をすることが楽しかった。最初はうまく伝わらなくて患者さんに困った顔をさせていたが、だんだんとそれが減り、最近では笑顔で帰って行かれる患者さんを見ることが多くなった。病院より患者さんに近く、お話がいろいろできることが何よりも楽しかった。

薬局よりも患者さんと近いなと感じたのは在宅だった。今までの在宅のイメージは居宅や施設に行き、服薬指導をしたり、副作用の確認、服薬状況の確認をすることが薬剤師としての役割だと思っていたが、実際に行くとそれだけではなくて、バイタルを図ったり、服薬状況を改善するための一人一人に合わせた工夫を行っていたり、最も感銘を受けたのは、患者さんと家族同然の関係を築いていたことだった。患者さんといかに近づけるか、安心感を与えられるかを重要視しており、背中を撫でたり、握手をしたり、触れられることで人は安心感を持ち、どんどんと心を開いてくれるのだということを学ぶことができた。

その他にも、漢方実習やOTC実習、薬局製剤実習などの外部実習でもいろんなことを学び、見て、感じることができた。

11週間の実習は長いようで、とても短く感じ、濃い実習期間だったなと思う。いろんなことを教えてくれた薬剤師の先生方には感謝の気持ちでいっぱいで、指導薬剤師さんには何も知らない状態から丁寧に教えてくださり、とても勉強になった。実習で得たことをこれからも忘れず、薬剤師になって生かしていきたいと思った。11週間有難うございました。

福岡大学5年　池間 瑞葵
（アシスト薬局 実習
指導薬剤師 糸数 理江）

2ヶ月半という短い間の研修の中で、指導薬剤師さんを始め、スタッフの方々には沢山の指導、ご鞭撻を頂き、実習前とは比べ物にならないほど多くの事を学び、とても充実した薬局実習でした。

実習内容と致しましては、主に循環器系・糖尿病・呼吸器系等の代表的な病態と各疾患に適応のある薬剤一つ一つの特徴等を教えて頂きました。また、処方箋の見方についても詳しく教えて下さったため、徐々に処方箋から患者の背景を推測出来るようになっていくのを実感しました。

次に調剤では、予製や散剤・液剤・軟膏調剤が出た場合には、私に声を掛けて下さったので、苦手だった散剤・液剤の計算や軟膏の充填が大分自信を持って行えるようになりました。

最後の2週間は服薬指導をしたいという私の希望を尊重してくださり、1日3人程、服薬指導をさせて頂きました。最初の服薬指導では、患者様に何を聞き取って良いのか頭が混乱し、グダグダになってしまいましたが、後に、初回・再来局の患者さんへの聞くべきポイントや薬歴の見方、言葉数が少ない患者さんとのコミュニケーションの取り方のコツ等を教えて頂きました。又、薬剤師さんの服薬指導も見学させて頂くことで、単剤や循環器系など限られた処方箋の服薬指導に関しては、徐々に円滑に行える様になりました。

未だ、知識等において課題は沢山ありますが、今回の薬局実習を通して経験した事を参考に今後に生かし、薬剤師として一人立ちできるよう精進していきたいと思います。今回は、社長、副会長、指導薬剤師の方々には、大変お世話になり充実した研修を過ごすことができた事を心より御礼申し上げます。

九州保健福祉大学5年
徳嶺 光市
（レモン薬局 美里店 実習
指導薬剤師 谷澤 大輔）

2カ月半の間、指導してくださったレモン薬局の谷澤先生、学校薬剤師、薬局製剤、在宅医療、ドーピング検査の実習をさせていただいたすこやか薬局、医薬品流通についての講義をして下さったスズケン沖縄、OTC医薬品の指導をして下さったミドリ薬局、漢方実習をして下さったぼたん薬局の方々、本当にありがとうございました。１期で病院を終えてからの薬局なので、薬局と病院の薬剤師としての違いから細かくご指導をいただくことができました。いくつかを感想として述べさせていただきます。

病院実習では、あまり服薬指導を行うことができていなかったので、薬局実習で初めて患者さんを相手に服薬指導を行うことができました。始めた頃はただ慌てて一生懸命に話はするが、患者さんにうまく伝えることができていませんでした。どの部分を伝えるべきなのか、患者さんからどのように情報を得るのか等、細かくご指導を受けたおかげで実習を終える頃には、慌てることなく落ち着いて患者さんの話を聞けるように、伝えたいことを伝えられるようになりました。薬局実習では病院とは違い、目の前で患者さんが待たれているため、処方箋の薬から患者さんの疾患、病態を予想して服薬指導を行う必要があり、自分の今の薬の知識、疾患、病態に関する知識がまだまだ足りていない、薬と病気をつなげることができていないことが分かりました。

在宅実習では、薬剤師がどのように在宅医療で貢献することができるのか、なぜ必要とされているのかを実際に体験することができました。病院、薬局とは異なり、在宅医療ではさらに患者さんだけでなく、患者さんの家族などの家庭環境とも密接に関わるため、違った難しさがあることが分かりました。しかし、実際に在宅医療として患者さんと接することの楽しさ、やりがいを感じることのできる実習でした。

ドーピング検査の実習は、全体のスケジュールとしては組まれていませんでしたが、個人的に興味のある分野であったため参加させていただきました。実際のドーピング検査の雰囲気や検査の必要性、またそこに医師だけでなく、薬剤師が関わることの重要性を感じることができました。

病院、薬局の実習を終え、薬剤師の仕事の内容、やりがいを感じることができただけでなく、これからの薬剤師の職域の広さ、重要性を感じることのできた実習でした。これから国家試験に向けての勉強が始まりますが、実習で教えていただいた内容を生かしながら勉強し、薬剤師になって実習生を指導する立場になった時に、実務実習の重要性、楽しさを伝えられるような薬剤師になりたいです。

福岡大学5年
我喜屋　あかね
（吉田薬局　はんたがわ店　実習
指導薬剤師　吉田　洋史）

２ヶ月半の間、吉田薬局はんたがわ店で薬局実務実習を行わせていただきました。実習の初日は緊張と不安で一杯でしたが、吉田先生と医療事務の上原さんのご配慮でその気持ちを取り除いていただけ、毎日充実した実習を行うことができました。

初めの頃は調剤業務を教わりました。調剤ミスを起こさないようにすることに精一杯で、意識して心がけていても、規格違いやメーカー違いなどのミスを起こしてしまいます。その都度ミスの原因を追求し、反省する事で次回からのミスを防止するよう心がけました。少しずつ経験を積むことによりミスも減少し、処方箋を見ながら疾患と関連付けて調剤を行うことができるようになりました。

実習開始3週目頃から服薬指導を教わりました。病院実習で何度か服薬指導を経験していたのですが、薬局では電子カルテがないため、薬歴と患者さんから聞き出した直の情報で指導を行わなければなりません。それが非常に難しかったです。最初の頃は緊張のあまり形式的な質問や説明しか行うことができませんでした。しかし、先生からの患者さんから情報を引き出すコツとして、会話のリズムを作るために季節の話題や流行の話題から始めると良いとのアドバイスを頂き、それを実践することで日増しに患者さんとのコミュニケーションが取れるようになりました。患者さんから引き出す情報量がより増えたと実感したため、コミュニケーションの重要性を学びました。

薬局実務実習では、外部での実習も多く薬剤師の業務の幅が広いことを実感しました。

今回の実習を通して、薬剤師の役割と患者さんとの信頼関係の築き方、気軽に相談できる町のかかりつけ薬局の重要さを学ぶことができました。この経験を生かし患者さんに信頼される薬剤師になれるよう頑張りたいと思います。

最後になりますが、吉田先生をはじめ医療事務の上原さん、外部実習でお世話になりました全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成28年度Ⅱ期実務実習記念撮影

女性薬部会

女性薬剤師部会主催 第19回漢方講座報告

日　時：平成28年11月13日（日）10:00 ～ 11:30
会　場：沖縄県薬剤師会館 ホール
講　師：地方独立行政法人 那覇市立病院 外科部長　**友利 寛文 先生**
テーマ：**補中益気湯使っていますか？ ～補剤の活用～**

薬志堂薬局 首里店
大屋 三登

去る11月13日に女性薬剤師部会主催の第19回漢方講座が開催されました。前回に引き続き、那覇市立病院外科の友利寛文先生にお話を伺いましたが、今回は補中益気湯について、いろいろな面から解説していただきました。

補中益気湯の処方名は、「中焦（消化管）を温補し（温めて補い）、元気をます（益気）作用がある」という意味だそうです。別名「医王湯」と言われ、一番優れた薬とされています。漢方には「気」という概念があって、その人のエネルギーを表していますが、気には両親から受け継いだ先天の気と、後天的に作られる後天の気があります。先天の気は元気と呼ばれ腎に貯えられています。後天の気は飲食によって作られ、不足すると先天の気がそれを補います。飲食が不充分だと先天の気もどんどん減っていくわけです。補中益気湯は、気にとって大事な消化管の機能を高め、気を補ってくれる方剤ということになります。どんな人が適応かというと、手足がだるい、虚弱体質、疲れやすく、食欲減退、汗かき体質、口中につばがたまるような人です。その中で手足の倦怠感が一番大事な使用目標とされています。実際の臨床現場では、風邪で急性期を過ぎたものの疲れがとれない、癌治療時の全身倦怠感、慢性的な疲労などに、また最近では皮膚科でアトピー性皮膚炎に使用されたりしています。

漢方の治療原則は、「不足は補い、邪魔は除き、停滞は巡らす」ことによって、体の状態をその人のBest Conditionに戻してやるという考え方です。また、漢方では体の状態「証」を、表裏、寒熱、虚実、陰陽、気血水などを用いて表し、その証に合わせて治療が行われます。その中で、「虚証」には補うための補剤が使われます。陽虚（熱不足）には、補陽剤として、附子や生姜が使われ、腎虚（先天の気が不足）には、補腎剤として、地黄剤である六味丸、八味丸、牛車腎気丸が使われます。血虚（栄養不足）には、補血剤として地黄剤である四物湯をベースにした方剤が使われ、気虚（エネルギー不足）には、補気剤として四君子湯をベースに人参を含む方剤や、参耆剤（人参と黄耆）を含む方剤が使われます。

補中益気湯は、補気剤である参耆剤のひとつで、人参、黄耆、朮などを中心とした気虚を補う方剤に、補血剤の当帰、さらに持ちあげる作用（昇浮）をもつ柴胡・升麻などが配合されているのが特徴です。効能効果には、気虚による夏やせ、病後の体力増強、食欲不振などの適応以外に、脱肛、子宮下垂などの適応がありますが、それは柴胡・升麻に、持ちあげて筋肉を引き締める作用があるからです。

なぜか補中益気湯には、ベースとなる四君子湯の方剤から茯苓が省かれています。生薬の作用を決める特性の一つに、「昇降浮沈」

があります。花や茎などの軽い生薬は昇（上）浮（外）へ、根や鉱物などの重い生薬は降（下）沈（内）へ作用する方向があります。補中益気湯特有の柴胡・升麻には昇浮作用があり、降沈作用のある茯苓とは作用の方向が相反するために、補中益気湯では茯苓が省かれているのです。

また、漢方の方剤には「対薬」という生薬の組合せの工夫があります。補気剤のひとつ六君子湯に含まれる白朮と茯苓は対薬で、どちらも健脾燥湿作用（胃を丈夫にし、余分な水をさばく）を持ちますが、健脾作用がより強い白朮と、燥湿作用がより強い茯苓を組み合わせることで、バランスをとっているのです。補中益気湯では黄耆と人参、黄耆と白朮、黄耆と当帰、柴胡と升麻、生姜と大棗、陳皮と甘草といった対薬が、作用のパワーアップや副作用防止に働いています。

今回、補中益気湯がどんな漢方薬なのかを学ぶことで、漢方の治療とはどういうものか、また、いかに漢方の方剤が合理的に組み立てられているかなどを知ることができました。今後の患者さんへのアドバイスに活かしていきたいと考えています。

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。
是非“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

日薬大会

第48回日本薬剤師会学術大会（名古屋大会）参加報告

会営薬局うえはら
神山 侑子

2016年10月9日（日）・10日（月）の2日間にかけ、名古屋で開催された第48回日本薬剤師会学術大会に参加しましたので、その報告をさせて頂きます。

今回の学術大会は「地域で求められる薬局・薬剤師を目指して」というテーマのもと、「名古屋国際会議場・名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎」の2会場で行われました。

【口頭発表】

○高齢者の潜在的残薬に対する調査とかかりつけ薬剤師の可能性

株式会社フレンド調剤薬局事業部
室井 健志

高齢化社会により老々介護が増え、残薬の問題が大きくなる現代。在宅に同行訪問するケアマネージャーと薬剤師との連携による残薬調整の必要性を考える。一包化や服薬カレンダーによる指導は既に行われているものの、薬剤師が実際に一緒に行くことで患者さんが認識していない「潜在的残薬」の有無が確実に分かる。在宅における多職種との連携、協働の必要性が感じられた。

○残薬確認から見えた経済効果と医薬品の適正使用

調剤薬局マツモトキヨシ埼玉伊奈店
照屋 千津子

入院時の薬の飲み残し、日常生活での飲み忘れ、アレルギーや相互作用を考慮していない等の適正使用外の薬を薬剤師が把握することで、患者さんの残薬を確認。服薬指導時の患者さんのライフスタイルの確認により、薬の飲み忘れの他、効能効果を勘違いしているケースもあることが分かった。服薬指導に単に残薬の有無を確認するだけではなく、ライフスタイルの確認も重要であることが改めて重要であると感じた。

○節薬バッグ運動による経口血糖降下薬の服薬アドヒアランスに影響を及ぼす要因の解析

一般社団法人福岡市薬剤師会／
九州大学大学院薬学研究院臨床育薬学分野
小柳 香織

服薬アドヒアランス不良により、臨床検査値コントロール不良や死亡率の上昇、更には入院加療や医療費の増加といった大きな問題（ポリファーマシー）へと繋がる。節薬バッグを利用し、患者さんの残薬を把握し集計、処方削減へと働きかけた。結果をロジスティックス回帰分析で解析したところ、処方削減率が高いと残薬が多く、服薬アドヒアランスも不良という結果になった。更に、ビグアナイド・αGIPの糖尿病薬、自己負担のない患者さん、併用薬の少ない患者さんはアドヒアランスが悪いという結果が出た。地域に貢献する薬剤師として患者さんのポリファーマシーをどのように防ぐかが今後の課題であると感じた。

【ポスター発表】

○門前クリニックと当薬局の残薬調整への取り組み

株式会社 仁華堂 じん薬局

薬局オリジナルの残薬調整方法として「薬品情報提供書」と「残薬スタンプ」を使用。次回受診までに残薬を数え、減らしてほしい数を薬品情報提供書に押したスタンプ内に記

入し、クリニックに提出、処方日数を調節してもらうという方法。医療機関との連絡方法や患者さんの認知・理解がないと難しい方法であるが、連携・理解が得られれば残薬調整に有用な方法であると感じた。

〇当薬局での残薬調整を広めるための取り組み

(有)奈良ヘルスケアサービス
しあわせ薬局 済美店

患者さんは薬局で残薬調整ができるという認識が低いと感じられたため、「残薬調整希望カード」を考案、希望者は薬局での受付時に残薬とともに渡してもらう。結果、残薬があってもどうしていいか分からなかった患者、薬を捨てていた患者、医師に服用忘れを言いにくかった患者が新たに残薬調整を申し出て、残薬調整件数は倍増。残薬調整希望患者は調査終了後も右肩上がりに増えており、薬局内での残薬調整が広まったと考えられる。

今回、残薬に関して様々な理由が絡んでいることを実感した学会でした。残薬の有無を確認し、数を適正に調整するだけではなく、根本的な問題に向き合わないことには解決には至らないのはもちろんのこと、より患者さんとのコミュニケーションをとり、薬局薬剤師としてどのようなアドバイス・サポートが出来るのか、改めて考えなければならないと感じました。

また、今回の学術大会では沖縄県薬剤師会の前会長である神村武之先生が日本薬剤師会賞を受賞されました。沖縄県の薬剤師会会長としてだけでなく、また日本薬剤師会の代議員として分業の進展、および薬剤師の職能の向上に貢献されたことは大変大きな功績だと思います。心よりお祝い申し上げます。

月例相談会

第136回健康とおくすり相談会報告
＜くすりと健康フェア＞

日時：平成28年10月20日(木) 16:30 ～ 18:00
場所：パレット市民劇場ロビー（那覇市）
担当：南部地区薬剤師会

◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○伊敷松太郎　○川上　善久　○松本　圭五　○照屋　秀子
○上原　陽子　○玉寄　睦子　○新垣　梓　○実務実習薬学生

月例相談会

第137回健康とおくすり相談会報告

日　　時：平成28年11月13日（日）10:00 ～ 15:00
場　　所：沖縄セルラーパーク那覇
担　　当：那覇地区薬剤師会
相談者数：160名

りんご調剤薬局 上間店
仲宗根 かおり

平成28年11月13日（日）沖縄セルラーパーク那覇にて「第3回なは健康フェア」が開催されました。全部で9つの健康ブースが出展され、第2ブースでは「健康とおくすり相談会」が開かれました。参加した薬剤師は午前午後合わせて11名、相談者数は160名でした。

当日は、第3回那覇市沖縄健康ウォーキング大会（2016ひやみかちなはウォーク）も同時開催され（参加人数；3905人）、健康、運動に関心のある方々が多く訪れました。

相談会では、まず希望者にアンケートを記入していただき、次に①体成分分析、②骨密度、③動脈硬化度測定機を使って行い、最後に相談員が結果説明しそのときに健康、お薬に関しての疑問があればお答えするという流れで行われました。

私が主に担当させていただいたのは、測定前のアンケート記入と測定コーナー及び相談員への案内でした。

測定会で特に関心が高かったのが、③の動脈硬化度の測定でした。私が参加した午後の部では常時10数名が並んでおり、ときには20名を超え並ぶこともあり、「待ち時間が長すぎる」と不満を漏らす方がいた程です。

案内係としての私の印象に残ったのは、来場者の健康への高い関心でした。待ち時間の間、何人かとお話ができる機会がありました。その中で「薬局でもらっている薬が、本当にジェネリックなのか私たちにはわからない」というお話しがありました。忙しい日常の業務のなかで、患者さんの疑問に対して十分にお答えできていないことがあるかもしれないと思いました。また、「医者の他に、知りたいことを聞きたいが、誰に聞いていいか分らない」という声もありました。健康に関する情報が氾濫している今、現代人はその都度情報を吟味し、取捨選択していかなければなりません。信頼できる情報が求められているのだと感じました。

これからは、気軽に相談できる『地域のくすり屋さん』としての薬剤師が期待されています。お薬相談会は益々、薬剤師側、相談者側、双方に有意義なものになっていくでしょう。患者さんとより良い信頼関係を築くためにも、日々、自己研鑽に努めていかなければならないと改めて思いました。

最後に、当日は私の要領が悪く、列へのご案内が不十分でご迷惑をおかけしてしまったことをお詫び申し上げます。まだまだ力不足ではありますが、次回機会あれば、また参加させて頂きたいと思っております。

写真提供：那覇地区薬剤師会

◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○川満 直紀　○姫野 耕一　○渡具知 一枝　○吉田 洋史　○鈴木 一徳　○平良 栄子
○宮城 幸枝　○槇原 真紀　○仲宗根 かおり　○我喜屋 智香子　○普久原 理江

寄稿　ジェネリック医薬品使用促進に係る講演について

全国健康保険協会沖縄支部
企画総務グループ　大橋　隆

平成28年11月8日に宮古島市、翌9日に石垣市の日程で、健康保険委員向けの研修会を開催し、そのなかでジェネリック医薬品の普及啓発に向けた取り組みとして、県薬剤師会様のご協力のもと、薬剤師の先生による講演を実施しました。

協会けんぽ沖縄支部では、事業主様のご協力を得て健康保険事業（保険証交付、保険給付業務、健診事業等）の円滑な推進を図るため、事業所内において健康保険事業に関する広報及び各種事業等を推進していただける方を「健康保険委員（健康保険サポーター）」として委嘱し、活動してもらっています。県内では既に多くの事業所で健康保険委員が就任しており、平成28年10月1,935名の方が登録しています。その健康保険委員を対象に、年に数回、健康保険制度に関する知識や手続きを学ぶことができるスキルアップ研修を開催しています。

県薬剤師会様とは「健康づくり推進のための包括的連携に関する協定」を平成28年9月15日に締結しており、その協力体制により講師の派遣も迅速にご対応頂き、宮古島市は宮古地区薬剤師会理事・上川畑剛様、石垣市は沖縄県薬剤師会理事・幸地良信様にご講演頂くことができました。

「ジェネリック医薬品の効果と安全性」と題した講演の中で、ジェネリック医薬品とは何か、先発薬との効果の違いや安全性、使用するメリットなど、30分という時間枠で多岐にわたる内容を分かり易くご説明頂きました。

聴講者が健康保険委員の方々ということもあり、日頃から医療費や健康問題に対する意識も高く、ジェネリック医薬品に対する関心も高いように見受けられ、熱心に聞き入られていました。

出席者の事後のアンケート結果でも、今まではジェネリックについて（少しは）知っていたが、特に希望してはいなかった、という意見が多数ありました。そして、「今回の講演を聞いて、今後はジェネリック医薬品を使っていこうと思いますか？」との設問に対しては、大多数の回答が「ぜひ積極的に使っていきたい。」というものでした。

当協会支部としても、加入者の皆様のお薬代の負担軽減につながり、また医療費や保険料率の伸び抑制につながるジェネリック医薬品の普及推進は非常に重要な課題であります。

今回の講演にて、薬剤師の先生方に分かり易く説明して頂くことで、健康保険委員、ひいては各事業所の従業員の方々までジェネリック医薬品の有用性が伝わったのではないでしょうか。

これからも、県薬剤師会様とはジェネリック医薬品の利用促進のみならず、県民の皆様の健康づくり推進に向けて、様々な活動を協力し合いながら取り組んでいきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

この度は、非常に有意義な講演を賜りまして、誠にありがとうございました。

宮古地区薬剤師会理事
上川畑　剛 氏

沖縄県薬剤師会八重山地区代表理事
幸地 良信 氏

投稿

『ツール・ド・おきなわ』にシャペロンとして参加

すこやか薬局 かけぼく店
小島　進

2016年11月13日(日）に名護市を発着点に本島北部を舞台に開催された『ツール・ド・おきなわ』にシャペロンとして参加してきましたので、ご報告いたします。

「シャペロン」という言葉は今回、初めて知ったのですがドーピング検査に際し(今回の場合)日本アンチドーピング機構より派遣されたDCO(ドーピング･コントロール･オフィサー）の指示のもと、ドーピング検査対象者を特定し、検査対象者であることを告知し、本人の同意を得て、検査室まで誘導する任務を遂行しました。シャペロンの資格要件は、

○原則として20歳以上であること
○長時間・長距離歩行が可能であること
○ドーピング対象競技者との間に個人的な利害関係がないこと
○対象競技者の性別と同一であることが望ましい

以上です。特別な資格が必要なわけではなく、もちろん薬剤師である必要はありません。世界の有力選手の間では写真のようにSHAPERONと印字された上着を見ればドーピング検査だと認識されるそうです。

今回、私の行動は前日、土曜日の夕方に始まりました。大会が土日2日間におよび日曜日は朝から名護市周辺で交通規制が実施されるため、当日移動で間に合わない事態も想定されるため前泊することになりました。

当日は9時半にドーピング検査室に集合。DCOより実施の手順、心構え、順守事項などのレクチャーを受けて待機していました。もうじきチャンピオンレースのゴールということで､表に出て間もなく異変に気づきました。想定時間よりもだいぶ早く競技者が帰ってきたのです。トップクラスの選手たちのスピードの速いこと！「あっ、選手を見失ってしまう」走って追いかけて追いつくはずもなく、どうしようと呆然としているとDCO曰く「大丈夫、巣に戻ってくる。チームの車がそのあたりに並んでいるから、そこで待っていれば見つかる」と言われ、一人一人、腰のゼッケンを確認し担当の選手を見つけたときはほっとしました。それから指示された通り、選手を検査室に案内し、DCOに引き継いだ時点で任務終了です。

そもそもドーピング検査のお手伝いをすることになった経緯をお話しします。私の趣味はマラソンで毎年NAHAマラソンに参加しています。ランナーズ仲間に県の体育協会に務めている人がいて、数年前「アンチドーピングについて話ができる薬剤師はいないだろうか」と相談を受けました。特に思いつかず薬剤師会に問い合わせるように答えました。そこで、自分もできるようにしようと3年前にスポーツファーマシストの資格を取りましたが、これといった活動をしないまま月日が過ぎていきました。幸い笠原先生から「スポーツファーマシストの会合を開くので、参加しませんか」とお誘いを受け、県薬剤師会に届いたドーピングに関する質問の回答者の一人に加えていただきました。また日本アンチドーピング機構（JADA）が行う「アンチドーピング教育活動の講師養成講座」の案内をいただき10月15日に東京・赤羽の味の素ナショナルトレーニングセンターで開催された研修会に参加してきました。スポーツファーマシストの講習は薬剤師としての立場を重視した内容ですが、JADA主催の講習はアスリート目

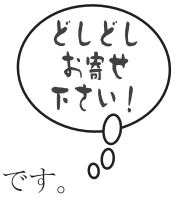
線なので、これまでにない意識、知識を得ることができました。

今回のドーピング検査も笠原先生からの紹介です。昨年、同大会でシャペロンをなさって、今年も薬剤師会に協力要請が来ているとのことで、挑戦させていただきました。実際の現場を体験できたことは貴重な経験と感じています。スポーツファーマシストとしてどのような活動ができるのか、まだ良く分かりませんが、一つ一つ積み上げていきたいと思います。

2020年東京オリンピックに向けて、スポーツおよびドーピングへの関心は高まるものと予想されます。スポーツファーマシストに関心を寄せていただき、新たに資格取得を考える方が増えると幸いです。

左が筆者、右は一緒に参加してくれた
薬学実習生の 比嘉 頼人 氏

会報原稿募集のご案内



広報委員会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。

広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

・誌上匿名は可能です。
・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。

☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで　〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930　FAX 098-963-8932　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

啓発・普及活動

南城市立小中学校養護教諭向け「医薬品の取り扱い方」学習会報告

日時：平成28年10月13日（木）14:00 ～ 16:00
会場：南城市立大里南小学校

私達、南城市の養護教諭のメンバーは、保健室に常備する医薬品について検討したい、常備薬のある程度の基準等がほしいということで、沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会に問い合わせ、勉強会を開催することにしました。

去る10月13日、南城市立大里南小学校にて「保健室における医薬品の取り扱い方について」をテーマに、大城恭子先生をお招きして学習しました。

まず、「学校における薬品管理マニュアル」について、大切な部分を確認していただきました。その中で、養護教諭の立ち位置を確認し、薬は人間にとって大切なもの、用法・用量を守り正しく使うことが一番大切であること、学校に一般用医薬品を置くことについての法律はない、ということを確認しました。

私達、南城市内の保健室で使用している薬品も効果別に分類して頂き、どの薬が多く使われているか等も見やすくグラフ化することで、各学校の実態がよくわかりました。そして、使われている頻度の高いもの、保健室に最低限必要なものを確認すること、薬剤師からの薬の効用、使用方法も確認できました。

タバコの話では、ニコチン依存症の話もあり、ニコチンバッチ・飲み薬等について専門的な立場から詳しく聞くことができました。もっと時間をもらって勉強したいという声も聞かれました。学校での「喫煙防止教室」でのご講話も学校薬剤師の先生方に、ぜひお願いしたいです。

また、理科室の薬品についてもふれていただき、処分の仕方についても情報提供をいただきました。

今回、大城恭子先生を講師として招くことができ嬉しく思います。市内の保健室である程度、限定する常備薬品もみえてきました。学校薬剤師は各学校に配置されていますが、これからもこのような機会をつくることで、

南城市立玉城小学校
養護教諭　野原 文恵

もっとお互いの距離が縮まり、より一層子ども達へ還元されていくと思います。お忙しい中、私達南城市養護教諭のためにありがとうございました。

＜参加した養護教諭からの感想＞

「学校に一般用薬品を置くことについて規制している法律はないということであった。聞き慣れた薬品の効能や副作用、使用方法なども専門家の視点から話を聞くことが出来て良かったです。」

「保健室に薬品を置いてはいけないという決まりはどこにもないということが確認できたことは良かったと思いました。私たちが今現在置いている薬品についても説明をしてくださり、それも医薬品としてはさほど強くない（表現があたっているかわかりませんが）薬品で、保健室で使うとしたら問題は無いということも言って頂けたのは良かったと思いました。」

「フッ素についても情報提供して頂けたのが良かったと思います。以前は、劇薬であったので学校では保管等難しいこともあっただろうと、私たちの立場も分かってくれたのは、心強い見方かなと思いました。現在では、劇薬でない市販品が販売されたので、家庭での普及が拡大され学校での取り組み方も変わっていくだろうと最新の情報も頂きました」

薬事情報おきなわ No.242

2016年 12 月号　：　Vol.31　No.6

薬事情報センター　TEL：098-963-8931
FAX：098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品　平成28年12月7日付

区分	販売名 （　）内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内用薬	プレジコビックス配合錠 (TG)	1錠	2,002.80	ヤンセンファーマ	**ダルナビルエタノール付加物/コビシスタット：**抗ウイルス化学療法剤（HIV感染症）（新有効成分・新医療用配合剤）

●後発医薬品　平成28年12月9日付

今回収載されたのは41成分71規格191品目。初の後発品収載となったのは、糖尿病治療薬「ミチグリニド」（グルファスト＝キッセイ薬品）など5成分24品目。今回、新規収載希望が10品目を超えた内用薬を先発薬価の“0.4がけ”とする算定ルールの適用はなかった。内訳は、内用薬が28成分48規格165品目、注射薬9成分16規格16品目、外用薬7成分7規格10品目。後発品の収載数が多い順にモンテルカストナトリウム、バルサルタン/ヒドロクロロチアジド、プラミペキソール塩酸塩水和物、アジスロマイシン水和物となっている。

Medical News

●薬局ヒヤリ・ハットへの参加が遅滞　日本薬剤師会が登録呼びかけ（薬局新聞　11月9日）

日本医療機能評価機構が実施している『薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業』に対する薬局の姿勢に日薬が苦言を呈している。全国の事業参加薬局数は、本年6月現在で8,603軒となっており、実質的には横ばい状態になっている。都道府県別の薬局数での登録割合で、最も参加が多いのは山口で71.4%（参加数588）以下栃木28.1%（239）、佐賀、三重などとなっている。その反面、大都市圏では東京11.5%（742）愛知6.3%（201）大阪11.8%（460）福岡16.9%（487）といずれも登録が遅々としている。薬局での有害事象のすべてが対象となるため、登録販売者による報告も可能となっているなど、制度が十分に周知されていない可能性も指摘されている。

●京都府立医大病院、女性薬剤師の再就職を支援-1カ月間研修を無料で　（薬事日報　11月25日）

京都府立医科大学病院薬剤部は、未就業の女性薬剤師などを対象に無料で研修を行う「薬ママ等再就職サポート事業」を開始した。結婚や出産などで離職し、再就職をためらう薬剤師の知識やスキルを研修で補う。医療現場で働く薬剤師のマンパワーを地域全体で高めることが主な目的。研修期間は1カ月程度。研修生のレベルや要望に応じて研修内容をオーダーメイドで組み立てる。医療安全や感染対策など各種研修会にも参加できるようにする。

●メチル水銀摂取　妊婦へ周知徹底を　健康影響、研究進まず（毎日新聞　11月28日）

水俣病のような神経障害を引き起こすよりはるかに低い濃度でも、妊婦のメチル水銀摂取が胎児の発達に悪影響があることが仲井東北大教授らの研究で明らかになった。国はさらに実態解明を進めるとともに、妊娠中にメチル水銀を多く含む魚種を控えることで防げるリスクだけに、妊婦の食生活の注意点について周知徹底する必要がある。厚生労働省は2005年、妊婦に対するメチル水銀を含む食品摂取の目安を定めたが、今回の調査地点では、約2割の妊婦がこれを超えていたと推定された。

●米で販売停止、同成分せっけんは国内172品目（読売新聞　11月29日）

米国でトリクロサンなどの殺菌成分が入った薬用せっけんが販売停止となるのを受け、厚生労働省は28日、国内での対象成分を含む製品の流通状況を公表した。今月25日時点で国内で流通が確認されたのは、トリクロサンを含む薬用せっけん172品目、トリクロカルバンを含む薬用せっけん58品目（一部重複）。これまでに健康被害の報告はなく、いずれも1年以内に対象成分を含まない製品に切り替えるか、販売を中止する予定。

●HIV新規感染19人　県内11月末、2年連続で減少（琉球新報　12月1日）

沖縄県保健医療部健康長寿課は12月1日の「世界エイズデー」に合わせて、県内でエイズウイルス（HIV）の感染が判明した人が今年11月末現在で19人だったと発表。過去最多の33人だった2014年から2年連続で減少している。このうちエイズが発症して初めて感染が発覚したエイズ患者は4人で、全体の21.1%。15年の全国におけるHIV感染者・エイズ患者の新規報告者数で、沖縄は人口10万人当たりの報告者数がHIV感染者は3位、エイズ患者は2位だった。今年の新規報告者19人は全員男性。

●薬局で会話、薬説明が中心－患者生活背景の把握少なく　電通が調査（薬事日報　12月9日）

薬剤師は地域包括ケアシステムの担い手として高い意識を持ちながら、薬局での会話は薬の説明などが中心で、患者の食生活や運動習慣など生活背景まで把握できているケースは少ないことが、明らかになった。4月の調剤報酬改定で導入された“かかりつけ薬剤師”制度の説明は、個人薬局よりチェーン薬局の方が積極的に行っていたほか、地域包括ケアに向け、ICTの活用や24時間対応を高い障壁と考えていることも分かった。調査は、9月30日から10月5日にかけて、現在正社員で勤務している327人を対象に、インターネット上で実施した。

医療事故情報収集等事業　医療安全情報　No.120　2016年11月

薬剤名の表示がない注射器に入った薬剤の誤投与

事例1

小児患者のMRI検査のため、医師は病棟でチトゾール注用0.5gを溶解後、5mLの注射器に小分けにして検査室に持参した。その際、注射器に薬剤名・患者氏名を明記することになっていたがしていなかった。医師は、検査室の台に自分の白衣とチトゾールの注射器を置いた。造影剤は準備されていなかったが、診療放射線技師は、台に置いてある注射器に他の技師が準備した造影剤が入っていると思い込み、医師へ手渡した。医師は造影剤にしては量が少し多いと思ったが確認しないまま、患者の状態を観察しながら投与した。投与直後に患者の呼吸数が低下し、間違いに気付いた。

事例2

看護師は、ビソルボン注の急速静注とヘパリンの持続静注の更新のため、トレイを持って部屋に行った。トレイには、薬剤名のラベルを貼ったビソルボン注の注射器とビソルボン注の投与前後に注入する生理食塩液20mLの注射器、ラベルのないヘパリン1万単位+生理食塩液（合計20mL）の注射器の計3本が入っていた。看護師は、ラベルのない注射器に生理食塩液が入っていると思い込み、ビソルボン注の投与前後に全量投与した。その後、別の看護師がトレイ内に生理食塩液が残っているのを発見し、誤ってヘパリン調製液を投与したことに気付いた。

事例が発生した医療機関の取り組み

・注射器には必ず薬剤名を表示し、投与直前に確認する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/

◎2016年10月14日付けで新たにゾピクロン、エチゾラム、フェナゼパム(国内未発売)が第3種に追加されました。

投与期間に制限がある医薬品（麻薬・向精神薬）（2016.12作成）

◆ 1回14日分を限度とする医薬品

規制	一　般　名	代表的な商品名
麻薬	アヘン	アヘン末・散、アヘンチンキ
	アヘンアルカロイド塩酸塩	パンオピン末、注
	アヘン・トコン	ドーフル散
	エチルモルヒネ塩酸塩水和物	エチルモルヒネ塩酸塩水和物原末
	オキシコドン塩酸塩水和物	オキファスト注
	オキシメテバノール	メテバニール錠
	コカイン塩酸塩	コカイン塩酸塩原末
	タペンタドール塩酸塩	タペンタ
	複方オキシコドン	パビナール注
	複方オキシコドン・ アトロピン硫酸塩水和物配合剤	パビナール・アトロピン注
	フェンタニルクエン酸塩	イーフェンバッカル錠、アブストラル舌下錠
	ペチジン塩酸塩	オピスタン原末、ペチロルファン注
	メサドン塩酸塩	メサペイン錠
向精神薬	アモバルビタール	イソミタール原末
	塩酸ペンタゾシン	ソセゴン錠
	クロラゼプ酸二カリウム	メンドンカプセル
	ジアゼパム	ダイアップ坐剤
	バルビタール	バルビタール
	フェノバルビタールナトリウム	ルピアール坐剤
	ブプレノルフィン塩酸塩	レペタン坐剤
	ブロマゼパム	セニラン坐剤
	ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠
	マジンドール	サノレックス錠

◆ 1回30日分を限度とする医薬品（今回の改定で新たに追加された医薬品）

規制	一　般　名	代表的な商品名
麻薬	オキシコドン塩酸塩水和物	オキノーム散、オキシコンチン錠（徐放錠）
	コデインリン酸塩水和物	コデインリン酸塩原末・10%
	ジヒドロコデインリン酸塩	ジヒドロコデインリン酸塩原末・10%・錠
	フェンタニル	デュロテップMTパッチ
	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニル注射液、フェントステープ
	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩錠、アンペック坐剤、アンペック注、オプソ内服液、MSコンチン錠（徐放錠）
	モルヒネ塩酸塩水和物・ アトロピン硫酸塩水和物配合剤	モヒアト注射液
	モルヒネ硫酸塩水和物	カディアンカプセル

◆ 1回30日分を限度とする医薬品（今回の改定で新たに追加された医薬品）

規制	一　般　名	代表的な商品名
向精神薬	アルプラゾラム	コンスタン錠
	エスタゾラム	ユーロジン散1%
	エチゾラム	デパス錠
	塩酸ブプレノルフィン	レペタン注
	オキサゾラム	セレナール散10%
	クアゼパム	クアゼパム錠
	クロキサゾラム	セパゾン散1%
	クロチアゼパム	リーゼ顆粒10%
	クロルジアゼポキシド	コントール錠5mg
	ゾピクロン	アモバン錠7.5mg
	ゾルピデム酒石酸塩	マイスリー錠
	トリアゾラム	ハルシオン
	ニメタゼパム	エリミン錠
	ハロキサゾラム	ソメリン細粒1%
	フルジアゼパム	エリスパン細粒0.1%
	フルニトラゼパム	サイレース錠
	フルラゼパム塩酸塩	ダルメートカプセル
	ブロチゾラム	グッドミン錠
	ブロマゼパム	レキソタン錠
	ペモリン	ベタナミン錠
	メダゼパム	レスミット錠
	メチルフェニデート塩酸塩	リタリン散1%
	モダフィニル	モディオダール錠
	ロフラゼプ酸エチル	メイラックス錠
	ロラゼパム	ワイパックス錠
	ロルメタゼパム	エバミール錠
	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤（フェノバルビタール配合剤）	ベゲダミン-A配合錠（2016.12.31供給停止）
	プロキシフィリン・エフェドリン配合剤（フェノバルビタール配合剤）	アストモリジン配合胃溶錠
	メペンゾラート臭化物・フェノバルビタール配合剤	トランコロンP配合錠

◆ 1回90日分を限度とする医薬品

規制	一　般　名	代表的な商品名
向精神薬	クロナゼパム	ランドセン細粒0.1%
	クロバザム	マイスタン錠
	ジアゼパム	ホリゾン錠
	ニトラゼパム	ネルボン錠
	フェノバルビタール	フェノバルビタール原末
	フェニトイン・フェノバルビタール配合剤	複合アレビアチン配合錠

※1　メサペイン（テルモ）：2013.3発売
※2　タペンタ（ヤンセン）：2014.8発売

向 精 神 薬 一 覧　（2016.12作成）

	物質名	日本で発売されている主な商品名
第一種	ジペプロール	
	セコバルビタール	注射用アイオナール・ナトリウム
	フェネチリン	
	フェンメトラジン	
	メクロカロン	
	メタカロン	
	メチルフェニデート	リタリン散・コンサータ錠
	モダフィニル	モディオダール錠
第二種	アモバルビタール	イソミタール原末
	カチン	
	グルテチミド	
	シクロバルビタール	
	フルニトラゼパム	サイレース錠・ロヒプノール錠
	ブタルビタール	
	ブプレノルフィン	ノルスパンテープ・レペタン注
	ペンタゾシン	ソセゴン錠・ペンタジン錠
	ペントバルビタール	ラボナ錠
第三種	アルプラゾラム	コンスタン錠・ソラナックス錠
	アミノレクス	
	アロバルビタール	ザルソカイン注
	アンフェプラモン	
	エスクロルビノール	
	エスタゾラム	エスタゾラム錠・ユーロジン散
	エチゾラム	デパス錠
	エチナメート	
	エチランフェタミン	
	オキサゼパム	
	オキサゾラム	セレナール散・ペルサール細粒
	カマゼパム	
	クアゼパム	クアゼパム錠・ドラール錠
	クロキサゾラム	セパゾン散
	クロチアゼパム	リーゼ顆粒・クロチアゼパム錠
	クロナゼパム	ランドセン細粒・リボトリール細粒
	クロバザム	マイスタン細粒
	クロラゼプ酸	メンドンカプセル
	クロルジアゼポキシド	コントール散・バランス散
	ケタゾラム	
	ジアゼパム	ジアゼパム散・ダイアップ坐剤
	セクブタバルビタール	
	ゾピクロン	アモバン錠
	ゾルピデム	マイスリー錠
第三種	テトラゼパム	
	テマゼパム	
	デロラゼパム	
	トリアゾラム	ハルシオン錠・トリアゾラム錠
	ニトラゼパム	ベンザリン細粒・チスボン錠
	ニメタゼパム	エリミン錠
	ノルダゼパム	
	ハラゼパム	
	バルビタール	バルビタール
	ハロキサゾラム	ソメリン細粒
	ピナゼパム	
	ビニルビタール	
	ピプラドロール	
	ピロバレロン	
	フェノバルビタール	フェノバルビタール散・ベゲタミン
	フェンカンファミン	
	フェンジメトラジン	
	フェンテルミン	
	フェンプロポレクス	
	ブトバルビタール	
	プラゼパム	セダプランコーワ錠
	フルジアゼパム	エリスパン細粒
	フルラゼパム	ダルメートカプセル
	プロピルヘキセドリン	
	ブロチゾラム	レンドルミン錠・ブロチゾラム錠
	ブロマゼパム	レキソタン細粒・セニラン錠
	ペモリン	ベタナミン錠
	ベンツフェタミン	
	マジンドール	サノレックス錠
	ミダゾラム	ドルミカム注・ミタゾラム注
	メソカルブ	
	メダゼパム	レスミット錠・メダゼパム錠
	メチプリロン	
	メチルフェノバルビタール	
	メフェノレクス	
	メプロバメート	
	レフェタミン	
	ロフラゼプ酸エチル	メイラックス細粒・ロンラックス錠
	ロプラゾラム	
	ロラゼパム	ワイパックス錠・アズロゲン錠
	ロルメタゼパム	ロラメット錠・エバミール錠

≪参考文献：麻薬及び向精神薬取締法施行令より（薬事衛生六法2016）≫

≪参考：「麻薬、麻薬原料植物、向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令の一部を改正する政令並びに麻薬及び向精神薬取締法施行規則の一部を改正する省令の施行について」（平成28年9月14日　薬生発0914第1号）≫

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬斡旋図書】かかりつけ薬剤師の対人業務入門

【編集】薬剤師業務研究会　【発行】じほう　【発行日】2016 年 9 月
【版型/頁】A5 判/208 頁【定価】2,700 円（税込）【会員価格】2,430 円（税込）

これからの調剤業務・医薬品販売業務に欠かせない「対人業務」の考え方やその実際を解説。その上で、対人業務の情報管理・活用のための中心的なツールである薬歴についての使い方のポイント、記録のポイントを紹介。

【日薬斡旋図書】小児科領域の薬剤業務ハンドブック第 2 版

【編著】国立成育医療研究ｾﾝﾀｰ薬剤部　【発行】じほう　【発行日】2016 年 9 月
【版型/頁】B5 判/488 頁　【定価】4,968 円（税込）【会員価格】4,440 円（税込）

国立成育医療センターで実際に行われている小児科領域の薬剤業務を網羅。調剤、服薬指導、各薬物療法のポイントに加え、病棟業務や医療チームの業務紹介、小児の薬物療法では切り離せない食物アレルギーや薬物動態、TDM についての解説の充実も図り、小児科担当薬剤師の道しるべとなる 1 冊。

知っておきたい薬害訴訟の実際−企業リスクの最小化を目指して

【編集】（一社）医薬品医療機器ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｰｻｲｴﾝｽ財団【発行】薬事日報社【発行日】2016 年 11 月
【版型/頁】B5 判/191 頁　【定価】2,700 円（税込）

医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団が開催した平成 27 年度の「薬害教育エキスパート研修講座」の講演内容をまとめたもの。　薬害被害者・家族、弁護士、医療関係者、新聞記者などによる講演内容を基に過去の薬害事件等から再発防止のために何を学ぶべきかに重点を置き解説。

初めての調剤薬局　研修カリキュラム

【編集】マリーングループ　【発行】薬事日報社　【発行日】2016 年 12 月
【版型/頁】B5 判/291 頁　【定価】4,968 円（税込）

実際に調剤薬局で使われている研修用テキストの内容を基に、調剤実務から調剤報酬の算定、法律、リスク管理、接遇・マナーに至るまで薬局業務の基本をやさしく解説。カラー写真やイラストを盛り込みながら現場の業務を踏まえてわかりやすく解説しているので実践的な知識が身につく。

これでわかるピロリ除菌療法と保険適用　改訂第 5 版

【著者】高橋 信一　【発行】南江堂　【発行日】2016 年 11 月
【版型/頁】A5 判/120 頁　【定価】2,700 円（税込）

消化管疾患には欠かせないピロリ除菌療法とその保険適用についてわかりやすく解説。第 5 版では、日本ヘリコバクター学会の「H.Pylori 感染症の診断と治療のガイドライン 2016 改訂版」、新薬（ボノサップ、ボノピオン）、2016 年診療報酬改定について盛り込んだ。よく見るケースのレセプトの記入例も収載。

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬斡旋図書】今日から取り組む 実践！さよならポリファーマシー

【編著】北 和也　【発行】じほう　【発行日】2016 年 10 月
【版型/頁】A5 判/310 頁　【定価】2,916 円（税込）　【会員定価】2,470 円（税込）

ごく標準的な現場の薬剤師が今欲しい情報を盛り込み、現場で即戦力として使え、かつ無理なく取り組める内容で構成。ポリファーマシーがなぜ問題なのか、患者から何をどうやって聞き、医師にどう伝えるか、疾患ごとの減処方の知識など、幅広い内容で組み立てていますので、ポリファーマシーについて基礎から学び、今日から即実践したい方にお勧め。

【日薬斡旋図書】薬剤師が解決するポリファーマシー

【編著】平井 みどり　【発行】羊土社　【発行日】2016 年 10 月
【版型/頁】A5 判/255 頁　【定価】2,916 円（税込）【会員定価】2,630 円（税込）

41 の症例をもとに、処方意図の推測や処方適正化の進め方を具体的に解説！漫然投与されがちな薬剤、エビデンスなく処方されがちな薬剤など知っておきたいコツも満載。病院、薬局、在宅に関わる薬剤師にお勧め。

薬剤師のためのすぐに始められる！在宅訪問ガイドブック

【編集】㈱望星薬局、ｴｨﾁ・ﾋﾞｰｱﾝﾄﾞｼｰ㈱【発行】薬事日報社　【発行日】2016 年 11 月
【版型/頁】A5 判/237 頁　【定価】3,456 円（税込）

実際の在宅業務に携わっている薬剤師・ケアマネージャー・看護師などの多職種で執筆を行い、薬剤師が知っておくべき在宅の基本や申請方法から実際の在宅の現場でのポイントや必用な器具等に加え在宅医療で重要となる多職種連携についてまで、カラー写真やイラストを使い、わかりやすく解説。

どんぐり未来塾の薬物動態マスター術

【編著】菅野 彊　【発行】じほう　【発行日】2016 年 9 月
【版型/頁】B5 判/180 頁　【定価】3,456 円（税込）

薬物動態パラメータを用いて患者個々に適した用法・用量を評価したり、服薬時の注意点を指導するためのノウハウを、6 つのレッスンに分けて解説。学んだ内容を実際に使って答える「練習問題」も充実。

薬局薬剤師のための注射薬調剤パーフェクト手技 DVD BOOK

【共著】矢後 和夫、土井 真喜　【発行】薬事日報社　【発行日】2016 年 12 月
【版型/頁】B5 判/75 頁　【定価】5,184 円（税込）

薬局における無菌調整に関わる基本的な考え方や基本操作をわかりやすい映像にまとめたDVDBOOK。調製工程に準じて準備から手技の実施、終了までを工程ごとにまとめた解説書と一緒に DVD で実際の手順を確認することで、より効果的な学習が可能。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供　(2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行　(3)医薬品に関するお問い合わせ　(4)県薬ホームページの制作・管理　(5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」　(6)医薬品 PL センター窓口業務　(7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象)　平日　午前：８時 30 分～12 時　午後：１時～5 時 30 分　（土・日・祝日休業）
(一般対象)　「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」
平日（月～金）午前：９時～12 時　午後：１時～5 時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。
お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931　　FAX：098-963-8937
沖縄県薬剤師会　薬事情報センター

＊　＊　海外文献から（JAPIC 医薬情報より）＊　＊

●喘息患者における β 遮断薬点眼剤の呼吸器への影響　(Br. J. Clin. Pharmacol. 82(3)814- (2016.9))
喘息および高眼圧症の患者において,点眼用 β-遮断薬の処方率を評価した。UK Clinical Practice Research Datalink のリンクしたデータを用い,中等度の増悪(プライマリケアにおける steroids のレスキュー投与)および重度の増悪(喘息による入院)リスクを評価するコホート内ケースコントロール研究(NCCS)を行った。次に,喘息患者における点眼用 β-遮断薬投与後の肺機能の変化を評価した臨床試験のシステマティックレビューおよびメタアナリシスを行った。全ての患者は喘息治療薬の処方を受けていた。その結果、喘息および高眼圧症の患者 4865 例(平均 67.8 歳,女 55.8%)において,2000 年から 2012 年に,非選択的および選択的 β-遮断薬点眼剤の処方率はそれぞれ 23.0%から 13.4%,10.5%から 0.9%に低下した。NCCS では,中等度の増悪の発生率比(IRR)は,非選択的 β-遮断薬点眼剤(timolol,levobunolol,carteolol,metipranolol など)への急性曝露では有意に増加したが,慢性曝露では有意な増加は認められなかった。メタアナリシスでは,非選択的 β-遮断薬点眼剤の急性曝露は,FEV1 を平均-10.9%有意に低下させた。非選択的 β-遮断薬点眼剤に感受性の患者における選択的 β-遮断薬(betaxolol など)の急性曝露では,FEV1 の平均低下は-6.3%であった。非選択的 β 遮断薬点眼剤は，肺機能に有意に影響し，喘息症状を悪化させた。これら薬剤は喘息および高眼圧症の患者に使用すべきではない。

●急激な栄養ドリンク摂取が血圧パラメーターに及ぼす影響　(Ann. Pharmacother. 50(10)808- (2016.10))
PubMed,Cumulative Index of Nursing and Allied Health Literature,Cochrane のデータベースを用いて,2015 年 12 月 31 日までの文献検索を行った。対象文献は,市販の栄養ドリンクを摂取した際の血圧および心拍数(HR)についてプロスペクティブに検討した臨床試験とした。全てのエンドポイントについて,DerSimonian-Laird ランダム効果モデルを用いて,ベースラインからの加重平均変化を計算した。その結果 15 報の文献を解析対象とし,被験者(18-40 歳)は収縮期血圧(SBP),拡張期血圧(DBP),HR について各々340 例,322 例,340 例であった。その結果、栄養ドリンク(caffeine,taurine などを含有)摂取により SBP と DBP は有意に上昇し,その上昇量は各々4.44mmHg および 2.73mmHg であった。HR も上昇したがその変化量は有意ではなかった。caffeine を 200mg 以上含有する栄養ドリンクを摂取した際に最も大きな SBP の変化が認められた(6.44mmHg,CI:4.62-8.27)。

●禁煙のための Bupropion と Naltrexone (Clin. Pharmacol. Ther. 100(4)344- (2016.10))
治療を望む喫煙者 121 例を対象に,bupropion および naltrexone について無作為化二重盲検並行群間ダブルダミー試験において評価した。7 週間治療介入,6 ヵ月間の経過観察を行った。喫煙者を無作為に bupropion(300mg/日)+プラセボ群 60 例または bupropion(300mg/日)+naltrexone(50mg/日)群 61 例のいずれかに割り付けた。主要転帰は,生化学的に確認された(唾液中コチニン,一酸化炭素)7 日時点の禁煙率とした。その結果、bupropion+naltrexone 群は,7 週間の投与後,有意に高い禁煙率を示したが,6 ヵ月の経過観察では示さなかった。継続的な禁煙率に差はなかった。bupropion+naltrexone を投与された患者ではニコチン離脱症状が少ないことが報告された。bupropion+プラセボ群と比較して,bupropion+naltrexone 群で，頭部ふらふら感，悪心，胃痛，身震い，筋肉痛の発現率が高かった。

県民の皆様へ 薬達（やくたっ）ちゃーより
薬剤師会をご活用ください！

あまくま薬立（やくだ）つ情報

健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電　話　０９８－９６３－８９３０

おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。
（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電　話　０９８－９６３－８９３５

試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第１２条第１項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電　話　０９８－９６３－８９３４
e-mail　siken@okiyaku.or.jp

薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの〝かかりつけ薬局〟をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス　http://www.okiyaku.or.jp＞

第29回　暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会　狩俣 イソ

センダン

学　　名　Melia azedarach. var. japonica.
科　　名　センダン科 Meliaceae
属　　名　センダン属 Melia
使用部位　青果・熟果・葉・種子

センダンの特徴

アジア各地の熱帯・亜熱帯域の海岸近くや森林辺縁に自生する落葉高木。四国、九州、沖縄に分布するが、公園などに植えられたものの逸出、野生化で関東地方～宮城でも自生が見られる。

樹高は10 ～ 15mで、30mに達するものもある。若い樹皮は紫黒褐色で楕円形の小さな横斑が点在するが、太い幹の樹皮は縦に裂け、顕著な凹凸ができる。裂け方は、針葉樹のように緻密である。夏の日の午後は梢にクマゼミが多数止まり、樹液を吸う様子が見られる。

葉は互生し2 ～ 3回羽状複葉、一枚の葉全体の長さは50cm以上ある。小葉は卵形または卵状長楕円形で、縁は鈍い鋸歯がある。複葉の全体は大きいが、小葉は草質で薄いので全体としては柔らかい感じがする。

花の時期5 ～ 6月は、新緑とともに樹の梢に、靄がかかるように紫色の花が咲く。若枝の葉腋から複集散花序を出す。花は小さく2cmほど。萼片、花弁は5枚、雄しべは紫色で花糸が合生し筒状になる。花にアゲハチョウ類が訪れる。

果実は長径1.5 ～ 2cmほどの長楕円形の核果で、10 ～ 12月頃に淡黄色に熟す。秋が深まり落葉してもしばらくは梢に果実が残る。果実は果肉が少なく核が大きい。たまにヒヨドリなどが食べに訪れる。しかしサポニンを多く含むため、人、犬が食べると中毒を起こし摂取量が多いと死に至る。民間療法では果肉をそのまま擦り込んだり、煎じて塗る。種子は灰白色で堅く、10本の綾があるため断面は星型になる。一年枝は太く、小さな皮目が多い。葉痕は大きく突き出て、独特の形になる。冬芽はほぼ球形で、灰褐色の毛が密生する。葉や木材には弱い芳香がある。背が高く、新芽・開花・実生・落葉と季節ごとの見かけの変化も大きく、森林内でもよく目立つ。

樹：街路樹、庭木、公園樹。
樹皮：生薬の苦楝皮（くれんぴ：根皮および幹皮を干したもの）として、駆虫剤として煎液を内服。駆虫薬の中では副作用が少ない。
材：建築・器具用材。　　核：数珠珠。
葉：強い除虫効果をもつため、かつては農家において除虫に用いられていた。
果実：生薬の苦楝子（くれんし）として、ひび、あかぎれ、しもやけに外用。整腸、鎮痛薬として煎液を内服。

「栴檀は双葉より芳し」とする栴檀は本来の中国名で、日本で言う白檀のこと。センダンとは異なる樹を指す。

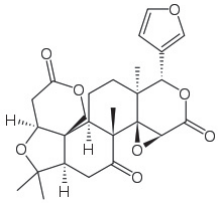
参考：薬用植物図鑑、樹木図鑑、Yahooサービス薬草園の世界、Wikipedia、薬用植物一覧表

実	苦楝子（くれんし）	オレイン酸、パルミチン酸、リノレン酸、ステアリン酸、メルデニン、ニンビニン酸
樹皮	苦楝皮（くれんぴ）	タンニン、マルゴシン、アスカロール、バニリン酸、トーセンダン、センダニン メリアノン、メリアノール、クエン酸、リンゴ酸　等

センダン成分のインフルエンザ予防・治療剤

ウイルスだけを接種したマウス群・感染前にセンダン成分を鼻腔内に吹きつけたマウス群・ウイルスとセンダン成分を混合して感染させたマウス群による実験の結果、ウイルスだけを鼻腔に接種したマウスの肺炎所見は100％の肺面積に広がり、センダン成分で処置したマウス群の肺炎発生が全くなかったこととは対象的な違いを見せた。センダン成分によるウイルスの不活性化が感染を成立させなかったことが明らかになり、著しいインフルエンザウイルス感染予防効果のあることが確認された。　参考：生物資源研究所 根路銘国昭

センダンの抗炎症作用・発がん予防作用



代表的なリモノイドである
リモニンの構造

センダン科の植物には生物二次代謝産物としてリモノイド が多く含まれている。リモノイドとはアポチルカランが酸化を受け、4炭素が消失した変形トリテルペンである。インド伝承医学であるアーユルベダにおいて、センダンは駆虫、利尿、収斂、健胃薬として伝統的に用いられている。

センダン果実、葉部および樹皮について詳細な成分探索を行い、リモノイド40種を含む53種の化合物の単離、構造解析および同定をした。単離された化合物について、抗がんプロモータ活性、抗炎症活性および腫瘍活性の評価を行った。単離された化合物のいくつかが、優れた活性を示した。

5種のリモノイドが、参照化合物のβカロテンと同等以上の活性を示し、有望な発がん予防剤である可能性が示唆された。

3種のリモノイドがアポトーシス誘導型抗腫瘍薬のリード化合物として有望であることが示唆された。

1種のリモノイド は、細胞の炎症関連タンパク質iNOS、COX-2の発現を濃度依存的に減少させることを確認した。またCOX-1のタンパク質発現を抑制しないことが確認できた。すなわち抗炎症薬のリード化合物として有望であることが示唆された。参考：潘 欣 博士論文

センダンが癌細胞のオートファジー促す

県産のセンダンから毒性を取り除いた成分をがん細胞移植マウスに投与したところ、大腸がん、肺がん、胃がんの細胞を殺した。培養がん細胞では70種類のがん細胞を殺した。さらに、犬のがん9種、ネコのがん2種に投与した結果、すべてのがんの成長を抑制した。臨床実験でも副作用がほとんどなく、実験を行った動物病院の獣医の8割が効果を認めている。葉から抽出した成分を希釈した健康補助サプリメント「犬猫用センダンα」を獣医向けに販売している。

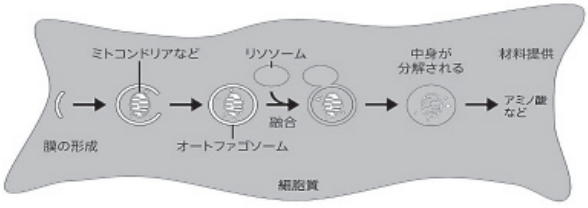
センダンの抽出成分に含まれる11種類の化学物質によって、がん細胞の分裂やDNA合成を阻止していたことが判明した。がん細胞のオートファジー（自食作用）を誘導し、最終的に殺す効果があることが解った。既存の抗がん剤より効果があり、経口投与で副作用もないことが明らかになった。根路銘氏は、センダンががん細胞のオートファジーを誘導する現象について特許を申請。

参考：琉球新報

生物資源研究所　根路銘国昭、OIST山本雅

オートファジー（*Autophagy*）

細胞が持っている、細胞内のタンパク質を分解する仕組みの一つ。酵母からヒトにいたるまでの真核生物に見られる機構であり、細胞内での異常なタンパク質の蓄積を防いだり、過剰にタンパク質合成した時や栄養環境が悪化した時に、タンパク質のリサイクルを行ったり、細胞質内に侵入した病原微生物を排除することで生体の恒常性維持に関与している。個体発生の過程でのプログラム細胞死や、ハンチントン病などの疾患の発生、細胞のがん化抑制にも関与することが知られている。



参考：Nature ダイジェスト水島 昇、Wikipedia

みつなり の弥次喜多道中！
（医療機関・施設訪問）

国立大学法人
琉球大学医学部附属病院
～プロフェッショナルが集まる場所～

琉大病院…県民の誰もが知る病院であり、沖縄県唯一の国立大学の基幹病院である。私は琉大病院へ行くのが初めてだった。目的地へ向かう車中で院内はどんなところか思いを巡らす。大学病院の薬剤部・スペシャリスト集団、そんな言葉が頭によぎりながら目的地が近づく。西原の高台にたたずむ病院はどことなく首里城と面影が似ている。琉大病院は現代の首里城をイメージして建設されたと以前に聞いたことがある。納得。10月下旬とはいえ本日は30℃を超す真夏日である。車から降りて熱気を振り払っていざ出陣、もとい、いざ取材へ！

正面玄関を入ると窓口が並んでおり、突き当たり左側に薬局窓口がある。その横に院外処方箋FAXコーナーが。FAXコーナーのスタッフの下地和美さん、崎濱祐美子さん、上原和子さんが笑顔で出迎えてくれた。FAXコーナーは病院で最後に訪れる窓口なので笑顔で気持ち良く帰ってほしいという心掛けで患者さんと接していると教えて頂けた。この日も笑顔の素敵な三人娘は処方箋 をFAXしながら患者さんを気持ちよく送り出していた。

連絡階段の壁には専門薬剤師認定証が所狭しと貼られていた

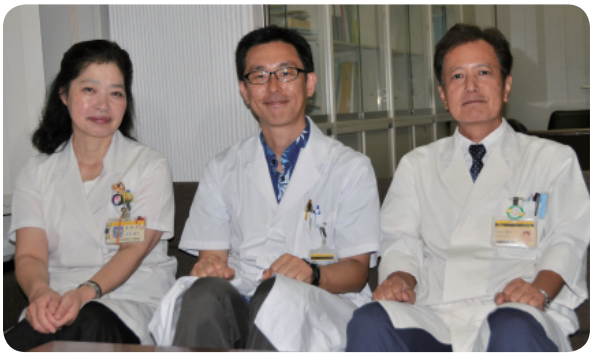
と、ここで琉大病院の歴史についておさらい。昭和43年5月に琉球大学に保健学部が設置される。この時まだ琉大病院はない。昭和45年6月に那覇市与儀にあった新那覇病院が琉球大学附属病院となる。これが琉大病院の始まりである。昭和47年5月に本土復帰に伴い琉球大学保健学部附属病院となり、昭和56年4月に保健学部が医学部保健学科に。名称も現在の琉球大学医学部附属病院と改められた。その後、昭和59年7月に那覇市与儀から現在の西原町上原団地へ移転。今後は西普天間への移転が計画されている。また平成24年3月に病院内の敷地におきなわクリニカルシュミレーションセンターが竣工、沖縄県下のすべての医療系学生および医療者を対象としたシミュレーション教育のプログラム開発・実践・研究が行われている。

薬剤部へ入っていく。部内は副薬剤部長の与那覇房子先生が案内して下さった。同じく副薬剤部長の外間惟夫先生もおられた。薬剤部は1階と2階の2つのフロアで構成されている。院内は18病棟からなり病床数は約600床。

備蓄品目は約1,500数、約40名の薬剤師が手際よくそれぞれの業務を遂行している。フロア内の連絡階段の壁には誰が貼りだしたか不明だが薬剤部名物？専門薬剤師の認定証がところ狭しと貼られている。認定証の数は100枚はあるだろうか？圧巻である。1階のDI室には韓国から留学にきている（サバティカル研修という）薬剤師の先生もいた。また1階には高速液体クロマトグラフィーがあり薬物血中濃度モニタリング(TDM)の測定も行える。

薬剤部長室に入る。昨年8月に薬剤部長に就任された中村克徳先生が出迎えて下さった。大きなチームをまとめる中村先生は皆を優しく包み込む風格ある教授である。北海道苫小牧市の出身で転勤で南下を繰り返し、縁あって沖縄にきた。趣味はアイスホッケー。休日は県内唯一のスケート場のサザンリンクスで汗を流しているとのこと。

中村先生から非常に興味あるお話を伺うことができた。琉大薬剤部には各専門分野の認定薬剤師が多くいるのが特徴である（がん専門・がん薬物療法・緩和薬物療法・HIV認定薬剤師・糖尿病療養指導士・NST専門療法士・臨床薬理学学会認定･妊婦授乳婦認定薬剤師･小児薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師・漢方薬生薬認定薬剤師）。分野をどのように振り分けているか中村先生に尋ねたところ、各々興味ある分野で取得しており特に指示はなく自主性を重んじている。サテライト教育にも取り組んでいる。立地上、本土への研修が難しい場合にサテライトという形で学習できる体制を琉大で構築していきたいと中村先生は仰っていた。また琉大病院の処方箋には平成27年2月から臨床検査値や抗がん剤治療情報（レジメン情報）が記載されている。この検査値の見方や化学療法レジメンについての勉強会やその他企画の薬薬連携が始まっている。



与那覇房子副薬剤部長、中村克徳薬剤部長、外間惟夫副薬剤部長

話は変わって琉大の薬剤師は医師から信頼が厚い。大きな病院の中で顔を見て「薬剤師さん」ではなく名前で呼んでくれる。皆が現場で活躍して認められている証である。また治験や臨床試験は薬剤部とは別フロアの臨床研究支援センターで取りまとめられており、日本臨床薬理学会の認定CRCの薬剤師もいる。

今回の取材で感じたことは琉大薬剤部の薬剤師はプロフェッショナル薬剤師であるということだ。薬剤部は約40名の大所帯だが、各々が考え連携しながら最高のパフォーマンスを発揮する。プロフェッショナルがチームの一員として存分に力を発揮し最高の医療を提供する。個々のスキルが高いから成せる業だ。若きリーダーの中村先生を中心に皆を支える外間先生・与那覇先生の尽力が伺えた。素晴らしいチームである。彼らが沖縄県の薬剤師レベルを上げてよりよい医療を提供できるよう我々を牽引してくれるだろうと今回の取材で確信した。　（文:広報委員会　鈴木 一徳）

宗教勧誘のお話。

とくりん薬局
宮城 勇己

宗教は人によって捉え方が難しい話題の一つです。それは仏教やキリスト教等の有名な宗教を含めるとこの日本には多くの宗教があり、それぞれ価値観や視点が異なる事が挙げられます。自分にとって宗教とは、特定の新興宗教の事件が世間を騒がせることも多かったためか、何か近寄りがたく難解で危険なイメージもあり、テレビを観ながら遠い存在の集団で、一生縁がないだろうなと思っていたものです。そんな私が新興宗教の世界に足を突っ込みかけた！そんなお話です。

それは2007年に名古屋で学生をしていた時のお話です。当時19歳だった私は(歳がバレル！)学生生活も窮屈に感じていて、友人と遊ぶ訳でもなく、学校と家との往復する生活を過ごしていました。私生活も充実しているとは言い難く、常に物足りなさと悶々としたものを感じていて、何か熱中できるものがあればいいなと思っていた時期でもありました。

そんな生活が続いた6月の初夏の事です。家でテレビを観ながら暇を持て余していた時に突然インターホンが鳴りました。その日は来客の予定もなく、新聞の勧誘かと思った私は、急いで外の様子を伺うと、ポロシャツを着た学生風の男性が二人立っていました。不審に思いながらもドアを開けると「僕たちは今各家庭をまわってボランティア活動についての意識調査を行っているのですが、協力してくれませんか？」

文系学生の卒業研究か何かだと勝手に解釈した私は快諾し、アンケートに答えました。一通りアンケートに回答した後、次に彼らはこう切り出しました。「僕達はボランティア活動をメインにやっているサークルもやっているのですが、良かったら一緒にやりませんか？」元々熱中できる何かを探していた私は深く考えることもせず、こういう出会いも何かの縁だと思い、その流れでボランティアサークルを称するサークルに参加することになった訳です。

サークルの活動はどこにでもあるマンションの一室で行われていました。そこではリーダーと呼ばれる室長が1人と、20代の世話役の3人がいて、僕のように勧誘されてきた学生の面倒を見ていました。学生は名古屋近郊の大学に通う人を中心として、約十数人ほど参加しており、皆ごく普通の学生で、感じの良い人達ばかりでした。主な活動ですが・・、肝心のボランティア活動は全く行われず、週に3日マンションに集まり、毎回あるテーマを決めディスカッションを行い、終わったら皆でトランプをしたりゲームをしたり飲み会をしたりして、仲間内で親睦を深めるのが主な流れになります。ディスカッションの内容ですが、日本の経済格差や政治家の汚職、宗教がなぜ必要とされるのか等の社会的批判や宗教関係の話題が多かったです。室長や世話役を中心として過激な発言が多く、宗教の話に関してはとにかく熱弁をふるって皆に訴えかけていたのを覚えています。

「私には信じている神がいる。皆が私の信じている宗派に入れとは言わないが、間違いなく幸福になれる。それはなぜか？君らの感情が湧き出る時は何らかの根拠があるだろう。宗教とはその源泉であり、信心深い程、自らが浄化され清らかになるからである。」

「人生の軸を持っていないなんてダメだ。このサークルはその軸を探す手助けをするためにあるんだ」

このような発言には賛同者も多く、この会も盛り上がったのですが、私にはあまりピンとこなくて、周りのテンションについていけ

ませんでした。今思うと変だったなと感じるのですが、宗教関連の話題や人生論、精神論に関して異様に盛り上がるサークルでした。

約3ヶ月間活動を続けるも、肝心のボランティア活動は全く話題にも挙がらないので騙されたかなと思う気持ちと、なにかこのサークルは普通のサークルとは違うなと徐々に警戒するようになってきて、サークル仲間からも距離を置き始めようかなと思い始めた頃に突然リーダーから話があると言われ部屋に呼び出されました。サークル幹部は明るい口調で

「実は2週間後に岐阜でサークルの母体の研修会がある。実は我々のサークルのメンバーは君の友人も含め全員参加経験がある。研修費として一万円が必要になるが、研修に参加する事で初めて我々の仲間となれるのだよ。もちろん君は参加するよな？すごくいい話が聞けるんだよね。ボランティア？それはまた今度やるけど、まずはこの会に参加してからやろうと思っている。」

この発言がきっかけとなり、このサークルのなんとなく感じた気味の悪さとボランティア活動としての活動頻度の低さを理由に、仲良くなった仲間もいましたがとても名残惜しかったのですがサークルから去ることを決意したのです。

後日談なのですが、私と同じように抜けた人の話では、このサークルは某カルト宗教の一派で、布教の一環として、ボランティアサークルと称し信者を募っていたようです。私のような学生をターゲットに最初は幹部数人で学生が住んでいるとされるアパートをまわってサークルに勧誘し、仲間意識が芽生え始めた頃に新興宗教の施設で教義を受けさせ、信者にしていくといった手口です。実は私もこの話を聞くまで今まで参加していたサークルが宗教関連のサークルだとは全く気づかず、ただのボランティアサークルだと思っていたので本当に驚きました。良い人たちだから安心できるという先入観が警戒心を薄れさせていたのかもしれません。

現在でも大学生をターゲットにした宗教の勧誘は後を絶たないと言われています。宗教を信仰すること自体は一概に悪いとは思いません。しかしどんな場面でも一度立ち止まって考えたり、普段から怪しむ心を持って人と接していく事はとても大切です。絶対にそんな勧誘にはひっかからないと思っている方も多いと思いますが、彼らは本当に宗教とは全く異なる方向から近づいてきます。早朝球技をして健康づくりをしようと友人に誘われ参加した集まりが、実はカルト宗教の関連サークルだったりすることもあるのです。特に学生は自らのテリトリーやコミュニティーを持ちたがる傾向にあるため、コミュニティーを大事にしようとするあまり、それに引っ張られやすい時期でもあります。気が付いたら宗教の信者になっていた！なんて話は普通にありえる話で、尚更気を付ける必要があるのです。

実際ひっかかった私が言うのもなんですが、世の中色々な人がいて、色々な考えがあります。実際私の所属していたサークルの幹部の人達は話をしてみるとフレンドリーで、皆優しい人たちばかりでした。勧誘にひっかからない為に大事な事は、初対面でどんなに優しい雰囲気の人に対しても、外見や雰囲気に惑わされず、自分に近づいてくる人に対してまず最初は疑ってかかる事が一番大事だと思います。

現在新興宗教の勧誘に対する認知度は以前よりも高まっており、各学校でも注意喚起を行っている学校は増えてきていますが、高校生や大学生のいるお子さんをお持ちの先輩の薬剤師の先生方も、自分の息子や娘は大丈夫だとは思わず、普段から注意喚起を行って欲しいと思います。自分はひっかからないと思っている人ほど要注意です！

次号には、座覇里奈 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

転載記事

平成28年11月10日(木)　沖縄タイムス

県薬剤師会創立90年祝う
活動貢献の３氏表彰

県薬剤師会（亀谷浩昌会長、会員約1200人）の創立90周年記念式典が６日、南風原町の県薬剤師会館であり、約120人が参加し節目を祝った。亀谷会長はあいさつで「先人たちの歴史を受け継ぎ、力を合わせて会を発展させ、国民や医療チームの仲間にも『薬剤師がいて良かった』と言ってもらえるよう頑張っていく」と述べた。

同会は1926（大正15）年設立。沖縄戦で多くの人材が失われたが47年に沖縄群島薬剤師会として会員29人で再出発した。２度の改称後、本土復帰とともに現在の名称になった。

式典では、会の活動に大きく貢献した前会長の神村武之（たけし）さんと、前事務局長の山城志津さん、元役員の松山朝雄さん（欠席）が創立90周年記念特別表彰を受けたほか、県薬剤師会長表彰があった。

創立90周年記念特別表彰を受けた２人を紹介する県薬剤師会の亀谷浩昌会長（左）＝６日、県薬剤師会

平成28年12月4日(日)
琉球新報

薬物乱用防止へ
薬局２団体寄付
県協会に20万円

日本専門薬局同志会沖縄連合会（新垣雅大会長＝写真左）と日本薬局協励会沖縄支部（幸地良信支部長）は２日、県薬物乱用防止協会（銘苅榮一会長）にそれぞれ寄付金10万円ずつを贈った。寄付金は同協会の啓発活動で活用される。

寄付金贈呈は同志会が継続39年、協励会が同34年。県庁で行われた贈呈式で、協励会の仲程俊介副支部長＝同右＝は「薬物乱用防止を県民に伝えるため、寄付金を無駄なく活用してほしい」と述べた。

同協会の吉田久子専務理事は「今後も協力をお願いしたい」と感謝した。

平成28年11月22日(火)　琉球新報

薬物乱用許さぬ社会環境目指す
防止運動、沖縄地区大会
第22回麻薬・覚せい剤乱用防止運動沖縄地区大会

（厚生労働省、県主催）が21日、浦添市てだこホールで開かれた。学校・行政関係者ら約550人が参加。薬物乱用を許さない社会環境づくりの大切さを確認した。

浦添商業高2年の本村俊之介さん、山城有加さんが読み上げた大会宣言を採択。薬物乱用対策功績で、厚労省医薬・生活衛生局長表彰の吉田久子さん、県知事表彰の我喜屋良一さん、玉城雪枝さん、東恩納寛政さんが表彰された。

沖縄地区税関麻薬探知犬センターによる公開訓練＝写真＝や、「夜回り先生」として知られる水谷修さんの特別講演も行われた。

転載記事

平成28年11月7日(月)　沖縄タイムス

豊かな老い「支援を」

那覇でフェア　高山医師訴え

【那覇】「くすりと健康フェア」（主催・県、那覇市、県薬剤師会）が10月20日、市久茂地のパレット市民劇場であった。県立中部病院感染症内科・地域ケア科の高山義浩医長が講演。医療・介護需要が増大していく高齢化社会について「無尽蔵に医療資源を投入できる時代ではなくなっている。高齢者自身の視点でケアの方法を検討し、自律した生活や地域の中で豊かに老いることができるよう支援することが必要」と強調した。

10月17～23日の薬と健康の週間に合わせた企画で、約200人が来場した。高山さんは沖縄の65歳以上女性の自殺率が、全国一低い2010年のデータを示し「沖縄戦の経験が死生観に影響しているのではないか」と説明。逆に全国ワースト2位の20～64歳女性の自殺率や県内に多いアルコール性肝疾患と自殺の関連性を指摘し、若年女性を守る取り組みや適正・適量飲酒を呼び掛けた。平均寿命が男女とも、1位から転落したことには「数字上の長寿県奪還にこだわる必要はない。この県に暮らして幸せだなと実感できる地域づくりを全国に発信することで結果も伴ってくる」と語り、長寿の「質」の向上を訴えた。

フェアでは、県保健医療部薬務疾病対策課の渡口由希子主任による基調講演「知っておきたい薬の知識」もあった。

高山義浩医師

平成28年10月9日(日)　琉球新報

「薬と健康週間」20日に講演会

県など、無料相談も

県薬剤師会と県、那覇市は、薬と健康の週間に合わせた県民公開講演会を20日午後7時から、那覇市のパレット市民劇場で開催する。入場無料。開演前の午後4時30分から同劇場ロビーで健康と薬に関する無料相談会も実施する。

県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長の高山義浩さんが「沖縄県で〝最後まで〟自分らしく暮らすために」と題して講演する。

7日、県薬務疾病対策課の神里奈々子主任＝写真左＝らが琉球新報社を訪れ「介護や医療を活用しつつ、自分で行う健康づくりや、かかりつけ薬局について考えるきっかけにしてもらいたい」と話した。

問い合わせは同課☎098(866)2215。

平成28年10月9日(日)　沖縄タイムス

薬と健康週間で講演会

20日 パレット市民劇場

県薬剤師会は県、那覇市と共に「くすりと健康フェア〈心身ともに健康〉県民公開講演会」を20日午後7時から那覇市のパレット市民劇場で開く。県保健医療部薬務疾病課の神里奈々子主任＝写真右＝らが7日、沖縄タイムス社を訪れ、「医療従事者だけではなく、介護を必要とする方など広く県民に参加してほしい」と呼び掛けた。

17～23日の薬と健康の週間にあわせて企画。「沖縄県で〝最後まで〟自分らしく暮らすために」をテーマに、県中部病院感染症内科・地域ケア科の高山義浩医長が講演する。そのほか、薬剤師が日頃使用している医薬品や健康食品、サプリメント類についてのアドバイスする「健康とおくすり相談会」も同時開催される。

転載記事

平成28年10月16日(日)　沖縄タイムス

寄稿

かかりつけの薬局で相談を

村田　美智子

「風邪？」と思った時あなたはどう対処しますか。栄養を取りひたすら休養して体力の回復を待つ、市販の風邪薬を服用して切り抜ける、クリニックを受診するなどではないでしょうか。

超高齢化と人口減少を見据えた医療施策の中で、国は国民に対してセルフメディケーション（自分の健康に責任を持つ、軽度の不調は自分で手当てする、というWHOの定義）を呼び掛けています。他方で医薬分業のあるべき姿として昨年10月「患者のための薬局ビジョン」を打ち出しました。その中で示されたのが「かかりつけ薬剤師・薬局」で、4月の診療報酬改定で具体的に位置付けられました。

かつて薬局は、地域の健康相談所として頼りにされていました。「風邪かな？」「胃が痛い」と、健康に不安を覚えた時に最初に訪れる場所でした。もちろんその役目は今でも変わってはいません。ただ、医薬分業を推し進める中で、意図したことではなかったにせよ、多くの薬局の形態が院外処方箋の調剤業務に偏り過ぎたのは否めません。

これを再検討し、より充実した形で地域の方々の健康相談者・支援所として位置付けられたのが、今回の「かかりつけ薬剤師・薬局」です。もとより薬局は医療提供施設であります。「かかりつけ薬剤師」は地域の方々に安心して薬を使用していただけるよう、患者さまの薬の情報を一元的・継続的に管理し、生活習慣、サプリメント等も含めて健康相談に応じます。市販薬での対応が難しい場合は、医師への受診を提案します。

調剤に際して、薬の効果・副作用を含めた適正使用を説明することで残薬を防ぎ、処方薬の重複や相互作用が疑われればその調整もします。さらに、入院の場合は病院の薬剤師が担当します。退院後は、再び地域で「かかりつけ薬剤師・薬局」が引き継ぎ、皆さまの健康を支えます。在宅治療の場合は「地域包括ケアシステム」の医療関係者チームの一員となって、薬の専門家として力を尽くします。これら全てが「かかりつけ薬剤師・薬局」のこれからの形なのです。自分の健康のサポーターとして「かかりつけ薬剤師・薬局」を決め、活用されませんか。

17日から23日までは「薬と健康の週間」です。20日はパレット市民劇場において、「健康とおくすり相談会」や「沖縄県で〝最後まで〟自分らしく暮らすために」と題して県民公開講演が開催されます。

（那覇市、沖縄県薬剤師会常務理事、66歳）

転載記事

平成28年10月10日(月)　琉球新報

2016年10月10日

論壇

生涯の健康パートナーに

「お気に入り薬局」を見つけよう

佐藤　雅美

全世界人口の2%足らずの国である日本が、全世界の薬剤費の10%を使っているという事実。まさに「薬好きな日本人」の姿がよく分かる数字です。

この「クスリ」という「リスク」（薬を逆から読むと）の専門職が薬剤師です。日本には約5万7千店（2013年現在）の薬局があり、約15万3千人（2012年現在）の薬剤師が働いています。病院やクリニックからの処方せんを基に調剤し、その方に合わせた飲み方やアドバイスを行います。また、処方せんがない場合でも相談に応じ、食事指導・生活指導、医薬品の販売を行います。

今年4月、診療報酬の改定に伴い「かかりつけ薬剤師」という言葉が登場しました。この時期のテレビや新聞などで目にした方も多いと思います。「かかりつけ薬剤師」の要件として、薬剤師としてのキャリアと地域での活動、自己研さんの有無、勤務年数など、一定の条件が設けられました。

この「かかりつけ薬剤師」と区別する意味で、今回あえて「お気に入り薬局（薬局）」という言葉を使って、薬剤師や薬局の健康インフラ活用法を考えてみます。

病気になった時のファーストアクセスとして、お気に入り薬局（薬剤師）を利用して下さい。いきなりお気に入りを見つけるのは難しいので、家族の薬をもらう時や、近所に入りやすい薬局があればチェックしておくと良いでしょう。

定期的に病院を受診している方は、薬の作用・副作用だけではなく、飲み忘れた時の対処法や飲み残し薬の整理、サプリメントとの飲み合わせについても相談しましょう。飲んでいる薬によっては、積極的な摂取が必要なサプリメントもあります。

来年1月からは、市販薬を一定以上購入した世帯の所得税が控除になる制度も新たにスタートします。

数年前から薬局での検体測定も可能になり、一部の薬局では血液（自己穿刺）による簡単な健康チェック（HbA1c、脂質など）をして、結果を基に食事や運動のアドバイスを行います。薬局で診断はできないため、必要に応じて病院受診を勧めることもあり、病気の早期治療にもつながっています。

他にも、病院受診が困難な方への在宅や施設での服薬管理、自宅での輸液療法への関与、薬剤師以外の医療チームの紹介ステーションとして…など。お気に入り薬剤師（薬局）を生涯の健康パートナーとして活用し、その時々で必要な情報やアドバイスを受けながら自身や家族の健康に役立ててほしいと思います。

沖縄県薬剤師会は今年10月10日で創立90周年を迎えます。「オール沖縄薬局（薬剤師）」で県民の健康を支えていきます。

（沖縄県薬剤師会理事、沖縄市、52歳）

平成27年度 第13回定例理事会 議事概要

日時：平成28年3月12日（土）19:00 ～ 22:00
場所：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜出席者＞
会　　長：亀谷浩昌
副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子
理　　事：山里 勇、宮城敦子、村田美智子、我喜屋美香、川満直紀、佐藤雅美
　　姫野耕一、新垣秀幸、下地 仁、幸地良信、笠原大吾、荒井千春、浅沼健一（代理）
監　　事：大城桂子
欠　　席：吉冨弓江、吉田洋史、石川恵市
事 務 局：山城英人、松堂恵美、前原里江、上原美也子

議題

(1) 第73回臨時総会について

式次第について　＜資料配布＞

（山城課長）
臨時総会当日の次第及び各理事の役割分担について確認を求め、承認された。

報告　第1号　平成28年度事業計画について　＜資料配布＞

（江夏副会長）
県薬及び各委員会、部会から提出された次年度事業計画について、案の通りでよいか伺いたい。

（我喜屋常務理事）
県薬の事業として、禁煙活動についての文言を入れてほしい。
禁煙活動事業について確認することとし、承認された。

第2号　平成28年度歳入歳出予算について　＜資料配布＞

（山里常務理事）
まず一般会計より説明する。入会金については今年度見込実績が560,000円のところ、予算を600,000円（入会者60人とする）とし、賛助会費B会費は見込実績47,800,000円で、予算を48,000,000円とする。雑収入の事務受託収益の予算を2,700,000円（内訳、薬連から2,500,000円、研修申請料等として200,000円）。経常収益の合計は109,255,877円となっている。事業費については、支払補助金（各地区薬剤師会への助成金）は前回と同額6,000,000円。支払負担金として日薬会費で14,500,000円とした。一般会計では今期9,379,477円プラスになっているが、事務局長及び専務理事の不在によるものである。

事業収益について会営薬局うえはらから説明する。調剤報酬収入の予算は743,280,000円である。内訳としては、処方せん回数は2350回/月で推移、技術料2,290円/回、薬剤料27,000円/回。診療報酬改定を受け、基本調剤点数は25点としている。その他の項目はほぼ例年通りである。当期一般正味財産増減額が6,876,463円となる。

次に会営薬局とよみについて説明する。調剤報酬収入の予算は734,283,000円である。内訳としては、処方せん回数は3,580回/月で推移、技術料2,233円/回、薬剤料17,190円/回。基本調剤点数は43点としている。当期一般正味財産増減額が11,135,439円となる。

会営薬局医療センター前について説明する。調剤報酬収入の予算は31,363,000円である。内訳としては、処方せん回数は808回/月で推移、技術料3,065円/回、薬剤料1,082円/回。基本調剤点数は75点。その他事業収益では新規導入の「小児救急電話相談#8000」の予算を2,880,000円としている。当期一般正味財産増減額はマイナス2,805,000円となる。

試験検査センターはほぼ例年通りで売上総利益、14,044,356円としている。こちらも赤字の部門で、当期一般正味財産増減額はマイナス3,264,436円となる。

その他事業会計について説明する。収入は出版物事業収入と席貸料収入等である。今期は診療報酬改定がなく新規印刷物等もなかったため収益が落ちているが、来期は改定に伴う新規印刷物が予想されるので、売上総利益を1,300,200円としている。当期一般正味財産増減額はマイナス3,755,519円となる。

最後に琉大FAXコーナーについて説明する。売上総利益が3,700,100円、一般正味財産増減額が51,100円となる。

平成28年度収支予算全体では、当期一般正味財産増減額と当期指定正味財産増減額を相殺した当期純利益額は5,421,146円となる。

採決について挙手を求め、承認された。

議案　第1号　平成28年度会費額に関する件　＜資料配布＞

（山里常務理事）

正会員会費および賛助会員会費額等については前年度と同じ額とする。

・正会員A会費　　年額 54,000円（日薬会費18,000円含む）
・正会員B会費　　年額 39,400円（日薬会費7,000円含む）
・賛助会員A会費　年額 15,000円
・賛助会員B会費　処方せん受付回数1回あたり8円（上限48万円）
・特別会員A会費　年額 10,000円
・特別会員B会費　年額　1,000円

採決について挙手を求め、承認された。

第2号　一般社団法人沖縄県薬剤師会役員報酬等規程の変更について　＜資料配布＞

（山里常務理事）

今回、会長の報酬額の変更を提案したい。役員報酬等規程より、理事の報酬は基本額（20,000円）に理事別係数を乗じた額が月額である。会長職の係数は7.5でその報酬は月150,000円となる。現会長は県薬に常勤して会務に努められていることから、会長の係数に関して「但し常勤の場合は係数15.0とする」との但し書きを加え月300,000円としたい。この報酬額については、九州各県薬と比較し各々ではあるが高い額ではない。

（浅沼氏）

財務委員会では、まず理事会にて常勤の場合の対応を理事会で諮り、それから係数を決めるべきとの話であったと思うので、手順をきちんと踏んでほしい。

（山里常務理事）

確かに財務委員会で慎重に検討し、常勤の会長については報酬を上げることに賛成であった。しかし額については理事会にて検討すべきとの話であった。財務担当理事として説明し、理解を求めている。

その他の意見として、会長職としての重責を考えると妥当ではないか。また再度財務委員会及び理事会で審議した方が良いのではとの案も出たが、議論した結果採決について挙手を求め、承認された。臨時総会へ議案として提出することになった。

(2) 災害時用品の購入について（衛星電話）　＜資料配布＞

（山城課長）

災害対策委員会では、災害時には情報収集が最も重要との考えがあり、衛星電話を購入の案が出ている。2機種を候補として挙げている。

協議の結果、災害時にどのように役立つかが重要であることから、まず被災地で実際どうであったか等の情報を収集し、会長と災害対策担当の吉田理事と検討していただき、必要とするならば税金対策を踏まえた上で3月中に購入することで承認された。（結果、今期は購入しなかった）

(3) 年度末における県薬職員への特別手当支給について　＜資料配布＞

（山里常務理事）

今期の決算見込は、薬剤師不足で人件費の支出が少なかったこともあり、収益が出ることが予想できるため、職員への還元として特別手当を支給したい。

（下地理事）

職員への還元はもちろんだが、地区活動費を増額することはできないか。

（山里常務理事）

特別手当支給には税金対策の意味も含まれている。地区活動費は、同様に扱えないため必要に応じて次期で検討していきたい。

特別手当支給は承認された。

(4) くすりと健康フェア（県民公開講演会）講師の選定について　＜資料配布＞

（山城課長）

次年度のくすりと健康フェアは10月20日（木）、会場はパレット市民劇場を予定している。また、県民公開講演会講師について、数人の候補が挙げられているが、まだ決定時期ではないため、他に講師の提案を頂きたい。

日程及び会場については承諾された。講師については、現時点の候補者のうち今井恵理子氏（歌手）は今回参議院議員選挙に出馬する予定があり選挙が絡む可能性がある為、候補から外すこととする。各理事・地区で検討して頂き、4月の理事会にて報告してもらうことになった。

(5) その他

（村田常務理事）

ご高齢の会員について会費の値下げを検討して欲しい。薬剤師会へ協力はしたいが、仕事をしていない状況で現在の会費を払うのは負担が大きいとの要望をよく聞かされる。

会費については今後検討していくことになった。

（村田常務理事）

昨年度に各種委員会等大きく組織編成をした。その中で地域保健開局委員会について、1つの委員会がやるには内容が多いように思う。1年間活動してきたが、再検討した方がよいのではないか。

協議した結果、もうしばらく様子を見ることとした。

（亀谷会長）

報告となるが、今回2名の職員の昇格を決定している。この1年間、職員の働きを見ていて、この2名は昇格に値すると考える。今後、薬剤師会の活動は活発化していく。それを支えるために必要と考えた。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について　＜資料配布＞

(2) 平成27年度第1回薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会

2月5日（金）日薬　＜資料配布＞

（江夏副会長）

薬事情報センターの吉田典子氏が参加した。

(3) 平成27年度第4回沖縄県がん診療連携協議会　2月19日(金) 琉球大学医学部　＜資料配布＞

(亀谷会長)

学生対象のがん予防啓発ポスターの募集があり、今回選ばれた作品の表彰があった。

(4) 平成27年度薬剤師継続学習通信教育講座・スクーリング　2月21日(日) 県薬　＜資料配布＞

(村田常務理事)

女性薬剤師部会主催で例年開催している。今回は45人の参加があった。

(5) 健康とおくすり相談会　2月21日(日) サンエー経塚シティ

(川満常務理事)

那覇地区担当で、サンエー経塚シティで開催。45人以上の方が来場し、大盛況だった。

(6) 九州ブロック日薬代議員予備会議　2月22日(月) 福岡県薬　＜資料配布＞

(亀谷会長)

会議では次回の日薬会長・副会長選挙及びブロック代表質問の内容について議論した。日薬会長選には2名の立候補が予定されているが、九山ブロックとしては山本現日薬会長を支持することになった。副会長については、森昌平氏、石井甲一氏、乾英夫氏、田尻康典氏、鈴木洋史氏（病薬代表）に投票することを全会一致で決定した。

(7) 沖縄県Uターン希望薬学生病院・薬局見学

2月22～24日(月～水) 各病院、薬局　＜資料配布＞

(亀谷会長)

昨年県外4大学にて「薬剤師氏確保事業『沖縄県Uターン・Iターンガイダンス』を開催した。そこに参加した薬学生より春休み帰省中の病院見学の希望があり、希望する病院を中心に見学を支援した。

(8) 平成27年度年金委員・健康保険委員合同研修会

2月23日(火) ちゃたんニライセンター　＜資料配布＞

(我喜屋常務理事)

全国健康保険協会（協会けんぽ）より依頼を受け、「ジェネリック医薬品について」というテーマで講演を行った。

(9) 沖縄県看護協会より来訪（「小児救急電話相談事業＃8000」の件）　2月23日(火) 県薬

(亀谷会長)

「小児救急電話相談事業#8000」の件で来訪があった。この事業はお子さんを持つ保護者に救急病院へ行く前に電話相談を利用してもらうためのものである。薬剤師会も参加しているが、今のところ対応件数は少ない。その理由としては、相談を最初に受ける看護師で対応できる内容が多いため、薬剤師への相談まで回ることが少ないことが考えられる。しかし、必要に応じて薬剤師にも相談できることはとても心強いとのことであった。

(10) 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業説明会　2月24日(水) 大濱信泉記念館

(笠原理事)

八重山地区で開催し、約7名の参加があった。

(11) 健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」

2月24・25日(水・木) 那覇市鏡水ふれあい会館　＜資料配布＞

(川満常務理事)

沖縄県老人クラブ連合会主催で開催。2日間の日程であり、24日（水）には渡慶次全康氏が「東洋医学からの提言」と題して講義を行い、翌25日には具志堅興信氏と鈴木一徳氏が「くすりの正しい使い方」と題して講義を行った。老人クラブ連合会会員と一般高齢者、70名以上の参加があり、盛況であった。

(12) 個別指導　2月25日(木) 那覇第一地方合同庁舎

(13) 日本薬剤師会「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第4回）」の伝達研修会開催のための打合会議　2月25日(木) 県薬　＜資料配布＞

(笠原理事)

報告（17）関連事項。

(14) 平成27年度第3回　地域医療支援病院運営委員会・登録医総会・記念講演会

地域連携懇親会　2月25日(木) ロワジールホテル&スパタワー那覇　＜資料配布＞

(15) 医薬分業指導者協議会　2月26日(金) 厚生労働省講堂　＜資料配布＞

(川満常務理事)

「患者のための薬局ビジョン」についての協議会であった。国の方針として2025年までにすべての薬局が健康サポート機能を持ったかかりつけ薬局へ、2035年までには生活圏域でかかりつけ機能を発揮できるよう進めていく予定である。

(16) 歯科医師・薬剤師認知症対応力向上研修伝達講習会

2月27日(土) フクラシア品川クリスタルスクエア　＜資料配布＞

(笠原理事)

中尾滋久委員が参加した。次年度に県の主催にて伝達講習会の開催を企画している。

(17) 日本薬剤師会「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第4回）」の伝達研修会

2月28日(日) 県薬　＜資料配布＞

(笠原理事)

昨年10月27日に開催された日薬主催の「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会(第4回)」を受けて、松本圭吾委員と一緒に伝達講習会を行った。「薬剤師の臨床判断」として、発疹をテーマにワークショップ形式で学習した。今後も開催も企画しており、他の委員にも講師をしてもらう予定である。

(18) 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会　第9回在宅医療連携システム構築に係る小委員会

2月29日(月) 沖縄県医師会館　＜資料配布＞

(笠原理事)

今年度にて委員会は終了する。2月末時点で参加医療機関は70軒、薬局は38軒であった。参加数を増やす必要があるが、サーバー使用料等の費用もかかり難しいようだ。次年度以降は別の予算での運営予定であるが、どうなるかは不明である。

(19) 医療事故調査等支援団体向け研修会（第2回） 3月2･3日(水･木) 日本医師会　＜資料配布＞

(江夏副会長)

薬事情報センターの吉田典子氏参加した。

(20) 沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式　3月2日(水) 琉球新報社　＜資料配布＞

(亀谷会長)

四団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会）による募金贈呈を行った。

(21) 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業説明会　3月2日(水) 県薬

(笠原理事)

当日は15名の参加があった。この事業については3月中に県へ報告書を提出予定である。

(22) 平成28年度調剤報酬改定等説明会　3月5日(土) 航空会館　＜資料配布＞

(23) 平成27年度自殺予防対策事業ゲートキーパー養成研修会　3月6日(日) 県薬　＜資料配布＞

(村田常務理事)

内閣府が啓発する自殺予防対策月間である3月に2名の講師を招いて研修会を開催した。沖縄県保健医療部健康長寿課精神保健班の本村しのぶ氏より、沖縄県の自殺の現状等について報告、説明があった。また、那覇市医師会常任理事玉井修氏（曙クリニック院長）には、ご自身の親を在宅で看取った経験や、東日本大震災の救助活動に携わった経験からゲートキーパーとして

の心のあり様も教えて頂き、とても充実した研修会であった。

(24) 新制度における幼保連携型認定こども園等の学校（園）薬剤師の研修会

3月6日(日) 県薬　＜資料配布＞

(前濱副会長)

新制度において、今後幼保連携型認定こども園には、学校薬剤師を配置しなければならない。私立等これまで学薬配置の必要がなかった学校への対応が必要なことから研修会を開催した。また県薬会報にも幼保連携について記事を載せたのでご覧頂きたい。

(25)「小児救急電話相談事業＃8000」に関する協議会　3月7日(月) 沖縄県医師会館　＜資料配布＞

(亀谷会長)

参加者は、県立等広域病院医師や県の保健医療部から構成され、今年度の状況報告や意見交換等を行った。医師からは、この事業のおかげで医療現場への問い合わせ等が減って助かっているとの発言もあった。

(26) 医療介護総合確保促進法に基づく都道府県計画の変更に対する地域の関係者意見聴取

3月8日(火) 県庁　＜資料配布＞

(前濱副会長)

今回、江夏副会長の代理で出席した。医療介護提供体制改革推進交付金（医療分）の事業のうち、薬剤師会が行っているのは「休日・夜間薬局運営支援事業」「薬剤師確保対策支援事業」の2件である。その中で薬剤師確保対策支援事業は、平成26年度執行残により減額となっているが、実際には、年度末の1月になってからの執行許可で、執行期間が3か月しかなかったためである。申し入れをして、次年度からは4月から執行できるようにするとの回答をもらった。

(27) 平成27年度第2回健康づくり（福寿うちな～）推進協議会

3月8日(火) 全国健康保険協会沖縄支部　＜資料配布＞

(我喜屋常務理事)

今回の報告では、重症化予防事業としてレセプト追跡期間を3か月から1年間に延ばしたところ、受診率がアップしたとのことである。また那覇市からは「CKD病診連携システム」を構築中であることが報告された。

(28) 平成27年度南部徳洲会病院第1回地域連携懇親会

3月8日(火) ロワジールホテル那覇　＜資料配布＞

(亀谷会長)

懇親会の中では、トモセラピーを用いてのがん放射線治療や、県内初の国際的医療施設評価機構JCI取得について報告があった。

(29) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　幹事会

3月9日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　＜資料配布＞

(亀谷会長)

レセプトの審査について、ITを用いて合理的にしようとの動きがある。また、国は診療報酬審査のあり方を支払基金内部ではなく、外部で決めていく方向で考えているようであると報告があった。

(30) 日本医師会　医療事故調査制度研修会　3月10日(木) 日本医師会館　＜資料配布＞

(亀谷会長)

医療事故調査の場において、看護師の力が大きいと述べられていた。しかし残念なことに薬剤師の名は出なかった。薬剤師は積極的に患者に関わり、物から人へとシフトしていかなければいけないと感じた。

(31) 医療保険委員会　3月10日(木) 県薬　＜資料配布＞

(川満常務理事)

3月21日にてだこホールで開催予定の「調剤報酬改定等説明会」の打ち合わせを行った。また、次年度沖縄県が共同指導に当たる為、7月3日に「共同指導指摘事項・調剤報酬請求業務講習会」を開催予定である。

(32) 第5回沖縄県在宅医療連携体制推進委員会　3月10日(木) 沖縄県医師会館　＜資料配布＞

(笠原理事)

当委員会では多職種連携研修会を行っており、その報告があった。今年度の研修会では薬剤師が62名参加している。また委員会は今年度にて解散の為、今後は各地区医師会を中心に活動してほしいとのことであった。

(33) 会計監査　3月11日(金) 県薬

(34) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について　＜資料配布＞

(我喜屋常務理事)

4月から常勤の薬剤師が減る為、今月中に話し合いを持つ予定である。

(亀谷会長)

現場ではかなり疲弊した様子が見られ、薬局の職員も4月以降を不安に感じている。薬剤師確保の為に県薬としてもいろいろ動いてはいるが、ぜひ理事の方々にもご協力をお願いしたい。

(35) その他

(新垣理事)

豊見城中央病院内のFAXコーナーの場所が、連絡もなく裏口の方に移動されている。しばらく様子をみるが、処方せん枚数が減るようであれば話し合いを持つ予定である。

(幸地理事)

調剤報酬改定等説明会はぜひ離島でも開催してほしい。

(川満常務理事)

離島での開催については、地区で日程等を決めて頂き、講師を派遣していきたい。

(我喜屋常務理事)

実務実習について。来期実習の受け入れは35名の予定であり、来月の理事会にて名簿を資料として添付する。

報告（薬連）

(1) 沖縄県歯科医師連盟訪問　2月23日(火) 沖縄県歯科医師会館

(2) 病院・薬局、関係団体訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）

2月24日(水) 浦添総合病院、沖縄赤十字病院、りんご調剤薬局、アシスト薬局
29日(月) 豊見城中央病院
3月4日(金) 東和薬品沖縄販売、8日(火) レ・ネット
10日(木) 沖縄県医薬品配置協議会、11日(金) ふく薬局

(3) 平仲信明氏訪問　2月24日(水) 平仲ボクシングジム

(4) 全国会長・幹事長・女性役員連絡協議会　3月5日(土) クロスウェーブ船橋

(亀谷会長)

協議会の中では、一人一人が地道に活動する「どぶ板選挙」活動が一番大切であると述べられていた。また、各県スローガンを求められたので、沖縄県は「できることは何でもやる。後で後悔しないために」とした。理事の皆さんもぜひご協力をお願いしたい。

(5) その他　＜資料配布＞

平成28年度 第1回定例理事会 議事概要

日時：平成28年4月9日（土）19:00 ～ 21:00
場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

＜出席者＞
会　　長：亀谷浩昌
副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子
理　　事：山里　勇、村田美智子、我喜屋美香、宮城敦子、荒井千春、姫野耕一、
佐藤雅美、新垣秀幸、笠原大吾、吉田洋史、吉冨弓江、川満直紀、石川恵市、
成川賢一、古謝真己（宮古地区代理）
監　　事：友利弘一
前 会 長：神村武之（日本薬剤師会臨時総会報告のため出席）
欠　　席：幸地良信
事 務 局：山城英人、大城喜仁、稲福文隆

理事会の前に平成28年4月1日付で、会営薬局とよみの薬局長に就任された糸嶺達氏の挨拶があり、その後議事に入った。

議題

(1)「薬と健康の週間」県民公開講演会講師選出について　＜資料配布＞

（山城次長）

くすりと健康フェアでの特別講師を県、那覇市、県薬剤師会の各団体3 ～ 4名程度の候補者を選定。3者で持ち寄り、順位づけを行い候補者の中から決定すると説明した。当会から推薦の候補者は協議の結果、下記4名が決まった。

1. 高柳和江（外科医）　2. 中井宏次（落語家）　3. 松本ハウス（芸人）　4. 長嶺　勝（医師）

(2) 5月幹事会の日程調整について（第1火曜日が連休中の為）

5月第1火曜日(5/3)　→　第2火曜日5/10へ

（山城次長）

5月の幹事会を10日（火）へ変更したいと提案し、了承された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について　＜資料配布＞

(2) 第86回日本薬剤師会臨時総会　3月13日(日) ホテルイースト21東京　＜資料配布＞

（神村日薬代議員）

議事の前に、物故者である日本薬剤師会専務理事の渡邊徹氏、北海道薬剤師会会長の東洋彰宏氏へ哀悼の意を表して黙祷が行われた。引き続き、報告事項として、1. 医薬分業に関するテレビ番組で、誤解を受けるような報道がされており、日薬としては、報道機関へ異議の申し立てをしているが伝わっていない状況。今後は定期的にマスコミと意見交換を行っていくとの報告があった。2. 薬剤師国家試験の合格率が年度毎に変動が生じている。厚生省医療審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験改革制度検討会で調査した結果、学力のレベルと試験問題の難易

度が合致していないとの結論に達した。平成28年国家試験の出題検討を重ねた結果、合格率が良くなったとの報告があった。議題について、1．医薬分業バッシングに対する日薬の考えを問う各県からの質問が多かった。一部の薬局チエーン店が膨大な収益をあげて、経営者の高額な所得報道で、一般の薬局も高収入を上げているかのように思われている。薬局も法人化するべきであるとの意見があった。それに対して、薬局法人化は日薬も同意だが、薬局形態としては一般販売、調剤と両方の収益があり、法人が二分化されることは専門家も指摘している。今後の課題であるとの報告があった。2．会員確保の件について、平成27年度から日薬会員数が減少している。特に若年薬剤師の入会者が減っている。ここ8年間で全国の薬剤師数35,000人増に対し日薬入会数は726人に留まっている。若年薬剤師入会率も15.3％、日薬組織率34.9％である。日薬は各都道府県との三層構造で構成されているため、会員獲得には日薬の取り組みだけでは難しい。各都道府県も獲得に努めていただきたいと報告があった。3．日薬会館建設について、旧樺太会館（90坪）を買い取り、その隣接の土地を借り合わせて会館建設を予定していたが、土地を借りて会館を建てた場合、30年、40年後の交渉で土地の値上がりが予想されることから､反対多数で否決された。隣接の土地（100坪）購入が妥当であるが､東京オリンピックに向けての地価上昇、人件費、資材等の高騰が続くと予想されることから、当分の間は購入した土地を駐車場として活用することが報告された。4．日薬会費額については前年と同じであると報告された。5．日薬会長候補者及び副会長候補者選挙について、会長選挙に現職の山本信夫氏が再選された。副会長選挙には、森昌平氏（栃木県）、乾　英夫氏（大阪府）、石井甲一氏（東京都）、鈴木洋史氏（東京都）、田尻　泰典氏（福岡県）が当選したと報告された。
（吉田理事・日薬代議員）

日薬が作成した「薬剤師のひみつ」（マンガ本）が県薬に届いている。小学生向けの職業紹介本で薬剤師の業務を詳しく紹介している。期間限定でインターネット閲覧ができると報告された。最後に神村日薬代議員より、8期（16年）を努め、任期満了を告げて報告を終えた。

(3) 平成27年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会

3月14日(月) 沖縄県総合福祉センター　＜資料配布＞

沖縄県老人クラブ連合会は、各市町村において健康と生きがいづくり活動を推進するため、その担い手となる「リーダー養成講習会」が開催された。吉田久子氏が参加。

(4) 健康食品・サプリメント関連研修会の企画・運営に関する会議　3月14日(月) 県薬
（亀谷会長）

かかりつけ薬剤師として、一般用医薬品はもちろん、健康食品やサプリメントについての取り組みも求められる。会員はぜひ研修会を受けていただきたい。

第1回の開催は4月21日（木)。テーマを変えて計5回開催すると報告された。

(5) 平成27年度沖縄県献血推進協議会　3月15日(火) 県庁　＜資料配布＞
（前濱副会長）

癌や白血病の増加で血液製剤の需要と供給のバランスが崩れると予想されるため、献血者を確保するための協議がされた。特に10 ～ 20代の献血者が減少傾向にある。インパクトを与えるために「20歳の献血」ポスターにフィギュアスケートの羽生結弦選手を採用している。また、沖縄県専修学校各種学校協会より、各学校でのイベント時は献血車を呼んでいただき、献血のご協力を呼びかけるとの報告があった。

(6) 沖縄県医療審議会法人部会　3月16日(水) 県庁　＜資料配布＞

(亀谷会長)

委員は医師、歯科医師、薬剤師の医療を受ける立場にある者とされている。再生医療とがんの放射線治療、軽度三角頭蓋の頭蓋形成手術の3分野が認められて、豊見城中央病院が医療特区に認定され、18床が割り当てられるとの報告があった。その後、沖縄県医療審議会医療法人部会が開催され、委員は4師会長と弁護士で構成されている。今回は10件の医療法人の設立認可申請が提出されて、全て認可適当と判断された。沖縄県における医療法人設立認可の状況は、病院開設60件、診療所開設：医科376件、歯科86件で合計522件と報告された。

(7) 第6回沖縄県地域医療構想検討会議　3月17日(木) 県庁　＜資料配布＞

(亀谷会長)

委員は医師、歯科医師、看護師、薬剤師、自治体首長、他で構成されている。病床数増設を主観においた会議となった。県薬としては地域保健においての薬局の役割を説明して、医療費抑制のお役に立てることを伝えたと報告された。

(8) 地域保健開局委員会　3月17日(木) 県薬

(笠原大吾)

報告事項として、平成27年度「薬局薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」が平成26年度から開始となり、今年で2年目となる。27年度は「ヘモグロビンA1c」を測定して、健康習慣病などに関する健康サポートを行った。検体測定器（コバス4台）を活用して、次年度も継続していく。報告書（冊子）を会員薬局へ配布する。続いて資料に基づきBLS講習会、地域医療・地域保健担当者全国会議、第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会等の報告がされた。

議題として、「薬と健康の週間」くすりと健康フェアでの特別講師の選定を検討。4月の理事会までに報告いただくこととした。お薬相談会等で使用する機器の貸出しについて、各地区へは例年通り無償とするが、個人薬局等へは、メンテナンス費用も考慮した上で有償とすることが決まった。金額等の詳細については早々に検討することとなった。

(9) 中部徳洲会病院　竣工祝賀会・内覧会　3月19日(土) 中部徳洲会病院　＜資料配布＞

(江夏副会長)

旧病院の1.8倍の規模で12階建の屋上にはヘリポートを完備。救急車も最大7台が停車可能であり、救急体制の受入が充実していたと報告された。

(10) 第2回　薬剤師のための在宅医療教育セミナー　3月20日(日) 県薬　＜資料配布＞

(荒井理事)

沖縄県の在宅医療支援薬局の現状と問題点並びに当薬局で行っている在宅医療について説明した。そのあと、私立甲府病院緩和ケア内科部長の小林薫先生に緩和ケアについて、引き続き山梨大学医学部麻酔科の飯島哲也先生に電動式PCAポンプについての講演をしていただいた。参加者は83名であったと報告された。

(11) 平成28年度調剤報酬改定等説明会　＜資料配布＞

3月21日(月) てだこホール　3月30日(水) 八重山　3月31日(木) 宮古

(川満常務理事)

本島での開催は1部が950名、２部750名、八重山46名、宮古島25名の参加があったと報告された。

(12) 那覇市福祉部より来訪　3月22日(火) 県薬　＜資料配布＞

(山城次長)

無料定額診療事業について、生計困難者が、経済的な理由によって必要な医療を受ける機会

を制限されることのないよう、無料又は低額な料金で診療を行う事業であり、市内6病院、2診療所で実施されている。県内薬局についても那覇市が処方費を助成する。ご協力を頂きたい旨の説明があったと報告された。詳細については那覇市と検討をしていく事となった。

(13) なごみ会主催県民健康フェア実行委員会　3月23日(水) 沖縄県医師会　＜資料配布＞

(笠原理事)

8月21日(日)沖縄コンベンションセンターで開催する。薬剤師会のブースプログラムとして、患者のための薬局ビジョンに関すること（かかりつけ薬局・薬剤師）を今回は新たに企画していると報告された。

(14) 平成27年度第2回沖縄県薬物乱用防止協会理事会　3月24日(木) 県庁　＜資料配布＞

(前濱副会長)

各保健所単位で活動していたが、那覇市は県立中央保健所が廃止となったことで、県立南部保健所が那覇管轄も引受けて活動していた。平成28年度に那覇市保健所が誕生したことで、那覇市保健所が引き継ぐこととなり、那覇支部役員（案)、事業計画案が提出された。薬物乱用防止活動（街頭キャンペーン等）はかかりつけ薬剤師の要件となるので、ご協力をお願いしたいと報告された。

(15) 沖縄県薬剤師会 第73回臨時総会　3月27日(日) 県薬

(亀谷会長)

平成28年事業計画と歳入歳出予算を報告し、議案事項に平成28年度の会費額に関する件、沖縄県薬剤師会役員報酬等規程の変更について承認された。

(16) 九州厚生局沖縄事務所との連絡協議会　3月28日(月) 県薬　＜資料配布＞

(吉田理事)

平成27年度の個別指導等実施結果について

・新規指定保険薬局集団指導32件中31件出席。
・新規登録保険薬剤師集団指導60名中48名出席。
・保険薬局指定更新時集団指導32件中30件出席。
・調剤報酬改定説明会（集団指導）535件中465件出席。

上記に宮古、八重山は含まれていない。

・新規個別指導36件中35件実施（1件は実施前に廃止）
・個別指導20件全て実施。
・集団的個別指導41件中36件実施（4件は実施前に廃止、1件欠席）

個別指導等における主な指摘事項も報告された。

(17) 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学

3月28日(月) ～ 4月4日(月) 県内病院・薬局　＜資料配布＞

(大城課長)

薬学生3名が春休み期間中に帰省し、希望する病院、薬局を見学した。

(18) 会計監査　3月29日(火)・4月1日(金) 県薬

(山城次長)

毎月の定例監査と報告された。

(19) 沖縄県保健医療部保健医療政策課より来訪　3月30日(水) 県薬

(山城次長)

保健医療部長の仲本氏退任、統括官の国吉氏が転任のため、挨拶に訪れたと報告された。

(20) 九州厚生局沖縄事務所より来訪　4月1日(金) 県薬

(亀谷会長)

人事異動の報告のため、挨拶に訪れたと報告された。

(21) 平成28年度 第1回薬学生実務実習受入委員会　4月1日(金) 県薬　＜資料配布＞

(我喜屋常務理事)

指導薬剤師の更新状況（3月31日時点）更新24名、審査中17名、未更新1名となっている。実務実習開始前の指導薬剤師研修会を4月6日に開催。1期～３期の実習薬局をまとめて今年度の実習説明を行う。１期のオリエンテーションは5月9日に予定している。認定実務実習指導薬剤師養成のための講座は更新講座を含めると4回の予定となる。今年度ワークショップへの参加者は6名枠を確保できた。平成28年度は新ガイドラインの周知徹底のため、日薬の永田先生を講師として研修会を予定していると報告された。

(22) 講師派遣（那覇市ウォーキング協会）　4月3日(日) 新都心公園内緑化センター

(亀谷会長)

同協会の顧問である那覇市議会議員より、薬に対する知識を深めたいとのことで、講演の依頼があった。健康づくりウォーキング後に「薬の安全な使い方」と題して45分程度講演を行った。地域等での講演依頼には積極的に協力していただきたいと報告された。

(23) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　支部長来訪　4月4日(月) 県薬

(亀谷会長)　支部長後任挨拶で訪れたと報告された。

(24) 国保連合会より来訪　4月6日(水) 県薬

(亀谷会長)　着任挨拶で訪れたと報告された。

(25) 平成28年度実務実習受入施設指導薬剤師研修会　4月6日(水) 県薬　＜資料配布＞

(我喜屋常務理事)

平成28年度の実習生1期15名、2期17名、3期1名。受入薬局30薬局、新規指導薬剤師7名。地区別担当者の紹介を行った。トラブルのない実習を心がけるようお願いしたいと報告された。

(26) 沖縄タイムス記者来訪　4月7日(木) 県薬

(亀谷会長)

在宅医療の現状について、荒井理事、仲真薬局長と共に取材を受けた。荒井理事が行っている小児在宅医療に同行したいとの事であった。

(荒井理事)

「4月13日（水）高齢者」、「14日（木）小児」の日程で２症例に同行していただく事になったと報告された。

(27) 沖縄県保健医療部 保健医療政策課より来訪　4月7日(木) 県薬

(亀谷会長)

保健医療部長に砂川氏、統括官に糸数氏が着任の挨拶で訪れたと報告された。

(28) 平成28年度第1回広報委員会　4月7日(木) 県薬　＜資料配布＞

(宮城常務理事)

1. 平成28年度の事業計画を再確認。2. 熟年の集いは8月7日（日）沖縄都ホテルで開催する。出演者については、県内芸人５名程に絞り、事務局より交渉をしている。3. 会報誌に「薬剤師会創立90周年に寄せて」の執筆を依頼する。4. 長年に渡り掲載している橋の下先生の「一包一話集」の制作を進めていると報告された。

(29) 会営薬局とよみ　打ち合わせ　4月8日(金) 県薬

(我喜屋常務理事)

糸嶺氏に薬局長就任のお願いをしていたところ了承していただいた。4月末日で薬剤師1名が退職となるため求人募集をする。常勤薬剤師の休暇が取れてない状況のため、さらに輪番薬剤師にご協力のお願いをすると報告された。

(30) 平成28年度患者のための薬局ビジョン事業等についての打合せ会議　4月8日(金) 県薬

(笠原理事)

地域保健開局委員会､在宅医療委員会､医薬分業対策委員会とで会議を進めた。事業メニューは1.「地域全体のかかりつけ薬剤師・薬局機能強化のための連携推進事業」2.「他職種連携による薬局の在宅医療サービスの推進事業」3.「電子版お薬手帳を活用した先進的な地域の健康サポート推進事業」4.「薬局・薬剤師によるアウトリーチ型健康づくり推進事業」であり、事業メニューごとにそれぞれ7都道府県の実施を目安とし、採択される。当会としては、国の審査は厳しいと思うが、4.の「薬局・薬剤師によるアウトリーチ型健康づくり推進事業」への応募を進めていく。具体的には、離島やへき地においては、地域住民が薬剤師による健康増進に関する情報提供を受ける機会が少ないことで､「健康とおくすり相談会」を出向いて行うと報告された。

(31) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について　＜資料配布＞

(亀谷会長)

会営薬局とよみは、薬剤師不足であり、各理事には可能な時間に輪番応援をお願いしたいと報告された。

(32) その他　＜資料配布＞

(笠原理事)

健康サポート薬局に係る研修について､「技能習得型研修8時間」「知識習得型研修22時間」計30時間の研修が要件となっている。知識習得型はｅラーニングでの実施。詳細については、5月22日に都道府県薬剤師会への説明会後に報告することになった。

(亀谷会長)

日本薬剤師会特別会員（学生会員）制度の見直しについて、日薬は組織率が低下していることで、平成28年度以降は学生会員を無料にすることが決まった。当会でも学生の入会促進にご協力いただきたいとの報告があった。

(山城次長)

平成25,26年度日薬未収会費に係る貸倒引当金の設定について、当県の平成25年度未納者40名、平成26年度69名である。未納合計金額1,140,500円（日薬会費のみ）となっており、未納者へは再度催促して支払わない方へは退会を勧告し、それでも回答がなければ総会で除名するとの報告で了承された。

報告（薬連）

(1) 病院・薬局・関係団体訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　4月5日(火) 琉球光和

3月25日(金) ハートライフ病院　3月30日(水) トーショー　4月4日(月) 古波蔵薬品

(亀谷会長)

4団体へ藤井もとゆき後援会への入会のお願いに出向いた。沖縄県は、全国入会率17位と健闘しており、引き続きご協力をお願いしたいと報告された。

(2) 平成27年度定時評議員会　　3月30日(水) スクワール麹町　＜資料配布＞

(亀谷会長)

重要事項について､1. 今後の薬剤師のあり方に関連した調剤報酬の改定が審議中である｡2. 神奈川県薬剤師連盟の復帰について、責任負担金の決め方について対立意見が原因で12年間も薬剤師連盟から外れていた。28年度より復帰をするが、全て決着したのではなく、両者で交渉していくとの報告であった。1. 都道府県薬剤師連盟評議員数算定規則の改定があった。沖縄県の評議員数は変更なしで1名のままである。2. 平成28年度事業計画について、平成29年度予算案に対する要望、調剤報酬改定の議論もあるが、最大の取り組みは7月に実施される参議院議員選挙における勝利である。3. 会長・監事選挙について、会長候補に山本氏、監事候補に高祖氏、大森氏、根本氏が立候補し、定数内であったため当選となった。4. 藤井もとゆき参議院議員に対する後援会活動について、今回の参院選で自民党は23人の公認、内13 ～ 14人の当選が見込まれる。20万票獲得すれば上位3位以内で当選し、入閣も見込まれる。投票に関しては氏名を書いてほしい。党名を書くと按分されるとの報告がされた。

お知らせ

Facebook スタートしました！

下記アドレスより、お待ちしております。
ホームページからも閲覧できます。
https://www.facebook.com/okinawaopa

平成28年度 第2回定例理事会 議事概要

日時：平成28年5月14日（土）19:00 ～ 21:30
場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

＜出席者＞
会　長：亀谷浩昌
副会長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子
理　事：山里　勇、村田美智子、我喜屋美香、川満直紀、浅沼健一（北部地区代理）
佐藤雅美、新垣秀幸、下地仁、幸地良信、吉田洋史、笠原大吾、姫野耕一
荒井千春、石川恵市
監　事：大城桂子
欠　席：宮城敦子、吉冨弓江
事務局：山城英人、大城喜仁、前原里江

議題

(1) 第74回通常総会に提出する関係資料について

資料に沿って、議事進行方法、次第について確認し承認された。
続いて前回理事会より、意見を求めていた報告第1号平成27年度会務並びに事業経過報告について確認し、承認された。平成27年度決算報告について資料に沿って要点が説明され、承認された。
（山城次長）
本日の総会資料について承認後、各代議員、各地区薬へ5月17日（水）に発送予定である。例年は製本後に資料を発送しているが、少しでも早く資料を提供するために製本前の資料を送付し、総会当日にあらためて製本された資料をお渡しする予定である。今回も各地区代表質問を行うにあたり、代議員及び各地区宛に質問の提出依頼を送付する。提出締め切りは5月31日となっている。

(2) 特別会員の変更に伴う定款、会員規程、会費規程の変更について

（山城次長）
薬剤師業務に携わっていない高齢者の会員に対して会費負担を軽減するため、現在の年齢が満80才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者（県薬会員のみの資格有す）を特別会員Ａで保持しつつ、これに75才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者（日薬・県薬会員の資格を有す）を特別会員Ｂで追加する。また薬科学生会員を日薬と統一化するため、特別会員Ｃを追加する。

収入比較が説明され、異議なく承認された。

(3) 賛助会員の変更に伴う会員規程の変更について

（山里常務理事）
前項で薬科学生会員について特別会員Ｃで明記することから、会員規程第9条の賛助会員の種別から薬科学生を削除する。

異議なく承認された。

(4) 協力薬剤師の時給に関する内規について

(亀谷会長)

会営薬局とよみの薬剤師不足の現状はご存じの通り、既存の職員、協力薬剤師で運営しているが改善されず厳しい状況が続いている。そのような中で特別な事情のある時、例えば正月などの年末年始や連休などについて、会長判断により緊急避難的に協力薬剤師を求める目的で時給を3,000円とすることを提案したい。

(我喜屋常務理事)

緊急時、時間帯を限定している状態で時給を上げられるように承認いただきたい。これはあくまでも、会長が必要と判断したときを限定としている。

(吉田理事)

3,000円となっているが、3,000円までの範囲または段階的に金額が設定できるような文言にしてはどうか。緊急避難的とするのであれば5,000円を上限とし、その範囲内で会長が金額を決定してもいいのではないか。

(浅沼氏：北部地区代表理事代理)

会長が必要とした場合とあるが、金額設定の基準はどう考えているのか。

(亀谷会長)

正月等は時給5,000円の所もあるので、状況等を踏まえ、時と場合によっては検討したい。5,000円を目途に時給を決定することができる旨の文言でいいのではないか。明確な基準を定めるのは難しいため、その都度薬局長と相談した上で判断することになると思う。

(佐藤理事)

例として、年末年始、ゴールデンウィーク、シルバーウィークについては上限額5,000円を設けてはどうか。期間を限定することにより判断もしやすくなるのではないか。

(亀谷会長)

前もって想定される時期に限定して募集をかけるといったことで実行したい。

(新垣理事)

緊急時の薬剤師となると時給5,000円でも安いのではないか。

(前濱副会長)

協力薬剤師の時給に関する内規ということで、時給を3,000円～5,000円と幅を持たしつつ運用してみるということでよろしいでしょうか。

以上、討議の結果承認された。

(5) 薬剤師紹介手数料に関することについて

(亀谷会長)

前項目に続き、薬剤師が見つからず厳しい現状が続いているということで、手段の一つとして、職員が薬剤師を紹介し採用に至った場合は、会に貢献した功績ということで、紹介手数料として賞与に反映させることを提案したい。対象者は薬剤師会の職員に限定する。

(江夏副会長)

紹介手数料額も含めもう少し検討の余地があるのではないか。

(前濱副会長)

実際に、採用された薬剤師が定着した事例が挙がった場合に再度検討するということでよろしいか。

事例が上がった際に再度検討することとなった。

(6) 平成28年度くすりと健康フェア講師について

（大城課長）

今年のくすりと健康の週間に係る、県民公開講演会の講師候補者のリストである。資料を参照の上、各理事は順位をつけていただき提出していただきたい。その結果をもとに、県に提出する予定である。

(7) 女性薬剤師部会の平成28年度活動助成金増額について

（村田常務理事）

毎年県薬より、女性薬剤師部会の活動助成金として450,000円が支給されているが、好評の漢方講座がメーカーからの協賛を得られなくなったこと等で平成27年度はマイナス決算となった。部会としても工夫・努力していく所存であるが、平成28年度は50,000円の増額を要望したい。

協議の結果、承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

(2) 赤嶺氏訪問（会営とよみ地主）　4月12日（火）赤嶺氏宅

（亀谷会長）

会営薬局とよみの賃貸契約が5年更新の時期であるが、豊見城中央病院の移転の話もあるため、5年更新の契約の期間変更のお願いに伺い、快く理解頂き了承いただいた。単年度契約の上、退去時にその日までの日割り計算で賃料を設定することとなった。

(3) 後期高齢者広域連合会来訪　4月12日（火）県薬

（亀谷会長）

高齢者の健康を向上させることを主旨に様々な事業を行っている団体とのことで、お薬相談等の講師派遣協力依頼があった。

(4) 健康食品・サプリメントに関する研修会の企画・運営に関する会議　4月12日（火）

（亀谷会長）

5回の開催を予定している。これまで2回開催した。よりよい研修内容にするために事前の話し合いを行い講演内容を検討している。

(5) 沖縄県Iターン Uターン希望薬学生の病院・薬局見学

4月13日（水）会営薬局とよみ、豊見城中央病院　4月21日（木）あにも調剤薬局

（大城課長）

4名の学生の施設見学を行った。その中の一人、城西大学卒の方が6月1日より会営薬局うえはらにて採用が決定した。

(6) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　幹事会

4月13日（水）社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

（亀谷会長）

毎月定例の会合に参加した。

(7)「認定薬剤師取得へ向けた継続セミナー」に関する打合せ会　4月13日（水）福岡県薬

（外間副会長）

JPALSや日本薬剤師研修センター等の生涯研修認定制度等のジェネラリスト研修に加え、一歩進んだスペシャリスト養成のための認定・専門薬剤師制度が設けられている。この多くは病院薬剤師が中心で制度上も病院薬剤師を対象としているが、一部学会では保険薬剤師にも門戸

が開かれている。しかし、年会や学会認定セミナー参加、症例提出、認定試験などもあり、地方の保険薬剤師にとっては、物理的なハードルは決して低いとはいえない状況である。今回、福岡県薬剤師会において「学会認定セミナーを福岡県内で複数回開くことで、九州山口各県薬の会員の学会認定取得を支援し、会員のレベルアップを図りたい」との目的で、2年計画でセミナーを開催する計画がある。そこで、沖縄県内の参加希望者数を把握し、県薬としてこの計画への参加の可否を考慮するためにアンケート調査を実施したい。

(8) 沖縄タイムス取材「薬剤師と在宅医療」　4月13･14日(水･木) 患者宅

(亀谷会長)

沖縄タイムスより県内の在宅医療の現状について取材依頼があり、会営薬局うえはらの仲真薬局長、荒井理事に同席頂き取材に応じた。その後、荒井理事と平良恭子氏の実際の在宅業務の現場取材があった。後日新聞に掲載された。

(9) 会計監査　4月14･18日(木･月) 県薬

(10) 平成28年度第1回在宅医療委員会　4月14日(木) 県薬

(荒井理事)

平成27年度の事業報告と平成28年度の事業計画について確認した。平成28年度の事業計画について、概ね前年度と同じような形で進めていきたい。現在決定しているのが、小児在宅医療の講演会を7月24日に開催予定している。

(11) 平成28年度第1回学術研修委員会　4月15日(金) 県薬

(外間副会長)

平成27年度事業報告、平成28年度の事業計画について確認した。昨年度4回開催された症例検討入門研修会は、講師の大澤友二先生と日程調整の結果、今年度は糖尿病をテーマとして7月2日(土) と10月22日(土) に開催する。また今年度は昨年度の実情を踏まえ、内容を変えてまず対象者をそれぞれ7月が保険調剤、10月を在宅対象の薬剤師とし、基礎編・実践編を1日のうちに実施する事とした。さらに前回の委員会で検討された超基礎編を5月下旬～6月初旬に開催し、症例検討会として合計3回シリーズとすること、その講師には当委員会の阪本崇彰委員が担当し、大澤先生より提供されている基礎編資料に沿って作成することが決定した。

(12) 薬局実務実習担当者全国会議　4月17日(日) 日薬

(佐藤理事)

現在の薬学2年生から新コアカリキュラムでスタートしているが、実習受入が平成30年2月となっているが、それに先駆けて今年度2期の実習生から新コア対応でトライアルで行いたい。トライアルする薬局を2薬局程選定して対応していきたい。

(13) 平成28年度女性薬剤師部会総会　講演会　4月17日(日) 県薬

(村田常務理事)

事業報告、会計報告、事業計画、予算案について承認された。女性薬剤師部会の事業計画の中には、女性が結婚・出産・育児の間も継続的な研修を受ける上でのサポートとして、通信教育やスクーリングの実施を積極的に行っていく。

(14) 会長、副会長及び災害対策委員会緊急会議　4月18日(月) 県薬

(吉田理事)

4月14日及び16日に発生した熊本地震をうけて、災害対策委員会緊急会議が開催された。18日までの現況報告として、日薬から支援薬剤師派遣待機指示を受けていること。16日(土) 9時に県医師会からJMAT派遣に伴う医薬品調達の依頼があり、医薬品卸業者の協力でその日のうち

に取りそろえ、18日に引き渡したこと。県医師会よりJMATに薬剤師の帯同をお願いするかもしれない旨の相談があったこと。15日(金）には会員宛てに支援薬剤師の募集をしていること等を報告した。その後、坂本俊一先生、我喜屋美香先生、喜久山有沙先生が現地に赴いた。現在、玉城和子先生、喜納みゆき先生が現地に入っている。義援金の募集もしており、現在130万円集まっている。赤十字を通して寄付する予定である。

(15) 豊見城中央病院　病院長訪問　4月19日(火）豊見城中央病院

(亀谷会長)

豊見城中央病院新院長に新垣先生が就任したので、会営薬局とよみ薬局長の糸嶺先生の紹介も兼ねて、挨拶に伺った。

(16) 平成28年度第1回医療安全対策委員会　4月19日(火）県薬

(17) なごみ会県民健康フェア第2回実行委員会　4月20日(水）沖縄県医師会

(笠原理事)

今年は、8月21日(日）になごみ会県民健康フェアを開催予定である。会場レイアウトやステージイベント等について協議した。

(18) 会営薬局とよみ打合せ　4月20日(水）会営薬局とよみ

(我喜屋常務理事)

4月から糸嶺薬局長が就任しまとめてもらっている。しかし薬剤師不足は依然として続いており、日・祝祭日は、協力薬剤師を中心に勤務してもらっている。会営薬局での休日夜間について管理薬剤師が兼務できることで非常に助かっている。理事の皆様にも積極的に求職薬剤師情報を強く求めたいと思います。

(19) 健康食品・サプリメントに関する研修会　4月21日(木)・5月12日(木）県薬

(亀谷会長)

多くの参加者があり、好評をいただいている。会員若手薬剤師に講師を担っていただき5回のシリーズで開催している。

(20) 平成28年度第1回地区調整機構会議　4月22日(金）ホテルセントラーザ博多

(我喜屋常務理事)

平成27年度第2期のトラブル事例として、(実習態度不良・実習薬局閉局・体調不良等）実際に中止になった事例等の報告があった。そして、平成28年度スケジュールについて、ガイドラインの説明会を各県ごとに開催することとし、沖縄県では講師に名古屋市立大学教授の鈴木氏に依頼予定である。平成28年度事業計画として各県でアドバンストWSを開催する。今年度は実習が多くなるため煩雑にならないよう的を絞って行っていきたい。

(21) 平成28年度第1回財務委員会　4月22日(金）県薬

(山里常務理事)

主に総会事項である高齢者会員の会費負担軽減のための75才以上の特別会員枠について協議した。他には、昇格に伴う役職職員の給与及び来年4月からの新給与表採用までのスケジュールの確認等について協議した。

(22) 平成28年度「薬と健康の週間」第1回調整会議　4月25日(月）県薬

(大城課長)

議題6にあげている講師選出の件について協議した。

(23) 第6回世界のウチナーンチュ大会第3回実行委員会

4月26日(火) 沖縄ハーバービューホテル

(亀谷会長)

10月に第6回世界のウチナーンチュ大会の開催されることで、県内120団体ほどが集まり、開催の周知等の協力依頼があった。

(24) 沖縄県子ども生活福祉部 青少年・子ども家庭課より来訪　4月27日(水) 県薬

(山城次長)

子どもの貧困問題に関して重要課題として取り組むということで、沖縄子どもの未来県民会議を立ち上げるために委員の選出・就任依頼があった。

(25) 薬物乱用防止協会 那覇支部理事会　4月28日(木) 那覇市保健所

(笠原理事)

那覇支部の第1回理事会が行なわれた。会長に吉田久子先生、副会長に笠原、監事に友利弘一先生が就任した。

(26) 沖縄県保健医療部 健康長寿課より来訪　4月28日(木) 県薬

(亀谷会長)

健康長寿を目指している沖縄県が、健康長寿に貢献した団体と個人を表彰したいという考えがあり、近日中に会議を予定しているため出席をお願いしたいとのこと。

(27) 無料低額診療事業について那覇市福祉部福祉政策課との調整会議　4月28日(木) 県薬

(吉田理事)

無料低額診療事業が全国的に行われており、県内では2法人8施設にて実施されている。この事業は、対象となる低所得者等の生計困難者が、登録された医療施設で受診した場合は無料もしくは低額な料金で診療が受けられるというものである。しかしこれまで院外薬局でのお薬交付には対応していなかった。那覇市では、市内の薬局を事業の対象にしたいとのことで、こども医療費自動償還払いの時に県薬が薬局をまとめて沖縄県と集団契約した方法と同様に行いたいとの要望があった。しかし約一月後の6月から実施したいとの急なお願いであったことと、市町村単位での対応は難しいとの見解を示し保留とした。その後、那覇市は手あげ方式で対応薬局を募っているようである。

(28) 平成28年度第1回医療保険委員会　4月28日(木) 県薬

(吉田理事)

報告として平成28年度調剤報酬改定等説明会が3月21日(月) に行われ、2部構成で合計約1700人余りの参加があった。また、7月3日(日) に同じくてだこホールにて「調剤報酬請求業務講習会」及び「共同指導における指摘事項について」が2部構成で行う予定となっている。

(29) 平成28年度学校薬剤師新任研修会　5月1･8日(日) 県薬

(笠原理事)

学校薬剤師に新しく就任した方等を対象とした研修会を実施した。ご案内が遅かったこともあり2回に分けての実施となった。

(30) 沖縄県環境部より来訪　5月9日(月) 県薬

(亀谷会長)

我喜屋常務理事が担っていた沖縄県公害審査委員会委員の任期満了に伴い次期も継続して我喜屋常務理事にお願いしたいと要請があった。

(31) 薬学生実務実習オリエンテーション　5月9日(月) 県薬

(我喜屋常務理事)

15名の実習生が出席した。今回初めて指導薬剤師として受け入れるのはアリス薬局の普久原先生、はんたがわ薬局の真崎先生、すこやか薬局松島店の古堅先生である。実習生の中に八重山地区の希望者がいたが、八重山地区は指導薬剤師不在であるので那覇で受けてもらうことになっている。

(32) 熊本地震の情報報告会　5月9日(月) 県薬

(吉田理事)

熊本地震から帰沖した支援薬剤師から、これから現地に支援薬剤師として派遣予定している方々そして支援薬剤師として派遣登録するか否か迷っている方々への情報伝達のために開催した。吉原東洋薬局の坂本俊一先生（4/20 ～ 4/27)、豊見城中央病院薬剤科の喜久山有沙先生(4/22 ～ 4/28)、県薬理事・おもろまちメディカルセンター薬剤部の我喜屋美香先生（4/22 ～ 4/28)、県薬理事・大浜第一病院薬剤科長（DMAT）の姫野耕一先生（4/19 ～ 4/22）の4名から報告いただいた。

(33) 監事監査　5月10日(火) 県薬

(大城桂子監事)

1年間を通しての会計帳簿並びに関係書類の監査を実施し、計算書類の正確性を詳細に検討した。その結果、収支状況及び財政状況は正確かつ適正であるということが確認できた。

(34) 平成28年度第1回都道府県会長協議会　5月11日(水) 日薬

(亀谷会長)

eラーニング、代議員等選挙結果、熊本震災の件等が報告された。協議として日薬からの平成29年度予算・税制改正等要望事項等について説明があった。

(35) 故渡邉徹先生を偲ぶ会　5月11日(水) 如水会館

(亀谷会長)

日薬の役員で藤井基之氏の秘書をされていた故渡邉徹先生を偲ぶ会に出席した。

(36) 個別指導　5月12･19･26日(木) 那覇第一地方合同庁舎

(37) 平成28年度第1回地域医療支援病院運営委員会　5月12日(木) 豊見城中央病院

(亀谷会長)

豊見城中央病院と地域連携しているクリニック等の代表者や行政の方が出席し、意見を出し合う会議である。豊見城中央病院の業務の紹介と地域連携に係る事項について協議した。

(38) 医療介護総合確保促進法に基づく都道府県計画に対する地域の関係者の意見聴取　5月13日(金) 県庁

(江夏副会長)

薬剤師確保対策事業、休日夜間の薬局体制整備事業の二つの事業を県に提出している。総事業費として薬剤師確保対策事業3,728,000円、休日夜間薬局体制事業の輪番薬剤師の数を20名から40名に増やすことで4,048,200円として予算計上されている。特に沖縄県は薬剤師不足に悩まされていることを強く訴えた。

(39) 平成28年度第1回　沖縄県がん診療連携協議会　5月13日(金) 琉球大学医学部管理棟

(亀谷会長)

沖縄県の地域特性として大腸がんがあげられる。当県においては症状が悪化しての受診、また治療レベルの低さも見受けられる話があった。

(40) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

報告(18)であわせて報告された。

(41) 平成28年度第3回臨時幹事会（19時半～）　6月2日(木) 県薬

(42) 第77回九州山口薬学大会の中止について

（亀谷会長）

熊本県が開催予定であったが、熊本地震の影響で中止と決定された。

(43) 新聞の救急コーナーへの会営薬局医療センター前掲載について

（山城次長）

県からの助言もあり、県からの休日夜間の薬局体制整備事業の一環で、新聞の救急医療機関お知らせコーナーに7月頃から会営医療センター前薬局の広告掲載を検討している。

報告（薬連）

(1) 綿久寝具訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　4月21日(木) 綿久寝具

（亀谷会長）

日本クリーニング協会が藤井もとゆき氏を推薦していただいているとのことで同協会沖縄支部の綿久寝具を訪問した。200名余りの入会者を獲得した。

(2)「アイ･ラブ沖縄！かがやく県民の会」設立総会・事務所開き

4月23日(土)「アイ･ラブ沖縄！かがやく県民の会」事務所

（亀谷会長）

参議院議員選挙立候補予定者の島尻あいこ氏の選挙事務所の事務所開きに出席した。島尻氏は、薬剤師問題議員懇談会のメンバーである。

(3) 衆議院議員コクバ幸之助 叱咤激励の会　4月24日(日) ホテル日航那覇グランドキャッスル

（亀谷会長）

國場氏も島尻氏、西銘氏と同様に薬剤師問題議員懇談会のメンバーである。國場氏も着実に実績を積んでいることが実感された。

(4) 藤井もとゆき激励会並びに活動報告会の開催について（動員依頼）　6月15日(水) 県薬

（山城次長）

7月11日の参議院議員選挙に向けて一致団結するために決起大会を開催する。活動報告会と銘打って開催することが決まった。薬剤師連盟と卸業協会の共催で予定している。渡嘉敷なおみ衆議院議員や松本純衆議院議員に出席を依頼している。

平成28年度 第3回定例理事会 議事概要

日時：平成28年6月11日（土）19:00 ～ 21:30
場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

＜出席者＞
会　　長：亀谷浩昌
副 会 長：江夏京子、外間惟夫
理　　事：山里　勇、宮城敦子、我喜屋美香、川満直紀、成川賢一、佐藤雅美、姫野耕一、
新垣秀幸、吉田洋史、笠原大吾、荒井千春、吉冨弓江、石川恵市、
盛島明隆（宮古地区代表理事代理）
欠　　席：前濱朋子、村田美智子、下地　仁、幸地良信
事 務 局：山城英人、大城喜仁

＜議事進行＞
副 会 長：江夏京子

議題

(1) 第74回通常総会 地区代表質問について　＜資料配布＞

（江夏副会長）
去る6月2日の臨時幹事会において、来る6月19日開催の第74回通常総会における各地区薬剤師会代表質問の回答案文について検討した。検討された案文の確認と意見を頂きたい。（配布されている質問と回答案文を、山城次長が各地区薬から提示された質問を読み上げ、答弁予定理事が各回答案文を読み上げていった。当理事会における答弁案文に対する意見は、主に次の通りであった。）

（成川理事）
北部地区薬からの質問で、保険薬局に対する沖縄県薬剤師会（以下、県薬）の活動状況が分かり難く、平成27年度はどのような活動、特に会費を納めている保険薬局に対する会員支援が行われたのか、具体的な事業を教えていただきたいと提示したが、回答案文には具体的な事業を盛り込んでいない。

（笠原理事）
回答案文の他に、具体的な事業について、手元に準備してあるので読み上げる。
保険薬局部会の仕事は、開局委員会と重なることが多かったため委員会･部会の再編に伴い、平成27年度より新委員会体制になった。即ち、“地域保健開局委員会”という名称で、保健福祉委員会、開局委員会、自殺予防対策委員会、スポーツファーマシスト委員会等が合併した委員会として誕生した。一方で、在宅医療に関係する部分は、“在宅医療委員会”が新委員会として誕生した。“地域保健開局委員会”の活動内容は、総会資料の平成27年度事業報告に掲載されている通りである。ちなみに、平成26年度の保険薬局部会の事業内容は、平成27年度では、下記のように全く同じ内容ではないものの、次の各委員会の活動となって行われたと思われる。
① 禁煙補助薬と経口抗凝固薬FX阻害薬について」⇒地域保健開局委員会
②「在庫管理システムを利用した不動在庫の処理について」⇒医薬分業対策委員会

③「血液測定体感研修会」⇒地域保健開局委員会
④「薬剤師の在宅医療をすすめるにあたっての課題」⇒在宅医療委員会
⑤「医療訴訟について」⇒医療安全対策委員会
⑥「薬剤師の観点から生活習慣病について考える」⇒地域保健開局委員会
⑦「肺炎球菌ワクチン定期接種について」
「エスタブリッシュ医薬品事業が新たに提供出来る価値」⇒地域保健開局委員会
⑧「検査値の院外処方箋印字システムについて」⇒医薬分業対策委員会
⑨「琉大病院における検査値印字処方箋の活用」⇒医薬分業対策委員会
⑩「脳機能からみたレビー小体型認知症」⇒地域保健開局委員会
⑪「中医診断学について」⇒地域保健開局委員会

これらのことから、保険薬局に対する県薬の活動は、同じ内容をいろいろな部会・委員会が重なって行うことはなく、いくつかの委員会が分担して取り組むように役割を明確化した。さらに、昨今の新しい国の方針である“地域における薬局・薬剤師の活用”、“患者のためのかかりつけ薬局”のような新しい内容への対応といった、以前より保険薬局にも求められる内容が増えてきた。そこで、効率よく講習会・研修会を実施する必要も出てきていることを理解して頂きたい。これらの活動行事は全て保険薬局の会員に周知されているため、時間と関心によって選択して参加頂きたいと考えている。また、開催希望の内容があれば県薬に要望を提出して頂きたい。

（新垣理事）

南部地区薬からの質問で、地域への貢献が条件となっている事業について、地区では当然に各種取り組みを行うことになるが、県薬はこの取り組に関してどのような対応、展開を考えているのかを回答文に盛り込んでほしい。

（亀谷会長）

これに対する補足説明を準備している。「地域への貢献」という項目について会員がその要件を満たすための県薬としての支援事業のことを言われていると理解した。学校薬剤師、県薬が主催する住民を対象とした健康とおくすり相談会、もしくは薬の正しい使い方講演会等が要件になっていると思う。地域貢献とあるので、県薬が主催してこの種の事業を行うにしても、開催場所が地区薬の担当地域と重なる。県薬としては、地区薬の活性化を図る上からも開催主体は地区薬とし、地区薬だけでは開催が困難である場合は県薬が協力する仕組みをとっている。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について　＜資料配布＞

(2) 那覇地区薬剤師会総会・特別講演会懇親会　5月15日（日）県薬

（川満常務理事）

那覇地区薬剤師会の会長に就任して初めての総会であった。35名の参加があった。特別講演は、「接遇マナー講座～感じの良い対応をしよう～」と題して、オフィスキャリエール代表でビジネスマナーティーチングマスターの小那覇りな氏にご講演頂いた。以前から要望のあった演目であり、講話も素晴らしかったので、実現できて良かった。

(3) 平成28年度第1回健康長寿おきなわ復活県民会議幹事会　5月16日（月）県庁　＜資料配布＞

（亀谷会長）

報告事項（18）の事前会議のような内容であった。報告事項（18）で同時報告する。

(4) 沖縄県薬業連合会　会計監査　5月17日(火) 県薬

(亀谷会長)

沖縄県医薬品登録販売者協会の久保田輝雄氏と沖縄県医薬品配置協議会の上間宏氏が監査を行った。特に問題は無かった。

(5) 認知症対応力向上研修に係る事務調整　5月17日(火) 県薬　＜資料配布＞

(大城課長)

厚生労働省が示した平成28年度の地域医療介護総合確保基金の対象事業に、認知症ケアに携わる人材育成のための研修事業が加わった。認知症ケアに関する研修は、医師向けに毎年行われていたが、平成28年度から新たに歯科医師、薬剤師が加わることになった。研修会は、各都道府県や指定都市が主体となって行う事業であるが、先に去る2月27日に全国担当者講習会が開催され、同研修を実施することになる各都道府県の行政の担当者及び同研修の講師を担う歯科医師、薬剤師が出席した。本会から地域保健開局委員会の中尾滋久氏が参加した。今回の事務調整は、中尾氏と県の沖縄子ども生活福祉部高齢者福祉介護課職員と私大城で、全国担当者講習会の研修内容の確認や開催日時、会場などの調整を行った。同内容の研修を2回開催することになり、開催日は9月4日(日)と平成29年1月29日(日)で、本会館を会場とした。開催案内は、主催である県から郵送するとのことである。

(6) 熊本地震義援金贈呈式　5月19日(木) 日本赤十字社 沖縄支部　＜資料配布＞

(亀谷会長)

吉田理事と一緒に、会員、関係者各位から募った義援金245万1,155円を日本赤十字社沖縄支部に託してきた。地元紙2紙の取材もあり、翌日には紙面に掲載されていた。

(7) 個別指導　5月19･26日・6月2･9日(木) 那覇第一地方合同庁舎

(吉田理事)

いつものように開催した。

(8) なごみ会主催県民健康フェア第3回事実行委員会　5月19日(木) 沖縄県医師会　＜資料配布＞

(笠原理事)

同フェアにおける予算、各団体役割分担、各団体からの運営要員の派遣人数、防災組織図、広報媒体のチラシの確認、フェア当日に配布するパンフレット、ポスター･チラシの配布部数、論壇原稿執筆者、ステージイベント、スタンプラリー景品及び景品の配布ルールなどの決定、確認が行われた。

(9) 株式会社 薬正堂より来訪　5月19日(木) 県薬

(亀谷会長)

株式会社薬正堂の新社屋が沖縄市登川に完成し、完成披露宴に出席してほしいとのことであった。折角の申し出でなのでお受けすることとした。

(10) 那覇市制功労賞授賞式　5月20日(金) 那覇市民会館

(川満常務理事)

会員の渡嘉敷見氏と太田節子氏の2人が、学校薬剤師として学校保健の向上に貢献したことが認められ、那覇市制施行95周年記念特別表彰の環境・保健功労部門で受賞した。

(11) 沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部会議　5月20日(金) 自治会館　＜資料配布＞

(大城課長)

同会議には本会から亀谷会長が役員となっているが、同日に別の公務が入っていたため、同会議のグッジョブリーダーに登録されている私大城が代理で出席した。「平成27年度グッジョ

ブ運動取組状況の報告」と「平成28年度グッジョブ運動実施計画」が議題となっていた。本会としては、同会議が企画・運営するグッジョブ事業（グッジョブ・サマースクールやしごとミュージアム等）に積極的に参加していることを述べてきた。

(12) 健康サポートのための多職種連携研修（仮称）に係る都道府県薬剤師会説明会

5月22日(日) 東京都　＜資料配布＞

(笠原理事)

報告事項（33）も同時報告する。日本薬剤師会は日本薬剤師研修センターと合同で研修実施機関の一つとして「健康サポートのための多職種連携研修」を実施することになっており、標記説明会は同研修の集合研修による実施が必要な技能習得型研修についての説明会であった。5月22日の同説明会には医薬分業対策委員会の西川裕氏と私で参加、6月8日には地域保健開局委員会から松本圭五氏と盛本直也氏が参加した。同説明会では、健康サポート薬局の理念、各種施策、制度、背景、多職種連携研修の実施方法などを厚生労働省と日本薬剤師会担当役員が説明された。研修は、技能習得型計8時間、知識習得型（e-ラーニングによる）22時間の計30時間となっており、今後、項目毎で研修会を行う予定になっている。講師には外部からの識者を導入する。

(13) 平成28年度女性薬剤師部会 第17回漢方講座　5月22日(日) 県薬　＜資料配布＞

村田常務理事欠席のため次回定例理事会にて報告。

(14) 地域ケア会議（浦添市）　5月23日(月) アルカディアビル　＜資料配布＞

(笠原理事)

浦添市地域包括支援センターより、地域ケア会議への参加要請があり、同地区にて参加できる薬剤師がいなかったため私が参加してきた。今後、各地域で開催されていく同会議に、参加できるその地域の薬剤師を地域保健開局委員会で集約していく。各地域の同会議に必ず薬剤師が参加できるよう各地区薬剤師会もご協力頂きたい。

(15) 地域保健開局委員会　5月24日(火) 県薬　＜資料配布＞

(笠原理事)

協議事項の中で、特に、健康とおくすり相談会等で使用する機器の貸し出しについて議論がなされた。各地区薬剤師会には無償で貸し出しできることとし、個人薬局には有償での貸し出しとすることに決めた。AED練習器、心臓マッサージの人模型も貸し出しを可能とする。貸し出し料については、各機器のメンテナンス代を賄えるような料金の設定を考えている。また、機器破損保証の1日保険を調べてみて料金を設定してはどうかとの意見もあった。料金設定についてはこれらを踏まえ検討することにしている。

(16) 平成28年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会

5月25日(水) サザンプラザ海邦　＜資料配布＞

(山城次長)

同実行委員会に前濱副会長が参加されたが、本日欠席のため代理で報告する。毎年開催されている街頭での「6.26ダメ。ゼッタイ。」普及運動は、今年は6月25日（土）にサンエーメインプレイスを本部開催として各地区で開催されることに決定した。多くの会員が参加し啓発運動をしていただきたい。

(17) 沖縄県薬物乱用防止協会理事会　5月25日(水) サザンプラザ海邦　＜資料配布＞

(山城次長)

同理事会に前濱副会長が参加された。代理で報告する。沖縄県薬物乱用防止協会の今年度の

総会が6月16日（木）に本会館で開催される。その総会の議案、報告事項の確認を行ったとのことである。

(18) 平成28年度第1回健康長寿おきなわ復活県民会議　5月26日（木）県庁　＜資料配布＞

（亀谷会長）

本会会長は同会議の委員に委嘱されている。同会議の会長は県知事。主に、健康長寿おきなわ復活に向けた県民運動等に関することを職務とし、年2回程開催されている。今回の会議では、健康長寿おきなわ復活に向けて健康づくり事業に尽力された企業や団体を表彰する制度を策定した。他に、各団体の取組状況の報告や取組紹介をした。取組紹介の中で、イオン琉球株式会社では年間を通して健康や医療に関する講演会を店舗内で行っているとのこと。5月29日の中部地区薬剤師会主催の健康とおくすり相談会をイオンモール沖縄ライカムで行うことも述べていた。

(19) 沖縄子どもの未来県民会議（仮称）事前説明会　5月27日（金）県庁　＜資料配布＞

（山城次長）

同説明会は、県内で深刻化している子どもの貧困について、貧因の実態調査や対策等の計画を執行する沖縄子どもの未来県民会議の設立に係る会議であった。沖縄子どもの未来県民会議は、行政や民間の主要関係機関を網羅する多くの団体で構成され、県知事が会長に就き、6月17日にキックオフ会議を開いて発足する。

(20) 未来の産業人材育成事業「職業人講話」　5月27日（金）浦西中学校　＜資料配布＞

（大城課長）

県は「未来の産業人材育成事業」の一つとして「職業人講話」を小・中・高校にて展開している。近年、薬剤師職が人気であることから本会に講師派遣依頼が多くなってきている。昨年、浦添市立浦西中学校で「職業人講話」の講師をした会員の松尾はつよ氏の講話が好評であったことから、学校側からの要望で再び講師依頼があり、実施された。今回も素晴らしい講話をされたと同事業担当事務局から報告を受けている。

(21) 会報取材　5月28日（土）（株）沖明

（宮城常務理事）

会員の我喜屋啓氏が代表取締役の株式会社沖明を、広報委員会の伊敷松太郎委員が取材した。我喜屋美香理事の旦那様である。同社は、ペットや畜産生産物用の動物用医薬品の卸会社である。取材記事は、8月中旬頃発行の本会会報に掲載される。

(22) 宮古地区薬剤師会総会　5月28日（土）宮古地区薬剤師会事務所

（亀谷会長）

宮古地区薬から同地区総会での挨拶の要請があり出席した。藤井もとゆき議員を当選させるべく、総会参加者に協力を要請した。また、宮古地区薬は会員が良くまとまった地区薬であることを改めて実感した。

(23) 健康とおくすり相談会　5月29日（日）イオンモール沖縄ライカム

（佐藤理事）

中部地区薬が担当でイオンモール沖縄ライカムにて健康とおくすり相談会を開催した。同相談会の相談薬剤師を募ったところ、調剤報酬改定によるかかりつけ薬局に関する施設基準の届出の件もあり、56名と多くの会員が相談薬剤師として参加した。相談会は、午前10時から午後4時の6時間開催され、相談員は各2時間3クールに分かれて、体成分分析器、動脈硬化測定器、電子血圧測定器、簡易血液分析装置（cobas b 101）の各機器と相談コーナーに分担された。

簡易血液分析装置の使用は厚生労働省に申請して行われ96名の検体をとることができ、結果、85名の相談者が訪れた。また、初めての相談薬剤師が多かったので、中部地区薬役員は開始前の準備、説明から終了まで責任をもって参加した。

(24) 九州ブロック日薬代議員予備会議　5月30日(月) 福岡県薬剤師会館　＜資料配布＞

(亀谷会長)

前濱副会長と出席した。多くの報告、議題がある中で特に、日本薬剤師会第87回定時総会におけるブロック代表質問について協議がなされた。九州ブロックからは、「地域医療、地域包括ケアシステム等の活動に関して厚生労働省は明確にしてほしい」「災害派遣薬剤師の損害保険について日薬はどのような調整をしたのか」などを質問する予定となっている。

(25) 第1回九山各県代表者会議　5月30日(月) 福岡県薬剤師会館　＜資料配布＞

(亀谷会長)

前記の九州ブロック日薬代議員予備会議に続いて開催された。①日薬賞について、本会から神村武之前会長を推挙していたところ、九州ブロックとして被表彰者に推薦することを全会一致で決定した。②熊本地震に関して、九州山口スキームで述べ人数555人が延べ日数1,204日支援し、沖縄は5月の第2陣からカウントされていた。支援者数と仕事量が見合わなくなり、特に連休後は支援者数が過剰であったとのこと。③第77回九州山口薬学大会（熊本大会）の中止に伴う平成28年度の会費請求について、同大会は中止になったが準備等に費用がかかったため大会運営費だけは納入することになった。沖縄県薬は10万2,400円。

(26) 九山薬局実務実習受入調整機関評議員会　5月30日(月) 福岡県薬剤師会館　＜資料配布＞

(亀谷会長)

前記の九州ブロック日薬代議員予備会議、第1回九山各県代表者会議と同日に開催された。指導薬剤師ワークショップの参加申込において、実務経験5年以上の応募要件に対し、アルバイト歴などを通算して失格となる事例があった。要件にはより具体的な記述を求めるべきとの意見があった。

(27) 沖縄県薬業連合会代表者会議　6月1日(水) 沖縄都ホテル　＜資料配布＞

(亀谷会長)

会議では主に、6月29日に開催される沖縄県薬業連合会の総会について話し合われた。

(28) 平成28年度第3回臨時幹事会　6月2日(木) 県薬

(江夏副会長)

来る6月19日開催の第74回通常総会における各地区薬剤師会代表質問の回答案文について検討した。

(29) 実務実習指導薬剤師養成講習会　6月5日(日) 県薬　＜資料配布＞

(30) 実務実習指導薬剤師更新講習会　6月5日(日) 県薬　＜資料配布＞

(我喜屋理事)

同日開催の報告事項（29）と一緒に報告する。新規養成講習は、認定実務実習指導薬剤師について説明後、ビデオ学習をし、最後に成果報告書の作成を行った。更新学習は、薬学実務実習に関するガイドラインについて説明後、同じくビデオ学習を行った。新規講習会は19名が受講、更新講習会には11名の受講があった。

(31) 薬学生実務実習受入委員会　6月6日(月) 県薬　＜資料配布＞

(我喜屋常務理事)

①昨年の新入学生から新コアカリキュラムがスタートした。その実務実習が平成31年から始

まるが、そのために各県単位で行わなければならない「薬学実務実習のガイドライン説明会」を7月16日に開催を予定しており、早速、週明けにでもFAX一斉同報で参加案内をする。講師には名古屋市立大学大学院薬学研究科教授の鈴木匡氏をお招きする。②保険薬局は2期からトライアルを開始する。トライアル薬局に、あかみち薬局新赤道前店とすこやか薬局野嵩店を選定した。③7月17日から18日に福岡大学で開催するワークショップには、そうごう薬局新赤十字前店の西川裕氏、なごみ薬局の伊敷松太郎氏、幸地薬局の幸地良信氏、会営薬局うえはらの與世平千夏氏、まごころ薬局の四谷祐子氏、ミント薬局の小湾喜彦氏の6氏が参加することになっている。

(32) 平成28年度第2回広報委員会　6月6日(月) 県薬　＜資料配布＞

(宮城常務理事)

会報編集事項の他に、以下の事項が話し合われた。①今年の熟年の集いの特別余興に第一候補として古謝美佐子氏が挙がっており、現在交渉中である。②沖縄県薬剤師会創立90周年事業として本会会報誌に、「創立90周年に寄せて」を6氏に執筆依頼する。松山朝雄氏と山城志津氏は7.8月号、大城桂子氏と神村武之氏は9.10月号、新垣正次氏と比嘉真三氏は11.12月号に掲載する。③本会報誌でお馴染みの橋の下氏の一包一話を過去から現在までのおよそ350話近くを「一包一話集」として鈴木委員と事務局の大城氏で製作を進めている。④例年開催されている「しごとミュージアム」が7月6日に沖縄コンベンションセンターで開催される。広報委員会を中心に実務実習期間中の薬学生にも手伝っていただく。⑤広報委員会の役職について、新たに副委員長と書記を設置することにした。鈴木一徳委員を副委員長、伊差川サヤカ委員を書記に選出した。

(33) 健康サポートのための他職種連携研修（仮称）に係る都道府県薬剤師会説明会

6月8日(水) TKP田町カンファレンスセンター　＜資料配布＞

報告事項（12）で報告。

(34) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 幹事会

6月8日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

亀谷会長が出席。

(35) 平成28年度第1回症例検討入門研修会　6月9日(木) 県薬　＜資料配布＞

(外間副会長)

今年度の症例検討入門研修会は、「糖尿病」をテーマに、入門編と症例検討編2回を開催することになっている。初めてでも無理なく基礎が学べるようにと企画した今回の入門編には、県薬会員97名、病薬会員10名、薬学生4名の計111名と多くの参加があった。講師を務めた学術研修委員会の阪本崇彰委員は、大変聞き応えのある講演をされ、亀谷会長も最後に本会の今後の生涯学習にぜひ参画していただきたいと述べられ、会場は拍手喝采で包まれた。同研修会の症例検討編では昨年度から引き続き大澤友二氏を招いて、開局編と在宅編の症例検討を講義頂く予定になっている。

(36) 全国国民健康保険組合協会　第67回通常総会・懇親会

6月10日(金) ロワジールホテル那覇

(亀谷会長)

全国国民健康保険組合協会の総会が、今回、沖縄で開催された。政府から保健組合への補助金が減額になることに対して議論がなされた。同協会は、保険財政の健全化には国民に対する未病・健康対策が欠かせないとの認識であった。

(37)「認定薬剤師取得に向けた継続セミナー」について　＜資料配布＞

（外間副会長）

前回の理事会で、県薬として同セミナーへの参加の可否を考慮するためのアンケートをとるべきとの要望があったので、FAX一斉同報でアンケートを実施した。アンケートの回答内容は、回答者は22名で内2名が非会員、内訳は保険薬局20名、病院診療所2名であった。所属している学会については、日本腎臓病薬物療法学会が3名、日本臨床腫瘍薬学会が4名、日本緩和医療薬学会が4名、これからいずれか入会予定であると回答したのが10名であった。参加可能な会場については、福岡県内での集合研修が4名、県内会場でのネット通信によるサテライト形式またはDVD研修と回答したのが20名、どの会場でも参加可能が1名であった。1回のセミナーで負担できる受講費用については、1,000円が6名、2,000円が7名、2,001円～5,000円が3名、5001円～1万円が3名、自己負担できないが1名であった。今回のアンケート回答結果を踏まえて、今後の九州山口各県薬代表者会議に参加し、サテライト研修の回数や参加費の結果を考慮した上で、沖縄県として本セミナーへの参加を検討していきたい。

(38) 平成28年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動6.26ヤング街頭キャンペーンにおける参加方について　＜資料配布＞

報告事項（17）で報告。

(39) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について　＜資料配布＞

（山城次長）

配布資料の会営薬局とよみ6月勤務表には、応援薬剤師が増えていることもあり、平日5名以上の日が多く、一頃の深刻な状況から抜けたように見えるが、これは一時的なものなので、引き続き薬剤師確保に協力して頂きたい。朗報として、会営薬局うえはらに、今年の薬剤師国家試験に合格した若手女性薬剤師を6月1日に採用できた。

(40) その他

（亀谷会長）

定例理事会の議事概要の作成は各事務職員が担当しているが、未だに作成が遅く改善されていない。また､職員それぞれの記述も各人各様で統一感が無い。文の記述様式の統一化､スピーディーな作成を考慮すると担当職員を一人に固定した方が良いのではないかと検討している。ただ、担当を予定している職員は仕事を多く抱えていることから、職務分掌の見直しを図って検討していきたいと思っている。

報告（薬連）

(1) 第12回沖縄県議会選挙対策会議　5月16日(月) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

山城次長が出席。茂木敏充氏が招かれていた。

(2) 企業訪問　5月18日(水) 県内企業5社

亀谷会長と山城次長が県内企業5社を訪問し、藤井もとゆき後援会入会の依頼をしてきた。その後、多くの入会があった。

(3) 沖縄県薬剤師連盟総務会　5月23日(月) 県薬

（亀谷会長）

来る6月15日の藤井もとゆき激励会の運営等の取り決めを行った。卸会社と共催し、200名動員を目標としている。薬剤師は、北部地区10名、中部地区25名、那覇地区50名、南部地区20名と、各地区薬に動員をお願いしている。

(4) 平成28年度第1回全国会長・幹事長拡大会議　5月25日(水) 品川プリンスホテル

(5) 藤井もとゆき中央後援会総会　5月25日(水) 品川プリンスホテル

報告事項 (4) と同時報告。

(亀谷会長)

石川理事と参加した。藤井もとゆき後援会入会状況については、東京から東側の地域で入会者数が伸び悩んでいることが指摘されていた。来賓で参加された自由民主党所属の衆議院議員である伊吹文明氏が、自民党が野党の時期にも揺らぐことなく薬剤師の皆さんから支援して頂いたことは忘れておりませんとの挨拶が印象に残っている。

(石川理事)

今後の予定では、電話作戦を最後までしっかりと行っていくことである。

(6) 参議院議員 島尻あい子氏へ推薦状交付　6月1日(水) 島尻あい子選対事務所

(亀谷会長)

山城次長と島尻あい子選対事務所に陣中見舞いも兼ね推薦状を交付してきた。

(7) 薬局訪問　6月3･6日(金･月) 南部地区・中部地区

(山城次長)

南部地区の薬局を亀谷会長と訪問、中部地区の薬局を石川副幹事長と訪問してきた。できるだけ多くの薬局を訪問して支持を訴えたい。

(8) その他

(亀谷会長)

宮古地区、八重山地区も含め、今後も薬局を訪問していく予定である。

お知らせ

＜県薬が会員に販売している印刷物等＞

○国保総括票	25枚	1冊	100円
○市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円
○市町村別請求書（その2）	1枚		10円
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円
○処方せん	100枚	1冊	160円

○お薬手帳カバー	1枚	22円
○薬歴カード	各1枚	5円

（国保（本人・家族）青色
社保（本人）白色
社保（家族）桃色）

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ　価格 税抜き12円

【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ　価格 税抜き22円

年間目次

おきなわ薬剤師会報 平成28年もくじ

通巻280号～ 285号

		No.(号)	発行月号	頁
表紙掲載会員作品				
写真「ヴェネチアの薬局」	山里美恵子	280	1･2	表紙
写真「香りを自在に操る世界最古の薬局“サンタマリアノヴェラ薬局”」	平良伊己子	281	3･4	表紙
写真「スウェーデンのストックホルムの薬局」	伊差川サヤカ	282	5･6･7	表紙
写真「アスンシオンの薬局」	吉田久子	283	8･9	表紙
写真「台北の薬局」	伊差川サヤカ	284	10･11	表紙
写真　琉球子ども舞踊集団「童夢 花わらび」		285	12	表紙
トピックス				
「のあちゃんを救う会」の募金活動お礼	亀谷浩昌	280	1･2	2
沖縄県薬剤師会と全国健康保険協会（協会けんぽ）沖縄支部「健康づくり推進のための包括的連携に関する協定」締結式	山城英人	284	10･11	6
年頭挨拶				
新年のご挨拶	亀谷浩昌	280	1･2	3
新年ご挨拶	山本信夫	280	1･2	4
新年のあいさつ	仲本朝久	280	1･2	6
年頭にあたって	藤井もとゆき	280	1･2	7
新年ご挨拶	松本　純	280	1･2	8
年頭ご挨拶	國場幸之助	280	1･2	10
祝辞	宮﨑政久	280	1･2	11
年頭のご挨拶	比嘉奈津美	280	1･2	12
年頭ご挨拶	西銘恒三郎	280	1･2	13
新年のご挨拶	島尻安伊子	280	1･2	14
年頭のご挨拶	逢坂誠二	280	1･2	15
巻頭言				
今後の薬局ビジョン	川満直紀	281	3･4	2
より良い地域医療の担い手を目指して	伊佐常隆	283	8･9	2
沖縄県病院薬剤師会会長に就任して	中村克徳	284	10･11	4

慰労会

神村武之先生 沖縄県薬剤師会会長退任慰労会	前濱朋子	280	1･2	17
‥‥退任慰労会スナップ写真		280	1･2	18

祝賀会

平成27年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催	大城喜仁	280	1･2	20
‥‥受賞者プロフィール		280	1･2	22
‥‥合同祝賀会スナップ写真		280	1･2	27
沖縄県薬剤師会創立九十周年記念祝賀会	大城喜仁	285	12	2
沖縄県薬剤師会創立九十周年記念祝賀会における会長挨拶	亀谷浩昌	285	12	4

表　彰

沖縄県学校保健会長表彰（小波蔵廣美先生､宮里晄子先生､渡慶次美保子先生）		281	3･4	3
日本薬剤師会有功賞受賞(宜野座安伸先生、平尾秀子先生)		282	5･6･7	2
那覇市制施行95周年記念特別表彰受賞(太田節子先生、渡嘉敷見先生)		282	5･6･7	2
日本薬剤師会賞受賞（神村武之先生）		284	10･11	2
平成28年度薬事功労者厚生労働大臣表彰（下地仁先生・米村一成先生）		284	10･11	2
平成28年度沖縄県薬事功労者知事表彰（新垣秀幸先生・長田茂先生）		284	10･11	3
第11回日本禁煙科学会学術総会優秀演題賞受賞（笠原大吾先生）		284	10･11	3
厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰（吉田久子先生）		285	12	1

創立90周年記念特別寄稿

沖縄県薬剤師会創立90周年に寄せて	新垣正次	285	12	5
沖縄県薬剤師会創立90周年に寄せて	大城桂子	285	12	6
創立90周年を迎えて	神村武之	285	12	8
想い出二話	山城志津	285	12	10

寄　附

学校薬剤師部会うるま支部からうるま市教育委員会へ寄附		281	3･4	3
沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式	大城喜仁	281	3･4	4

沖縄学術大会

第30回沖縄県薬剤師会学術大会開催	外間惟夫	285	12	12
第30回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム		285	12	14
第30回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告	姫野耕一・吉冨弓江	285	12	22
第30回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞講演要旨		285	12	23

薬と健康の週間

薬祖祭波之上宮本殿	大城喜仁	285	12	25
くすりと健康フェア～県民公開講演会「心身ともに健康」～	前濱朋子	285	12	26
街頭キャンペーン		285	12	29

その他会務報告

沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊	大城喜仁	283	8･9	34

総　会

第73回臨時総会開催		281	3･4	5
平成28年度事業計画および平成28年度収支予算		281	3･4	8
第73回臨時総会における議案事項		281	3･4	20
第74回通常総会会長挨拶	亀谷浩昌	282	5･6･7	3
第74回通常総会開催	大城喜仁	282	5･6･7	4
第74回通常総会懇親会	大城喜仁	282	5･6･7	7
平成27年度会員・薬局等の業態現況報告		282	5･6･7	8
平成27年度事業経過報告および平成27年度決算		282	5･6･7	9
議題審議及び質疑応答の概要		282	5･6･7	25

災害対策

熊本地震における沖縄県薬剤師会の対応	吉田洋史	282	5･6･7	34
熊本地震における義援金・支援物資の御寄付者一覧		282	5･6･7	35
本会における熊本地震対策時系列		282	5･6･7	36
熊本災害派遣報告	我喜屋美香	282	5･6･7	37
熊本地震活動報告	坂本俊一	282	5･6･7	40
熊本地震災害対策活動報告	喜納みゆき	282	5･6･7	42
熊本地震における支援薬剤師の活動報告書	玉城和子	282	5･6･7	44
熊本地震支援薬剤師活動報告／今後の災害対策	喜久山有沙	282	5･6･7	46

医療保険

平成28年度調剤報酬改定等説明会報告	照屋林一郎	281	3･4	22

医療安全

平成27年度医療安全講習会報告	名嘉紀勝	281	3･4	24

ぶれいくたいむ

檸檬ケーキ	亀谷浩昌	284	10･11	75

医薬分業

平成27年度医薬分業対策会議報告	川上雄一朗	280	1･2	34
‥‥各地区薬剤師会＆病院向けアンケート回答結果		280	1･2	36
日薬eお薬手帳及び不動在庫・備蓄ネットワークシステム説明会参加報告	伊集智英	281	3･4	26
平成27年度医薬分業対策委員会主催研修会報告	川上雄一朗	281	3･4	28
‥‥医薬分業対策委員会主催研修会に参加して	中野将仁	281	3･4	30
平成28年度医薬分業対策委員会主催研修会および平成28年度医薬分業対策会議報告	川上雄一朗	284	10･11	7
医薬分業対策委員会主催研修会参加報告	長瀬　涼	284	10･11	10
医薬分業対策委員会アンケート集計結果		284	10･11	11
平成28年度FAXコーナー担当者意見交換会報告	川上雄一朗	285	12	36
FAXコーナー担当者意見交換会に参加して		285	12	38
屋嘉比康太・荷川取真津枝・野原千寿子・安里和美・玉那覇和美 友利洋子・糸数幸代・中村直子・崎濱祐美子				

学術研修

第4回「薬剤師のための症例検討入門」研修会報告	伊差川サヤカ	281	3･4	34
平成28年度新任・新人薬剤師研修会報告	外間惟夫	283	8･9	5
新任・新人薬剤師研修会に参加して	石川有美子	283	8･9	7
平成28年度 第1回 薬剤師のための症例検討入門研修会報告	伊差川サヤカ	283	8･9	8
平成28年度 第2回 薬剤師のための症例検討入門研修会報告	外間　登	283	8･9	10
平成28年度第3回薬剤師のための症例検討入門研修会報告	潮平英郎	284	10･11	22
健康食品・サプリメント研修会報告	金城絵理子	285	12	31
健康食品・サプリメント研修会の講師を務めて 玉城武範・盛本直也・阪本崇彰・名嘉紀勝		285	12	33

実務実習

平成28年度Ⅰ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香	283	8･9	12
実務実習薬学生 平成28年度第Ⅰ期生からの体験記・感想		283	8･9	13
前田翼・登川敬宗・洲鎌はつえ・具志堅聖・宮城貴之・玉城祐太朗 比嘉さおり・伊礼ほたる・玉城佐穂里・大城英恵・姫野智子 山城のぞみ・湧田英恵・幸地茜・宮良遙奈				
平成28年度Ⅱ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香	285	12	43
実務実習薬学生　平成28年度Ⅱ期生からの体験記・感想		285	12	44
端山一彦・髙安結・木村奈美・島袋真実・新川祐作・新川真樹子 鉄本愛・照屋えり・福家成美・玉城愛梨・照屋華凜・河邊結子 有銘千賀子・池間瑞葵・徳嶺光市・我喜屋あかね				

なごみ会

なごみ会主催第6回県民健康フェア2016報告	笠原大吾	284	10・11	24
なごみ会主催県民健康フェア「薬剤師会ブース」各コーナー報告		284	10・11	27
伊集智秀・比嘉　仁・喜屋武敦子・川崎　亮・島袋さゆり・安田泰行				

地域保健

平成27年度自殺予防対策事業ゲートキーパースキルアップ研修会報告	金城絵理子	281	3・4	36
日本薬剤師会「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会(第4回)」伝達研修会	島袋さゆり	281	3・4	38
第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会報告	上里美矢子	281	3・4	39
健康サポート薬局に係る研修会実施報告	笠原大吾	284	10・11	33
健康サポート薬局に係る研修会参加報告		284	10・11	34
諸見里めぐみ・辺野喜英人・岡野俊秀・藤田睦子				

青年部会

青年部会主催在沖米軍基地内海軍病院見学ツアー報告	新江裕貴	281	3・4	41
‥‥在沖米軍基地内海軍病院視察に参加して	福　大哉	281	3・4	43
青年薬剤師部会総会および特別講演会報告	上原卓朗	284	10・11	38

地区だより

石垣市健康福祉まつりに参加して	圷　徳子	280	1・2	64
第14回北部地区薬剤師会定時総会報告北部地区薬剤師会事務局		282	5・6・7	54
平成27年度中部地区薬剤師会総会報告	高木英子	282	5・6・7	56
一般社団法人那覇地区薬剤師会 第3回通常総会那覇地区薬剤師会事務局		282	5・6・7	58
平成28年度宮古地区薬剤師会総会報告	下地睦夫	282	5・6・7	60
南部地区薬剤師会総会報告	新垣秀幸	282	5・6・7	61
平成27年度八重山地区薬剤師会総会報告	山城　専	282	5・6・7	61

在宅医療

第1回無菌調製実践講座（TPN編）報告	伊敷松太郎	280	1・2	30
第2回無菌調製実践講座（麻薬編）報告	比嘉　仁	280	1・2	31
第3回無菌調製実践講座（抗がん剤編）報告	屋嘉比康作	280	1・2	32

学薬部会

国頭地区養護教諭研修会報告国頭地区養護教諭研究会		281	3・4	48
学校薬剤師部会研修会に参加して	勝連貴子	282	5・6・7	49
平成28年度学校薬剤師新任研修会報告	上里美矢子	282	5・6・7	50
平成28年度（第44回）学校薬剤師部会総会・講演会報告	名嘉紀勝	283	8・9	24

啓発・普及活動

沖縄県Uターン・Iターンガイダンス参加報告	津波昭史	280	1･2	45
薬学部で沖縄県へのU・Iターン希望者へ就職ガイダンスを開催	富永武志	280	1･2	46
北陸大学で沖縄県U・Iターンガイダンスを開催	山澤千尋	280	1･2	47
九州保健福祉大学での沖縄県U・Iターンガイダンス報告	大城なつき	280	1･2	47
平成27年度健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告	大城喜仁	281	3･4	58
未来の産業人材育成事業「職業人講話」について	大城喜仁	281	3･4	59
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 6.26ヤング街頭キャンペーン		282	5･6･7	65
「しごとミュージアム」参加報告	大城喜仁	283	8･9	27
平成28年度 健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告	大城喜仁	283	8･9	28
未来の産業人材育成事業「職業人講話」について	大城喜仁	283	8･9	29
～久米島町立久米島西中学校での取組～	照屋愛海	283	8･9	29
～竹富町立黒島中学校での取組～	照屋愛海	283	8･9	30
～宮古教育事務所初任者研修での取組～	照屋愛海	283	8･9	31
那覇市立鏡原中学校における職場体験学習	佐久本優太	283	8･9	32
南城市立小中学校養護教諭向け「医薬品の取り扱い方」学習会報告	野原文恵	285	12	62

投　稿

ツール・ド・おきなわでのシャペロン体験	笠原大吾	280	1･2	65
粟国島に初めてできた薬局で勤務してみて	笠原大吾	280	1･2	66
第39回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプに参加しませんか？	砂川智子	282	5･6･7	66
第39回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプに参加して	砂川智子	283	8･9	54
「ツール・ド・おきなわ」にシャペロンとして参加	小島　進	285	12	60

寄　稿

ジェネリック医薬品使用促進に係る講演について	大橋　隆	285	12	59

女性薬部会

女性薬剤師部会主催漢方セミナー開催 漢方セミナー開催にあたって	村田美智子	280	1･2	48
漢方セミナー参加報告	池間加津美	280	1･2	48
「翼」に乗って未来に馳せる	村田美智子	280	1･2	50
薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング開催		281	3･4	44
	村田美智子・玉澤真理子・與儀明美・建本満枝・儀間祐希			
女性薬剤師部会通常総会報告	草壁瑞恵	282	5･6･7	52
平成28年度 女性薬剤師部会 第17回漢方講座報告	我如古伊都子	283	8･9	22
平成28年度 女性薬剤師部会 第18回漢方講座報告	与那覇乙梨恵	283	8･9	23
第14回日本女性薬剤師会全国移動セミナー in青森参加報告	与儀和子	284	10･11	43
女性薬剤師部会主催 第19回漢方講座報告	大屋三登	285	12	54

卸薬部会

平成27年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部会報告	森下彰久	280	1･2	51
平成27年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会報告	城村幹彦	280	1･2	52
日本医薬品勤務薬剤師会福岡県支部平成27年度(第34回)継続研修会報告(その①)	森下彰久	280	1･2	54
日本医薬品卸勤務薬剤師会福岡県支部平成27年度継続研修会報告(その②)	森下彰久	281	3･4	50
平成27年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告	城村幹彦	281	3･4	53
平成28年度日本医薬品卸勤務薬剤師会 沖縄県支部会報告	吉冨弓江	283	8･9	26
第49回日本薬剤師会学術大会参加報告	川上雄一朗	284	10･11	40

日薬大会

第48回日本薬剤師会学術大会参加報告	城村幹彦	280	1･2	57
第48回日本薬剤師会学術大会名古屋大会参加報告	神山侑子	285	12	56

調査報告

院外薬局に設置した感染症室の利用状況調査	阿嘉さゆり	284	10･11	48

同窓関連

平成28年度名城大学薬学部公開講座	宮城幸枝	284	10･11	45

会員紹介

ラジオパーソナリティーを務める 盛本 直也先生	大城喜仁	284	10･11	69

月例相談会

第128回健康とおくすり相談会報告（中部地区薬剤師会）	瑞慶山正代	280	1･2	63
第129回健康とおくすり相談会報告（八重山地区薬剤師会）	新嵩由香	281	3･4	55
第130回健康とおくすり相談会報告（南部地区薬剤師会）	伊敷松太郎	281	3･4	56
第131回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	小湾喜彦	281	3･4	57
第132回健康とおくすり相談会報告	諸見里めぐみ・渡久地愛	282	5･6･7	62
第133回健康とおくすり相談会報告	鈴木聡子	282	5･6･7	64
第134回健康とおくすり相談会報告	新垣紀子	284	10･11	46
第135回健康とおくすり相談会報告	新垣秀幸	284	10･11	47
第136回健康とおくすり相談会報告		285	12	57
第137回健康とおくすり相談会報告	仲宗根かおり	285	12	58

新入会員

平成27年10月1日～平成28年3月末日入会分		281	3･4	60
平成28年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成28年4月1日～9月末日分）		284	10･11	82

D　I

薬事情報おきなわ No.237薬事情報センター	280	1･2	67
薬事情報おきなわ No.238薬事情報センター	281	3･4	61
薬事情報おきなわ No.239薬事情報センター	282	5･6･7	69
薬事情報おきなわ No.240薬事情報センター	283	8･9	35
薬事情報おきなわ No.241薬事情報センター	284	10･11	51
薬事情報おきなわ No.242薬事情報センター	285	12	63

薬草学

身近な薬草を知ろう 第24回 田イモ：ターンム：ターム	狩俣イソ	280	1･2	78
身近な薬草を知ろう 第25回 ヘチマ・糸瓜・ナーベーラー	狩俣イソ	281	3･4	72
身近な薬草を知ろう 第26回 アロエ（ルグヮイ・ロカイ）	狩俣イソ	282	5･6･7	82
身近な薬草を知ろう 第27回 ハンダマ（水前寺菜：金時草）	狩俣イソ	283	8･9	52
身近な薬草を知ろう 第28回 葉ニンニク	狩俣イソ	284	10･11	64
身近な薬草を知ろう 第29回 センダン	狩俣イソ	285	12	72

医療機関・施設訪問

株式会社 沖明	伊敷松太郎	284	10･11	66
国立大学法人 琉球大学医学部附属病院	鈴木一徳	285	12	74

リレー随筆

旅行って素敵!!（その2）	廣川直子	280	1･2	80
チャオ！イタリア珍道中記	平良伊己子	281	3･4	74
沖縄でアイスホッケー	中村克徳	282	5･6･7	84
漢方認定薬剤師	古謝さなえ	283	8･9	55
薬剤師としての業務以外の活動	川満裕次郎	284	10･11	68
宗教勧誘のお話。	宮城勇己	285	12	76

広報用ポスター

なごみ会主催第6回県民健康フェア2016		284	10･11	77
くすりと健康フェア　告知ポスター		285	12	30

警察通達

国際テロ対策「爆発物原材料を取り扱う事業者」向け合同訓練		283	8･9	66

薬連だより

平成27年度組織強化に関する担当者全国会議報告	石川恵市	280	1･2	82
国会レポート～平成28年度予算案～	藤井もとゆき	280	1･2	83
国会レポート～薬剤師国家試験の見直しについて～	藤井もとゆき	281	3･4	76
平成28年度沖縄県薬剤師連盟評議員会報告	山城英人	282	5･6･7	85
国会レポート～骨太の方針2016 ～	藤井もとゆき	282	5･6･7	86
藤井選挙を振り返って 沖縄県薬剤師連盟 かく戦えり	亀谷浩昌	283	8･9	56
藤井もとゆき参議院選挙に向けての活動報告	石川恵市	283	8･9	57
藤井もとゆき激励会報告	上原卓朗	283	8･9	58
全国若手薬剤師フォーラム2016	西川　裕	284	10･11	70
国会レポート～人生100年時代の社会保障～	藤井もとゆき	284	10･11	72
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成28年3月～ 4月分）		281	3･4	120
沖縄県薬剤師連盟会務報告(平成28年4月～ 5月分)		282	5･6･7	105
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成28年6 ～ 7月分）		283	8･9	73
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成28年9 ～ 10月分）		284	10･11	81
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成28年11月分）		285	12	127

日薬通達

正会員向け保険制度のご案内（賠償責任保険・個人情報漏えい保険）	280	1･2	88
会員向け見舞金制度について	280	1･2	105

国保・社保通達

平成28年度受付相談・協力日及び受付締切日	280	1･2	90

会務報告

平成28年12月・平成28年1月末日分（沖縄県薬剤師連盟会務報告）	280	1･2	122
平成28年4月～ 5月分	282	5･6･7	101
平成28年6月～ 8月分	283	8･9	67
平成28年9月～ 10月分	284	10･11	78
平成28年2月～ 3月分	281	3･4	116
平成28年11月分	285	12	125

社保だより

平成28年度における診療報酬等の納入期日及び支払日予定表	281	3･4	123

職員人事

新入職員紹介（石川有美子さん、神山侑子さん）	283	8･9	76

転載記事

のあちゃんに心臓移植を 県薬剤師会が144万円寄付		280	1･2	2
平成27年秋の叙勲（学校保健功労）受章報告会		280	1･2	29
日本医師会会報「インタビューコーナー」に亀谷会長		280	1･2	84
県女性の翼 マレーシア・シンガポール研修報告「沖縄観光ハラルに可能性」	村田美智子	280	1･2	86
琉球新報連載コーナー「南風」執筆連載	吉田洋史	280	1･2	87
「お薬手帳」持参で安く かかりつけ薬局促進へ		281	3･4	77
薬剤師の在宅訪問（上）（下）		281	3･4	78
困窮世帯に薬代助成　那覇市		281	3･4	80
琉球新報連載コーナー「南風」執筆連載	吉田洋史	281	3･4	83
「患者さんの笑顔のために」FAXコーナー職員の投稿記事		281	3･4	83
沖縄タイムスより転載「県薬剤師会から益城町など支援」		282	5･6･7	106
沖縄タイムス・琉球新報より転載「県薬剤師会が義援金245万円」		282	5･6･7	106
沖縄県医師会報より転載「ダメ。ゼッタイ。」普及運動、国際麻薬乱用撲滅デーに寄せて	大城恭子	282	5･6･7	107
琉球新報こども新聞より転載「安全提供へ何度も確認」薬剤師職能紹介される	大城喜仁	283	8･9	60
琉球新報より転載　論壇「子どもの貧困解決への一里塚」	亀谷浩昌	283	8･9	61
沖縄タイムスより転載　論壇「薬用植物園の増設は有用」	与儀和子	283	8･9	62
琉球新報より転載「熊本地震　義援金・支援」 多くの会員が復興のために支援されています		283	8･9	63
琉球新報より転載「なごみ会主催県民健康フェア広報」		283	8･9	63
沖縄タイムスより転載「わがまちの老舗」コーナーに“ぎのざ薬局”が紹介される		283	8･9	64
沖縄タイムスより転載「県内小規模離島で2店だけ」“あぐに薬局”が紹介される		283	8･9	65
沖縄タイムスより転載「国際ソロプチミスト沖縄：リーダーの育成に力」		283	8･9	65
ひまりちゃんに心臓移植を 県薬剤師会が135万円を寄付		284	10･11	73
協会けんぽ沖縄支部 県薬剤師会と協定 健康増進を支援・医薬品の適正使用などで		284	10･11	73
那覇市医師会報“医療連携のひろば”「今後の薬局ビジョン」	川満直紀	284	10･11	74
薬学生・薬剤師向け情報誌“ミル”に「しごとミュージアム」が紹介される		284	10･11	76
県薬剤師会創立90周年祝う		285	12	78
薬物乱用防止運動沖縄地区大会で吉田久子先生が厚労省医薬・生活衛生局長表彰を受賞		285	12	78
薬物乱用防止協会に薬局2団体が寄付		285	12	78
県民公開講演会 高山医師が訴え		285	12	79
薬と健康の週間 県民公開講演会開催の広報		285	12	79
寄稿「かかりつけの薬局で相談を」	村田美智子	285	12	80
論壇「お気に入り薬局を見つけよう・生涯の健康パートナーに」	佐藤雅美	285	12	81

理事会

平成27年度第1回定例理事会議事概要	280	1･2	91
平成27年度第2回定例理事会議事概要	280	1･2	99
平成27年度第3回定例理事会議事概要	280	1･2	106
平成27年度第4回臨時理事会議事概要	280	1･2	114
平成27年度第5回定例理事会議事概要	280	1･2	115
平成27年度第6回定例理事会議事概要	281	3･4	84
平成27年度第7回定例理事会議事概要	281	3･4	94
平成27年度第8回定例理事会議事概要	281	3･4	103
平成27年度第9回定例理事会議事概要	281	3･4	109
平成27年度第10回定例理事会議事概要	282	5･6･7	87
平成27年度第11回定例理事会議事概要	282	5･6･7	94
平成27年度第13回定例理事会議事概要	285	12	82
平成28年度第1回定例理事会議事概要	285	12	89
平成28年度第2回定例理事会議事概要	285	12	96
平成28年度第3回定例理事会議事概要	285	12	104

訃　報

ご逝去　池間 啓先生、古謝紀和先生	281	3･4	120
故 新垣秀昭先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます	284	10･11	76
故 桑江由利子先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます	285	12	127

一包一話

忙中閑有の一日	橋 の 下	280	1･2	132
友、一香くんを思う	橋 の 下	281	3･4	124
のど自慢風景から････	橋 の 下	282	5･6･7	108
8月･お盆の後先き	橋 の 下	283	8･9	74
話はチャンプルー	橋 の 下	284	10･11	84
『ゆんたく・琉球八社』	橋 の 下	285	12	128

薬草園だより

ウコンの花	与儀和子	283	8･9	76
クヮンソウの花	与儀和子	284	10･11	86

会員作品（誌上ギャラリー）

平成27年度誌上ギャラリー大賞・優秀作品

写真「ナビィおばぁの家」（大賞）	笠原大吾	279	11･12	裏表紙
写真「フラミンゴの大群」（優秀作品）	成川玲子	276	5･6	裏表紙
写真「シエナ大聖堂」	廣川直子	281	3･4	裏表紙
書　「学優文麗至通也」	太田節子	281	3･4	裏表紙
写真「粟国の塩 採かん風景」	笠原大吾	281	3･4	裏表紙
写真「パフィオペディラム」	吉田久子	282	5･6･7	裏表紙
写真「ベルリン郊外のお城の庭」	前濱朋子	282	5･6･7	裏表紙
写真「チューリップ畑」	池間記世	282	5･6･7	裏表紙
水彩画「旅のスケッチ（ベトナム)」	小那覇幸子	283	8･9	裏表紙
写真「斎場御嶽（せーふぁうたき)」	伊集智英	283	8･9	裏表紙
写真「ウコンの花」	薬草園だより	283	8･9	裏表紙
写真「サンゴの群生」	吉田洋史	283	8･9	裏表紙
写真「雲の上の富士山」	吉田久子	284	10･11	裏表紙
写真「残照の港」	伊集智英	284	10･11	裏表紙
写真「クヮンソウの花」	薬草園だより	284	10･11	裏表紙
写真「マイセン大聖堂」	廣川直子	284	10･11	裏表紙
写真「黄葉眩しい並木道」	成川玲子	285	12	裏表紙
写真「ヴルタヴァ川とプラハ城」	廣川直子	285	12	裏表紙
写真「縁起物」	伊集智英	285	12	裏表紙

○以下のコーナーについては、ページ等の詳細は省略いたします。

編集後記

県民の皆様へ　あまくま薬立つ情報

お知らせ　地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！
県薬が会員に販売している印刷物等
会報原稿募集のご案内
会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について
おきなわ津梁ネットワークのご案内（参加・利用申請書)沖縄県医師会
表紙に掲載の写真「世界の薬局」を大募集！
第30回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について学術大会実行委員会
学校薬剤師＆学校薬剤を希望の会員の皆様へ学校薬剤師部会
くすりと健康フェア「県民公開講演会」のご案内
第30回沖縄県薬剤師会学術大会・沖縄県薬剤師会創立90周年記念祝賀会のご案内
沖縄県薬剤師会 Facebookスタートしました！
平成28年度沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内

会務報告

平成28年11月

1火○ 平成28年度第9回定例幹事会　県薬会議室
　○ 沖縄県病院薬剤師感染症分科会　ちばなクリニック　共催：ブリストル・マイヤーズ(株)
2水○ 心不全学術講演会　那覇市立病院　共催：大塚製薬(株)
　○ 第8回沖縄 Airway Conference　ザ・ナハテラス　共催：杏林製薬(株)
　○ Diabetes&Incretin Seminar in 沖縄県中部地区　ラグナガーデンホテル　共催：大日本住友製薬(株)
4金○ 第48回沖縄県公衆衛生大会　沖縄県市町村自治会館　受賞者：村上市子先生（代理出席：吉田久子氏）
　○ 南風原町学習支援事業「職業人講話」　南風原町立南星中学校　講師：新垣紀子氏、大城課長
　○ 第7回糖尿病週間学術講演会　ザ・ナハテラス　共催：ノボノルディスクファーマ(株)
6日○ **第30回沖縄県薬剤師会学術大会**　沖縄県看護協会館
　○ **沖縄県薬剤師会創立90周年記念祝賀会**　県薬ホール
7月○ 薬学生実務実習（夜間救急）　会営薬局医療センター前　講師：城間薬局長、柴田忠良氏
8火○ Care AF ～心房細動による脳卒中を予防するために～　沖縄県医師会館　共催：バイエル薬品(株)
　○ ジェネリック医薬品使用促進に係る講演　宮古島マリンターミナル　講師：上川畑剛氏
9水○ 管理理容師及び管理美容師資格認定講習会　沖縄県青年会館　講師：亀谷会長
　○ 西原町就業意識向上支援事業連絡協議会　西原町役場　大城課長
　○ ジェネリック医薬品使用促進に係る講演　大濱信泉記念館（石垣市）　講師：幸地良信氏
10木○ 沖縄県保健医療部保健医療政策課より来訪　県薬会長室　亀谷会長
　○ 個別指導　沖縄県宮古合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満正啓宮古地区会長
　○ 中部地区研修会「平成28年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会」　中部地区医師会
　○ 平成28年度第4回広報委員会　県薬会議室
11金○ 個別指導　沖縄県八重山合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、山城専八重山地区会長、幸地理事
　○ 平成28年度第3回沖縄県がん診療連携協議会　琉球大学医学部管理棟　亀谷会長
12土○ 沖縄県看護協会創立65周年記念式典・祝賀会（記念講演・祝賀会）　沖縄県看護協会　亀谷会長
　○ 平成28年度第8回定例理事会　県薬研修室
13日○ 日本薬局協励会第66回九州合同大会in沖縄　ホテルロイヤルオリオン　亀谷会長
　○ **第137回健康とおくすり相談会**　沖縄セルラースタジアム　担当：那覇地区薬剤師会
　○ **平成28年度女性薬剤師部会第19回漢方講座**　県薬ホール
14月○ 薬学生実務実習（夜間救急）　会営薬局医療センター前　城間薬局長、柴田忠佳氏
　○ 平成28年度第10回臨時幹事会　県薬会議室
15火○ 沖縄「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研修会（中部地区）　中頭病院　共催：大日本住友製薬(株)
　○ 薬学生実務実習受入委員会　県薬会議室
　○ 平成28年度第3回医療安全対策委員会　県薬ホール

16水○ 沖縄「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研修会（南部地区）　沖縄協同病院　共催：大日本住友製薬(株)
○ 中部地区薬剤師会「健康とおくすり相談会のための研修会」　県薬研修室
○ グッジョブにしはら☆わくわくワークに関する打合せ会　県薬ホール　亀谷会長、伊差川サヤカ氏、儀間祐希氏、上里美矢子氏、宮里威一郎氏、宮城勇己氏、座波里奈氏、浜元善仁氏、神山侑子氏、石川有美子氏、大城課長
17木○ 平成28年年末調整説明会　沖縄コンベンションセンター　事務局前原・上原
○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満常務理事
○ 琉球大学漢方医学研究会　琉球大学医学部基礎研究棟　共催：(株)ツムラ
○ 沖縄県薬学セミナー　自治会館　共催：キッセイ薬品工業(株)
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」（株)ダイコー沖縄
○ 医療保険委員会　県薬研修室
18金○ 睡眠薬を語る会〜依存と転倒予防〜　沖縄かりゆしアーバンリゾートホテル･ナハ　共催:エーザイ(株)
19土○ **第138回健康とおくすり相談会**　浦添市保健相談センター　担当：那覇地区薬剤師会
○ 平成28年度第1回基幹型認知症疾患医療連携協議会　沖縄県医師会館　中尾滋久委員（地域保健開局委員会）
○ 青年部会役員会　県薬会議室
○ 沖縄認知症ネットワーク研究会第28回学術集会　沖縄県医師会館　共催：エーザイ(株)
20日○ 第3回グッジョブにしはら☆わくわくワーク　西原町町民交流センター　上里美矢子氏、金城春樹氏、儀間祐希氏、宮里威一郎氏、宮城勇己氏、座波里奈氏、浜元善仁氏、神山侑子氏、石川有美子氏、大城課長
○ **第139回健康とおくすり相談会**　うるま市健康福祉センターうるみん　担当：中部地区薬剤師会
21月○ 第22回麻薬覚醒剤乱用防止運動沖縄地区大会　浦添市てだこホール　吉田久子氏（受賞者)、亀谷会長
22火○「勇気の証言ーホロコースト展 アンネ･フランクと杉原千畝の選択」沖縄展オープニングセレモニー　浦添市民体育館　亀谷会長
○ 中部地区研修会「沖縄県中部地区不眠症治療学術講演会」　ヒルトン沖縄北谷リゾート
○ 第143回健康とおくすり相談会（離島フェア）の打ち合わせ　県薬研修室　地域開局委員会
24木○ 損保ジャパン日本興亜沖縄代理店より来訪　県薬会長室　亀谷会長、山城次長、大城課長
○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満常務理事
○ 集団的個別指導（38薬局）　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
○ 南風原町民生部こども課より来訪（南風原町子ども医療費現物給付説明会について）　県薬会議室　山城次長・長嶺
○ 平成28年度第4回学術研修委員会　県薬研修室
○ 災害対策委員会　県薬会議室
25金○ 平成28年度都道府県薬剤師会スポーツファーマシスト担当者研修会　TKPガーデンシティ渋谷　薬事情報センター吉田典子
○ 糖尿病合併症治療学術講演会　コスタビスタ沖縄　日本イーライリリー(株)

26土○ **第140回健康とおくすり相談会**（27日迄）　沖縄セルラースタジアム　担当：地域保健開局委員会
27日○ 沖縄県歯科医師会「糖尿病と歯周病に関する意見交換会」　沖縄県口腔保健医療部医療センター　沖山尚美氏
○ **学術研修委員会主催「ジェネリック医薬品に関する研修会」**　県薬ホール　講師：中村建先生
28月○ 月次会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
29火○ 薬剤師無料職業紹介所定期指導　県薬会議室　大城課長
○ 抗凝固療法の今後を考える会～テクノロジーの進化と共に～　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
○ 平成28年度沖縄県医療保険連合（なごみ会）幹事会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長・江夏副会長
○ 平成28年度沖縄県医療保険連合（なごみ会）懇親会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長・江夏・前濱両副会長・山里・宮城・川満各常務理事
30水○ 沖縄県国民健康保険課より来訪　県薬会議室　山城次長

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成28年11月

5土○ 宏池会懇親会　ロワジールホテル那覇　亀谷会長、山城次長
20日○ 西銘恒三郎衆議院国土交通委員長就任祝賀会　パシフィックホテル沖縄　亀谷会長、山城次長
21月○ 第三回沖縄振興セミナー「沖縄から日本を創る」　ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城　亀谷会長、山城次長
27日○ 自由民主党沖縄県支部連合会総務会　ロワジールホテル那覇　亀谷会長

訃 報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

桑江 由利子 先生（享年66歳）　平成28年12月4日ご逝去

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願いします。

【連絡先】県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

『ゆんたく・琉球八社』

季節は冬である。12月、夜になると町はイルミネーションで華やかさを増す。クリスマス気分を盛り上げようとしているが、何と毎日25℃と日差しは強く夏にまた戻ったようだ。晴れた日が続いて行楽にはもってこいである。そんな12月11日に琉球新報カルチャースクールの琉球八社と史跡めぐりのツアーがあり、小生達家族3名で参加することになった。以前に、八社中の七社は参拝したが、残る一つの金武宮がコースにあるので大いに楽しみである。

最初の金武宮まで2時間位かかるとのことで、用心のためトイレに行くと、いきなり男に声をかけられた。太ってがっしり、頭も小生よりツルツルで一見お坊さんかレスラーかと思わせる。

「ワシ､神戸から来てんねん｡一人やさかい、よろしゅう頼んます｡」

ツアー仲間と見て声をかけたようだ。バスに乗ると座席の関係で最後部に行くと既に座っている。5人掛けだが、なぜか彼の隣りが空いている。そこへ座る。バスが動く。今日の講師の先生が紹介される。開口一番､「今日は物見遊山より皆さん歴史を勉強しようではありませんか。6時間目までありますよ。」とのことである。小学校の校長を退職後、歴史研究家となった先生は昔の教鞭をとる。小生は小学生気分である｡およそこんな話である。

「琉球八社とはどう言うことか、まずその前に、神道と仏教について話します。仏教はインドでゴータマ・シッダッタが社会と人間性に疑問を持ち、修行を重ねて釈迦となり、悟りを開いて仏教を広めた。これが中国から朝鮮の百済を経て日本に伝わる。これは大乗仏教と言う。この時期、日本は世相が乱れ疫病も流行っていた。人間は死期が迫ってくると自分は死んだ後どうなるだろうと大いに不安になる。人間は死んだら閻魔大王の前に引き出され裁判を受ける。そして生前の良い行いをした者は浄土（極楽）へ、何もしなかった者、悪事を働いた者は三途の川から血の池地獄、針の山、餓鬼道へと落とされる。そのような事を言い聞かされていたから何とか助かりたいとの思いから宗教に入る。仏様にすがるので仏教もわりにすんなりと受け入れられた。時代の節目節目に偉い坊さんが現れ、それぞれの宗派が出来たのである。真言宗・臨済宗など、また江戸時代以降はお題目を唱えるだけで成仏できるという宗派もできた。南無阿弥陀仏とか南無妙法蓮華経と言った他力本願の考え方である。神道は日本独特で、神様が多い八百万の神々である。伝説上の人、学問や武勇の誉れ高い人、大きな奇岩、老大木も神様となるのである。ちなみに全国に4万社以上を持つ総本社である大分県の宇佐神宮の御神体は臣岩であると聞いたことがある。チョット定かではないが…。そのようなバックグラウンドがあって明治政府は全国に神社と仏様のお寺を同じ敷地内に建てて神仏混合の有難い場所をつくる通達をした。民心の安定を計る意図だろうか。その流れの一環として琉球八社もできたのであろう｡但し、お寺は必ず真言宗でなければならないという縛りがあったので、他宗から変えて受け入れた所があったのである｡」

さぁ！金武宮に着いた｡念願の場所である。先生の舌は滑らかになり、ジェスチャー入りで一番楽しんでいるようである。ここは戦禍を免れたお寺がしっかり残っている。その姿は雨風に打たれ､時を経て貫禄がある。さて、神様はどちらへ。同じ敷地内にある洞窟の中に祭られているとのこと。そこは急な階段で足元はとても悪い。転ばぬように慎重に降りると、暗い所に神棚が設置されていた。こんな所にと淋しい思いがした。

次に移動する。バスの中、隣の彼は資料をめくっているので「熱心ですね、何か思いがあるんですか？」と言うと、「若い時、色々とワルやりましてネ。反省し、心を洗い清めにとネ…それはありませんがネ」笑う。

普天間神宮へ着く。ここは大いに繁盛している。境内に多くの人達が行き交い、社務所も大きく、赤い袴の数人の巫女達も忙しく動いている。ここも神様は洞窟の中に祭られていたが、今では拝殿の後方に社を造りウンチケー※1したのである。地域の人々の信仰の中心的存在になっていると思われる。

これから昼食である。宜野湾市にあるフェストーネのレストランのバイキングなので先ず席を見つける。4人掛けのテーブルをゲットすると、彼が小生を見つけて、「ご一緒させていただきます。」と座る。2人を紹介すると、「ご家族でしたか、気付かず失礼しました。それにしてもお美しい方ですね」「え～まぁ～」と妻が先に反応する。「長女と次女なんです」と言いたそうである。食事の間中、彼は失敗談や大阪の話題など関西弁でジェスチャーを交えて話す。2人は笑いっぱなしである。このツアーはショート・ショートの小さい旅とすると良き旅の道連れなのだ。

那覇へ向かう。天久宮・安里八幡宮・末吉宮・識名宮と巡る。この四社は前に書いたので割合させてもらうことにする。

波之上宮へ到着する。ここは毎年初詣でするので馴染みの場所である。やはり沢山の参拝者がいるが、ここには次のようなエピソードがある。1846年、キリスト教の布教のために琉球に来たベッテルハイム※2は宣教師で医者であった。波之上宮併設の護国寺に住む事になったが、布教を嫌った首里王府は見張りをつけたから余り自由には動けなかったようである。こんな彼の元で西洋医学を学んだ医師がいた。仲地紀仁である。当時、琉球では疱瘡（天然痘）が流行し多くの死者が出たので、ここで仲地はジェンナー※3の牛痘接種を学び、実践し、病気の沈静化に尽力したのである。この2人の業績を讃えて名前を刻んだ碑が仲良く並んで設置されている。琉球八社はそれぞれが熊野権現※4のイザナミの尊（みこと）※5や他の権現様をウンチケーして設立しているが、それぞれにエピソードも多く、参拝が面白い。

最後は沖ノ宮である。ここにはいろいろ思いもあるが、紙面の都合で次回に譲りたい。チョッピリ心残りである。小生達と神戸の彼はここでツアーから外れるのである。彼と道連れになったことで、一日の楽しさが2倍にも3倍にもなった。感謝、感謝である。お互い最後まで名乗らずに別れるのも粋かな…

橋の下

※1：案内の丁寧な言い方。
※2：バーナード・ジャン・ベッテルハイムは、日本に派遣されたキリスト教宣教師。また、沖縄県地域最初のプロテスタント宣教師でもある。
※3：エドワード・ジェンナーは、イギリスの医学者。それまで行われていた人痘接種より安全性の高い種痘（牛痘接種）法を開発した近代免疫学の父。
※4：熊野権現（くまのごんげん）は、熊野三山に祀られる神。権現は、日本の神の神号の一つ。
※5：イザナミの尊（伊邪那美命・イザナミノミコト）。イザナとはいざなう、誘い合う男と女という意味である。イザナミは愛に生きた女神。

誌上ギャラリー（裏表紙）について

上 :「黄葉眩しい並木道」photo by 成川 玲子（レオナ薬局） 撮影地：スウェーデン

中央 :「ヴルタヴァ川とプラハ城」photo by 廣川 直子（ハイジア薬局） 撮影地：チェコスロバキア

左下 :「縁起物」photo by 伊集 智英（くはら薬局）撮影地：沖縄美ら海水族館

編集後記

年の瀬をいかがお過ごしでしょうか？私は、年末恒例の「第九」「メサイア」の演奏会で耳薬（みみぐすい）。忘年会の料理とお酒で命薬（ぬちぐすい）。と言いたいところですが、時間に追われ、仕事に追われて、、、迷路に入り込み「ここはどこ？」「私は誰？」と惚けています。「時間を操る薬」「願いが叶う薬」があったらな〜。おトボケついでに妄想族になっています。良いお年を！（クララ）

巷では、早々にジングルベルが聞こえ、クリスマスムードでいっぱい。常夏に近い沖縄では、何ともピンとこない。12月に入り訪ねた福岡では駅前広場にドイツのクリスマス市が再現。小屋も販売物もドイツ。黒い森の木の置物、ベルリン名物カリーブルストにクリスマスに欠かせないシュトレン。そこそこ冷えており、グリューワイン（ドイツの香辛料たっぷりのホットワイン）と書かれた小屋では、ドイツ人らしき青年が販売中。聞けばドイツ人留学生が協力しているとの事。体も温まって風邪知らず！なんて思った2日後には嘔吐に下痢と胃腸炎。ドイツかぶれを反省し、うちなーんちゅの私は黄色い人参でシンジを作り養生したのでした。ターイユのシンジ、チムのシンジ…祖母が元気なうちに食材の組み合わせを聞いておけばよかった。　（TOMO）

猫の手も借りたいほど忙しい薬局があるので少しでも良いから手伝って欲しいと言われ、自分の実力も顧みずにその気になってしまった。卒業してからずっと自分の薬局という小さな空間の中で、生きてきた私にとって、その薬局での仕事はすべてが目新しいことの連続であった。毎回行くたびに、新しい発見があってそして失敗。というより失敗の中に新しいことを学んでいく繰り返しで毎回おもしろくて仕方がない。薬品棚の見事な不揃いは頭の体操で闘志をかき立てられる。錠剤バラスター・軟膏練り太郎はとても気に入った。特に全自動錠剤包装機は油断すると機器に負けてしまうのでとても緊張するが早く自在に扱いたい。これらは高額商品なので零細薬局ではとても購入できるような代物ではないのですべてが初体験であった。と、ここまで書くと実務実習生と何ら変わらないではないかと思えて少し悲しくなるが、薬局の皆様の優しさに甘えて「もう来なくても良いです」と言われるまで続けようかと思う。　（ピアナ）

一年もあっという間で、来年は何をしようか、なんてわくわくしながら星空を眺めていたら、各星座にはキーフレーズがあることをふと思いを出した。私のおうし座は"I HAVE"で、所有欲が強い星の生まれらしい。物をためてしまうのはこの星のせいか!?机の上の物をみて、来年の前にまず大掃除だ。毎年言っている気がする･･･。　（いさ吉）

前シーズンは家族全員インフルエンザにかかった。予防接種をしていたのは私だけ。妻と子供を看病していた私もウイルスも猛威に負けて結局インフルエンザに…。なので、今年は家族みんな予防接種をした。上の子は注射するよと言ったら前日から嫌だーと泣いていたが、泣かずに注射できたらあれ買ってあげると目の前に人参をぶら下げたら見事に泣かずにできた。前日わんわん泣いてたのに「俺もう注射大丈夫だし！」と得意げに、かわいらしかった。家には空気清浄器も設置､準備万端！でも今年のワクチンは高かったし痛かったな…。　（みつなり）

今年を振り返ってみると、新店舗の開局に携わったのを皮切りに仕事内容も増え、激動の一年であっという間に時が過ぎた気がする。それとも、ただ単に年齢が40代に突入して早く感じるだけなのだろうか‥　まあ、凄く充実していたことは間違いないのではあるが‥　今のモチベーションを維持しつつ、来年はあらゆる分野にチャレンジしたい。薬剤師としてのスキルアップはもちろんのこと、別の何かがあるような感覚に奮い立たされる。何をするかは明確ではないにしても、まずは情報収集が重要だと思う。そこには人との繋がりが必須となってくるのは言うまでもない。今後も人との出会いを大切にし、自分の可能性を更に高めていければ幸いだと感じつつ今年を締めくくりたい。　（ごり）

12月です。師走です。師は走るというほどではないのですがそれなりにバタバタしているこの頃です。さて、診療報酬改定から半年以上が経ち、徐々に新しい形が薬局内でもできてきていますが、忘れてはいけないのが、かかりつけ薬剤師の届出に伴う、認定薬剤師についてです。自身も、以前に持っていた認定がいつの間にか失効して、改めて認定薬剤師を申請する形となりましたが、どうにも手続きに時間がかかる様子。既にかかりつけ薬剤師として、点数を算定している諸薬剤師の皆さんはぬかりないとは思いますが、是非早め早めの手続きを!ぬかりだらけでいつの間にか12月になった自身の教訓でした。　（松）

沖縄県薬剤師会

〒901-1105　沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10　http://www.okiyaku.or.jp　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事　　務　　局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932　■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946　■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1　TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1　TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第285号　平成28年12月19日発行

◇次号は、平成29年2月初旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会　会長　亀谷浩昌
編　集：広報委員会　委員長／宮城敦子　委員／池間記世・前濱朋子・鈴木一徳・石川恵市
伊敷松太郎・伊差川サヤカ　久米島通信員／山城晶　宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／宮良善朗　事務局／大城喜仁
印　刷：有限会社 Skill

誌上ギャラリー
（会員作品）
お気軽にご投稿下さい。

定価四〇〇円（会員の購読料は含会費）